

【プレゼンテーション資料】

2008年度経営方針説明会

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2008年5月26日

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

本日のagenda(15:00～17:00)

■2007年度 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス(株)代表取締役副社長 藤方 弘道

■2008年度 経営方針説明

ソニーフィナンシャルホールディングス(株)代表取締役社長 徳中 暉久

ソニー生命保険(株) 代表取締役社長 於久田 太郎

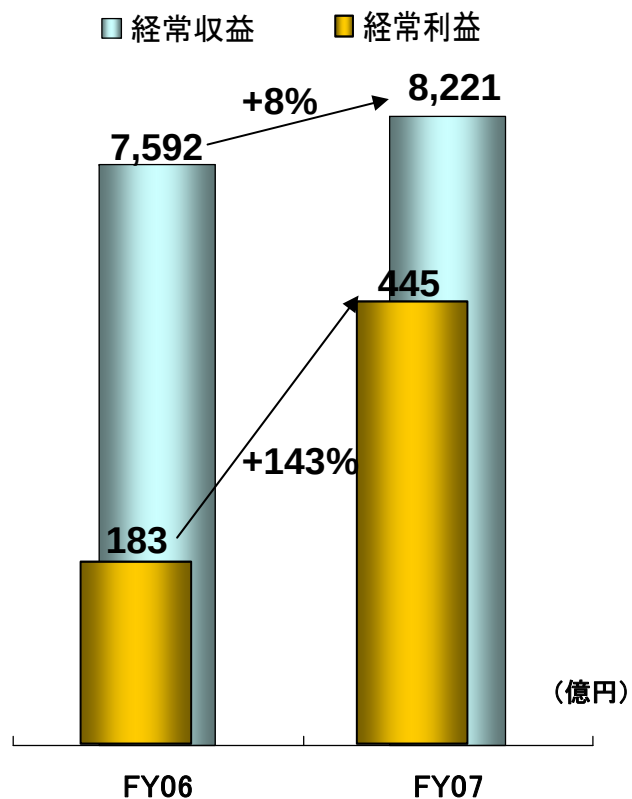
ソニー損害保険(株) 代表取締役社長 山本 真一

ソニー銀行(株) 代表取締役社長兼CEO 石井 茂

■質疑応答

2007年度 連結業績のご説明

連結業績ハイライト



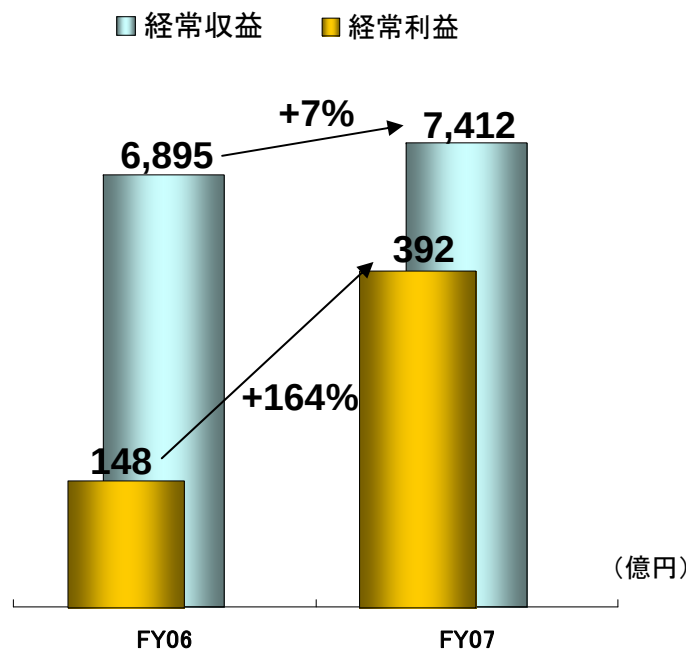
(億円)		FY06	FY07	前年度比	
生命保険事業	経常収益	6,898	7,413	+514	+8%
	経常利益	148	390	+241	+163%
損害保険事業	経常収益	510	556	+46	+9%
	経常利益	20	28	+7	+38%
銀行事業	経常収益	194	259	+65	+33%
	経常利益	13	24	+10	+77%
全社又は消去	経常収益	▲10	▲8	+2	—
	経常利益	0	2	+1	—
SFHG連結	経常収益	7,592	8,221	+628	+8%
	経常利益	183	445	+261	+143%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

連結業績ハイライト

- 生命保険事業では、保有契約高・新契約高（個人保険＋個人年金保険）ともに堅調に推移。一般勘定の資産運用収益が増加したこともあり、経常収益、経常利益ともに増加
- 損害保険事業では、自動車保険を中心に契約件数が順調に増加。正味収入保険料の増収、損害率の改善により、経常収益、経常利益ともに増加
- 銀行事業では、業容の順調な拡大にともなって資金運用収益などが増加し、経常収益、経常利益ともに増加
- 連結ベースの経常収益は、前年度比8%増の8,221億円。経常利益は、有価証券評価損（減損処理額）を98億円計上するも前年度比262億円増加（+143%）の445億円。当期純利益は、前年度比142億円増加（+142%）の242億円
- 国内株式市場の下落に伴い、その他有価証券評価差額金は、前年度末比501億円減少の749億円。連結純資産は前年度末比85億円減少の2,616億円、連結総資産は前年度末比6,536億円増の4兆9,774億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



【ソニー生命】

- ◆ 前年度比 増収増益
- ◆ 新契約高は前年度比10.9%増加
- ◆ 保有契約高の堅調推移により保険料等収入が増加
- ◆ 一般勘定の資産運用収益が増加
- ◆ 特別勘定運用損、有価証券評価損および金融派生商品費用の計上等により、資産運用費用が増加
- ◆ 純資産はその他有価証券評価差額金が前年度比459億円減少したことに伴い、同338億円減少の1,826億円
- ◆ 解約・失効率は前年度比0.33pt上昇の6.12%

(億円)	FY06	FY07	前年度比	
経常収益	6,895	7,412	+516	+7%
保険料等収入	6,055	6,484	+428	+7%
資産運用収益	787	874	+87	+11%
うち利息および配当金収入	342	479	+136	+40%
うち金銭の信託運用益	121	147	+26	+21%
うち有価証券売却益	118	240	+121	+102%
うち特別勘定資産運用益	149	—	▲149	—
経常費用	6,746	7,019	+272	+4%
保険金等支払金	2,193	2,411	+217	+10%
責任準備金等繰入額	3,496	2,862	▲634	▲18%
資産運用費用	81	698	+617	+754%
うち特別勘定資産運用損	—	483	+483	—
事業費	873	943	+70	+8%
経常利益	148	392	+243	+164%
当期純利益	74	185	+110	+147%
基礎利益	243	235	▲7	▲3%
有価証券残高	22,179	23,889	+1,710	+8%
責任準備金残高	30,888	33,750	+2,862	+9%
純資産額	2,165	1,826	▲338	▲16%
総資産額	34,459	36,597	+2,138	+6%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

保有契約高、新契約高、解約・失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。また、解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

ソニー生命 主要業績指標(単体)

(単位: 億円)

	2006年度	2007年度	増減率
保有契約高*1	302,444	314,973	+ 4.1%
保有契約年換算保険料*1	5,046	5,300	+ 5.0%
うち第三分野	1,174	1,228	+ 4.6%
解約・失効率*1,*2	5.79%	6.12%	+ 0.33pt
新契約高*1	34,294	38,025	+ 10.9%
新契約年換算保険料*1	655	634	▲3.2 %
うち第三分野	144	133	▲7.7 %
保険料等収入	6,055	6,484	+ 7.1%
資産運用損益	705	175	▲75.1 %
基礎利益	243	235	▲3.3%
逆ざや額	373	267	▲28.4%
平均予定利率	2.77%	2.68%	▲0.09pt
ソルベンシー・マージン比率	1,852.0%	1,747.9%	▲104.1pt
実質純資産額	6,455	6,120	▲5.2%
エンベディッドバリュー(EV)	9,005	8,338	▲7.4%

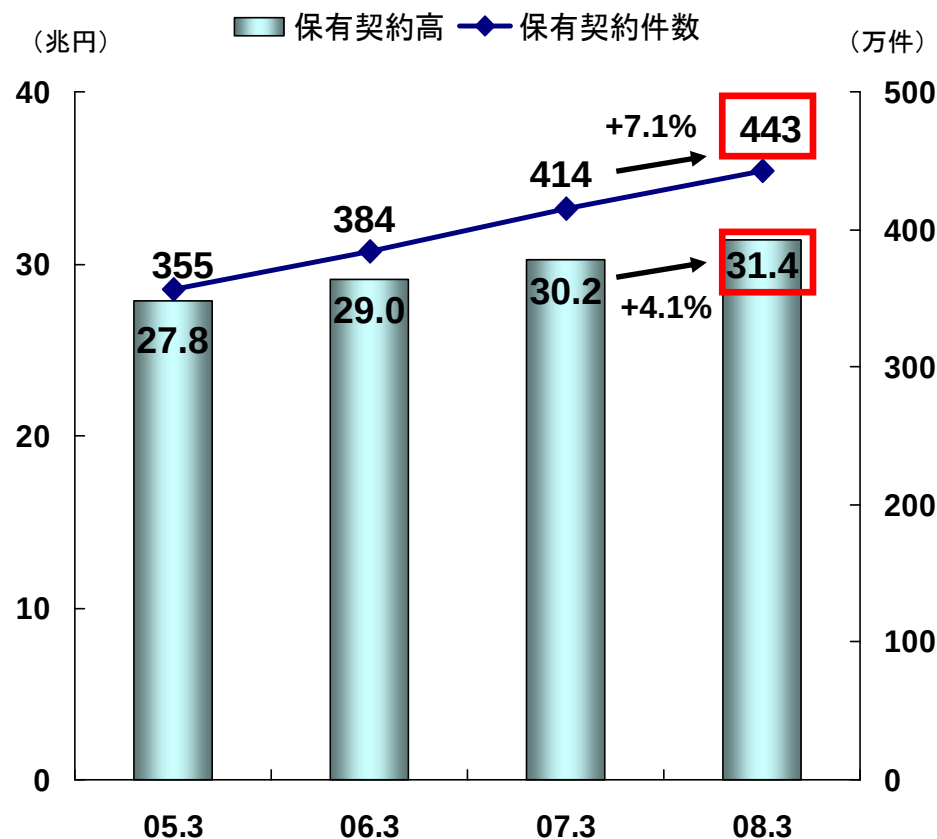
*1)保有契約高、保有契約年換算保険料、解約・失効率、新契約高、新契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。

*2)解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

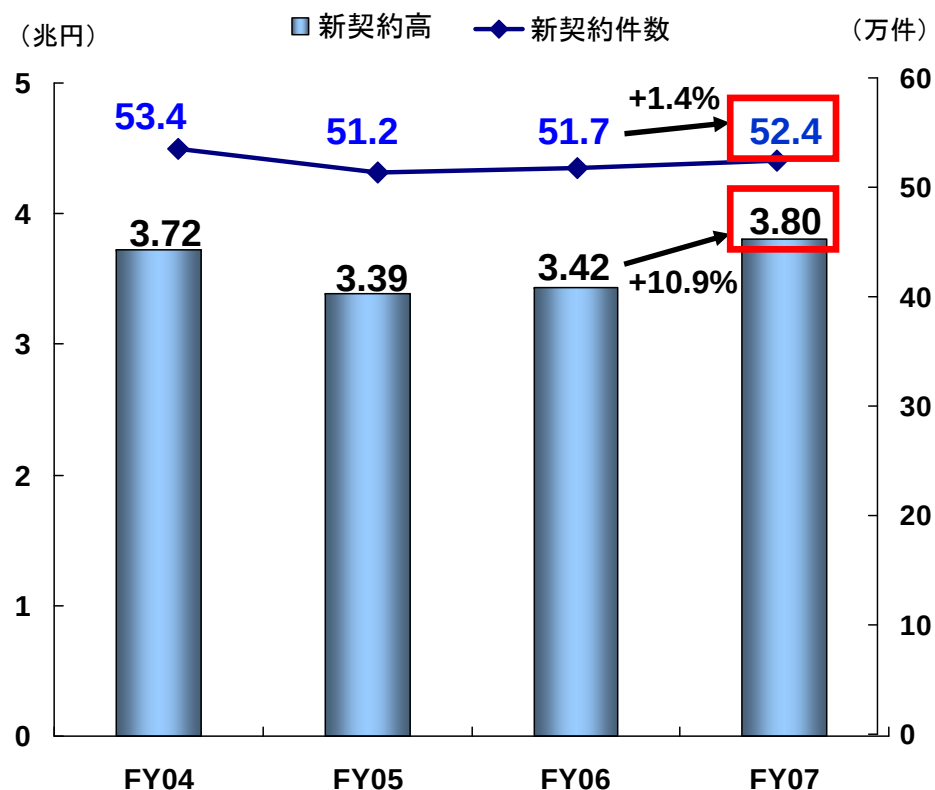
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(1)

保有契約高(個人保険+個人年金保険)



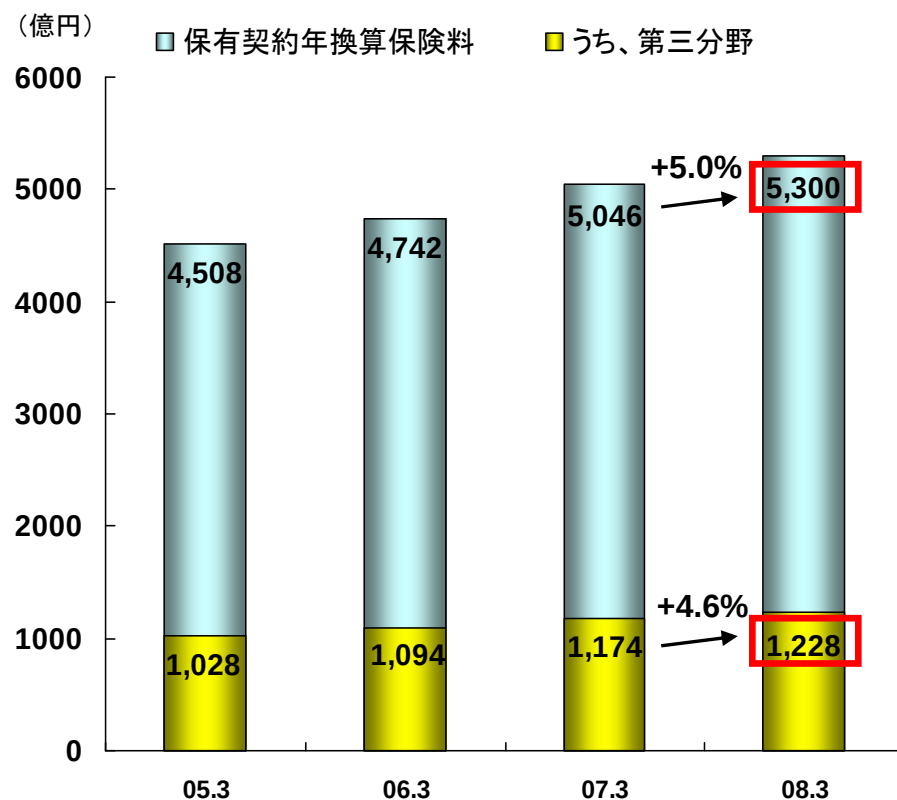
新契約高(個人保険+個人年金保険)



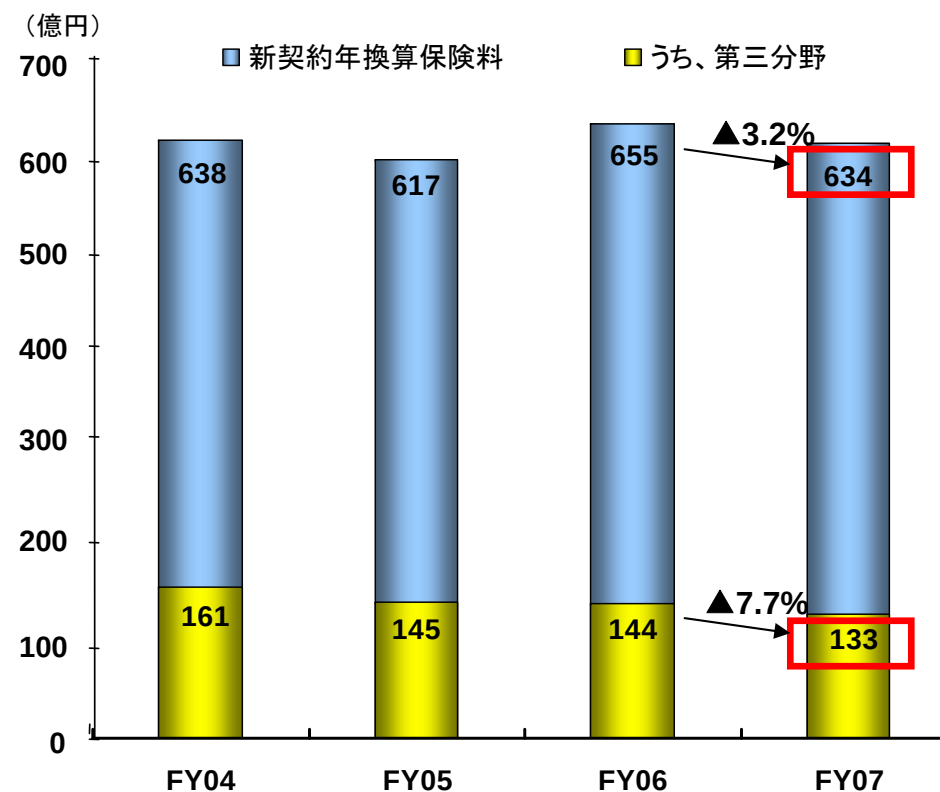
金額は千億円又は百億円未満切捨て、件数は万件又は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(2)

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



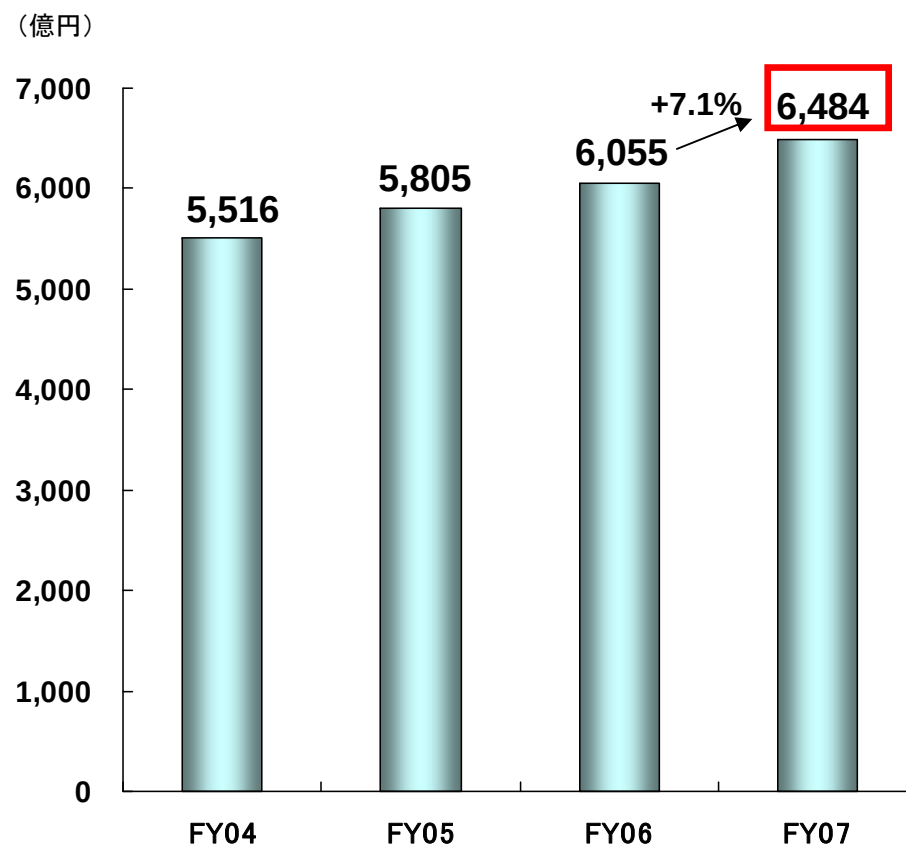
新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



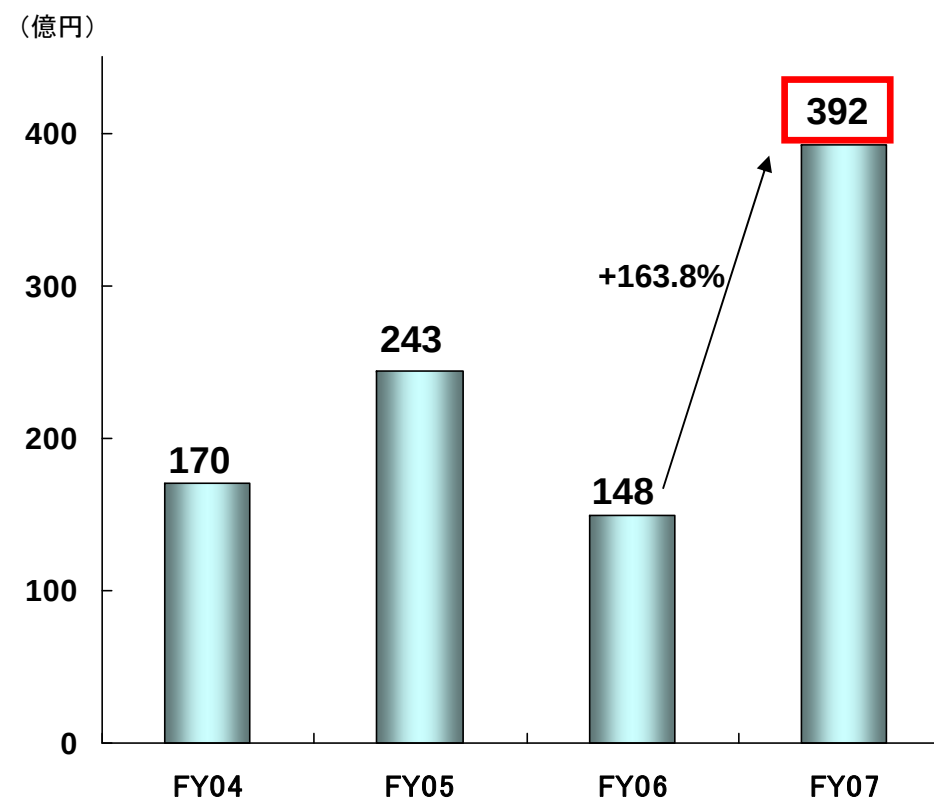
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の業績(3)

保険料等収入



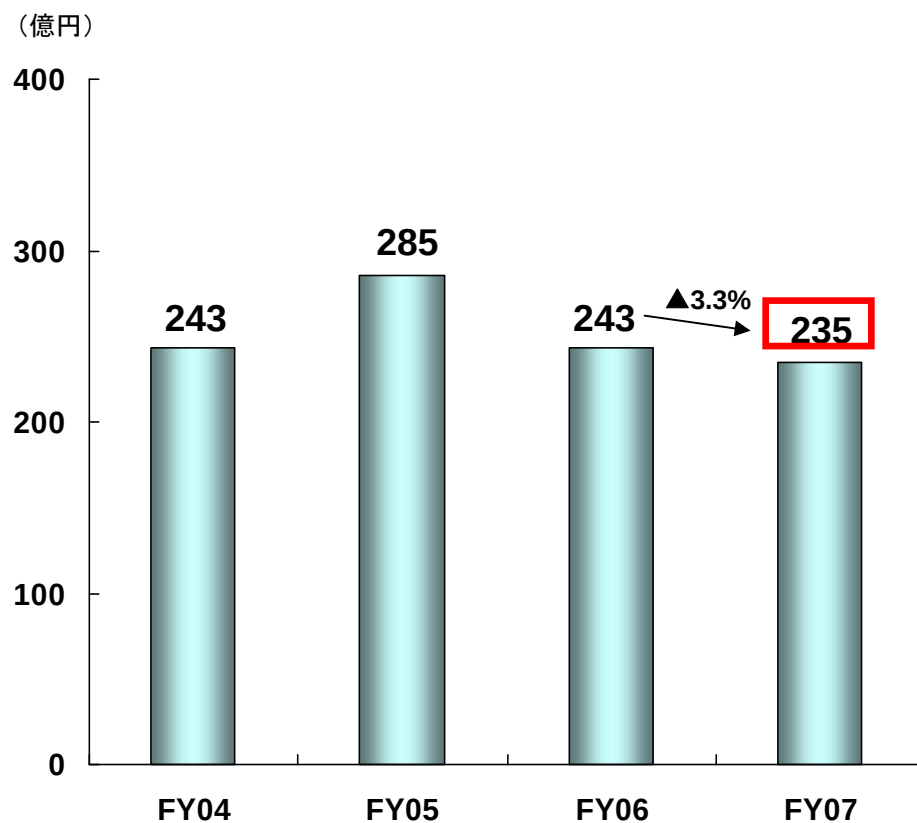
経常利益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

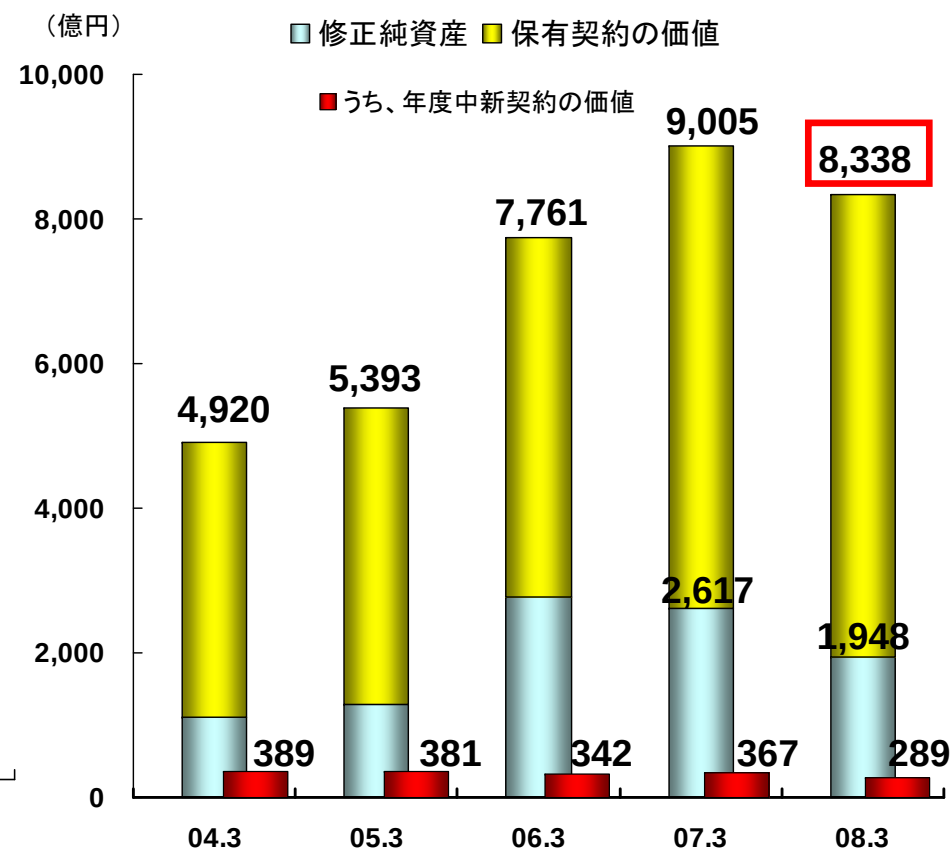
ソニー生命の業績(4)

基礎利益



金額は億円未満切捨て

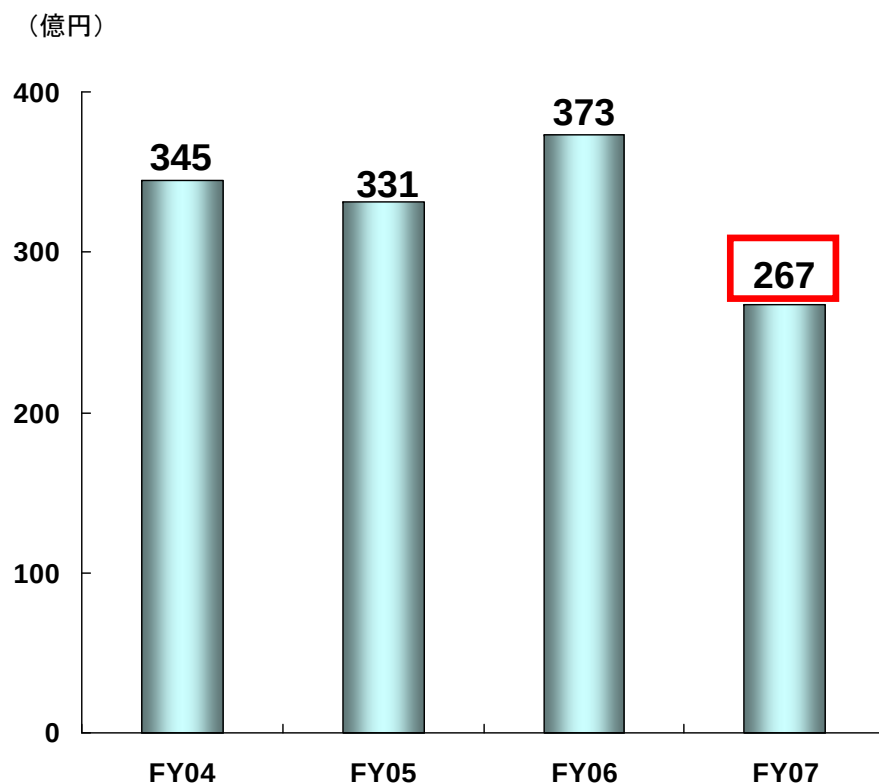
エンベディッドバリュー(EV)



FY03、FY04、FY05、FY06、FY07末のEVは、前提条件及び計算方法がそれぞれ異なります。EVの前提条件など詳細については、各プレスリリースをご覧ください。

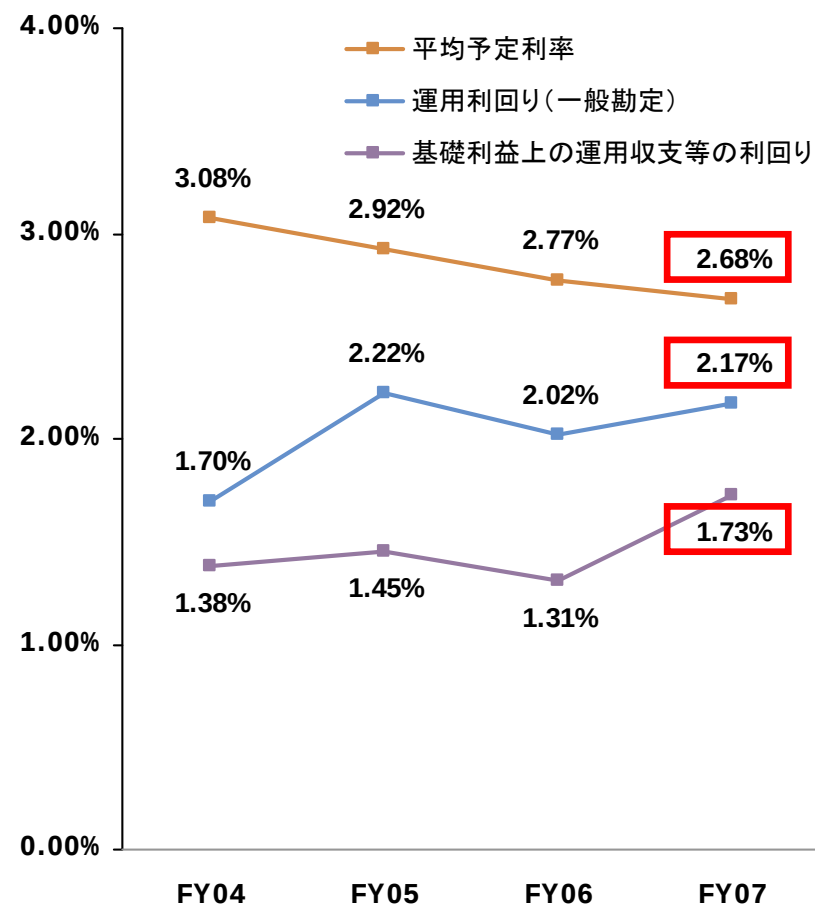
ソニー生命の業績(5)

逆ざや額



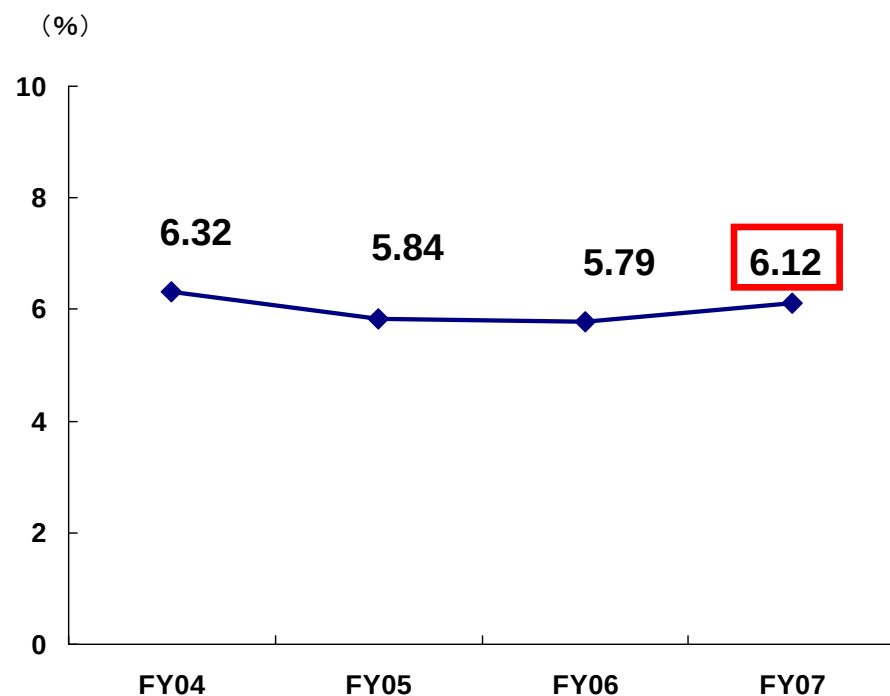
金額は億円未満切捨て

平均予定利率に対する基礎利益上の運用収支等の利回りと運用利回り(一般勘定)

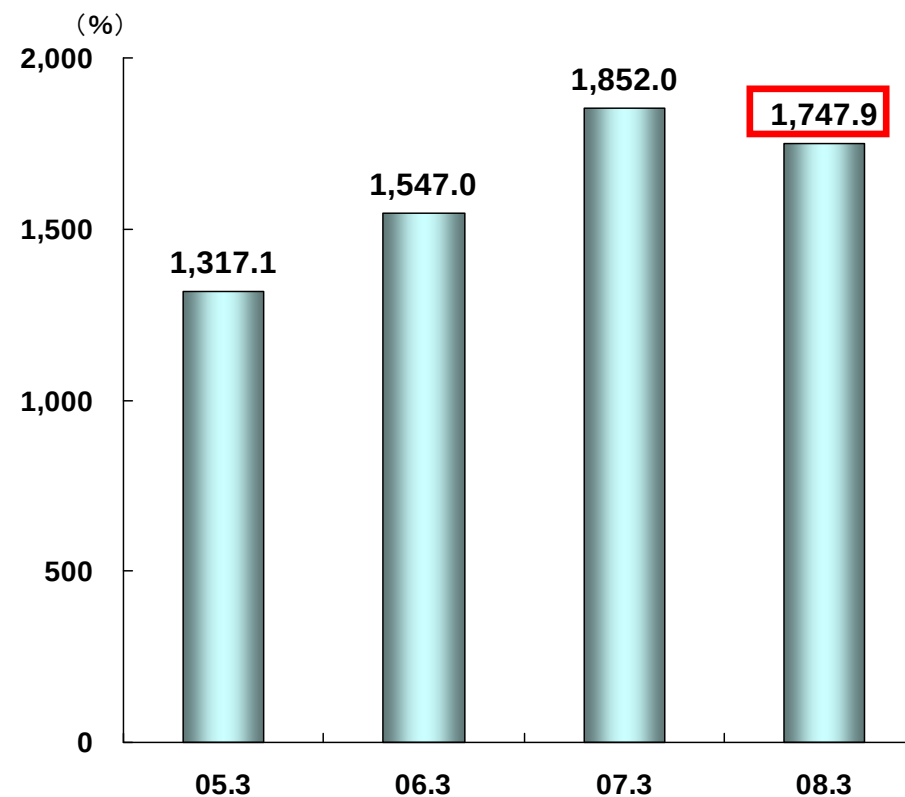


ソニー生命の業績(6)

解約・失効率*(個人保険+個人年金保険)



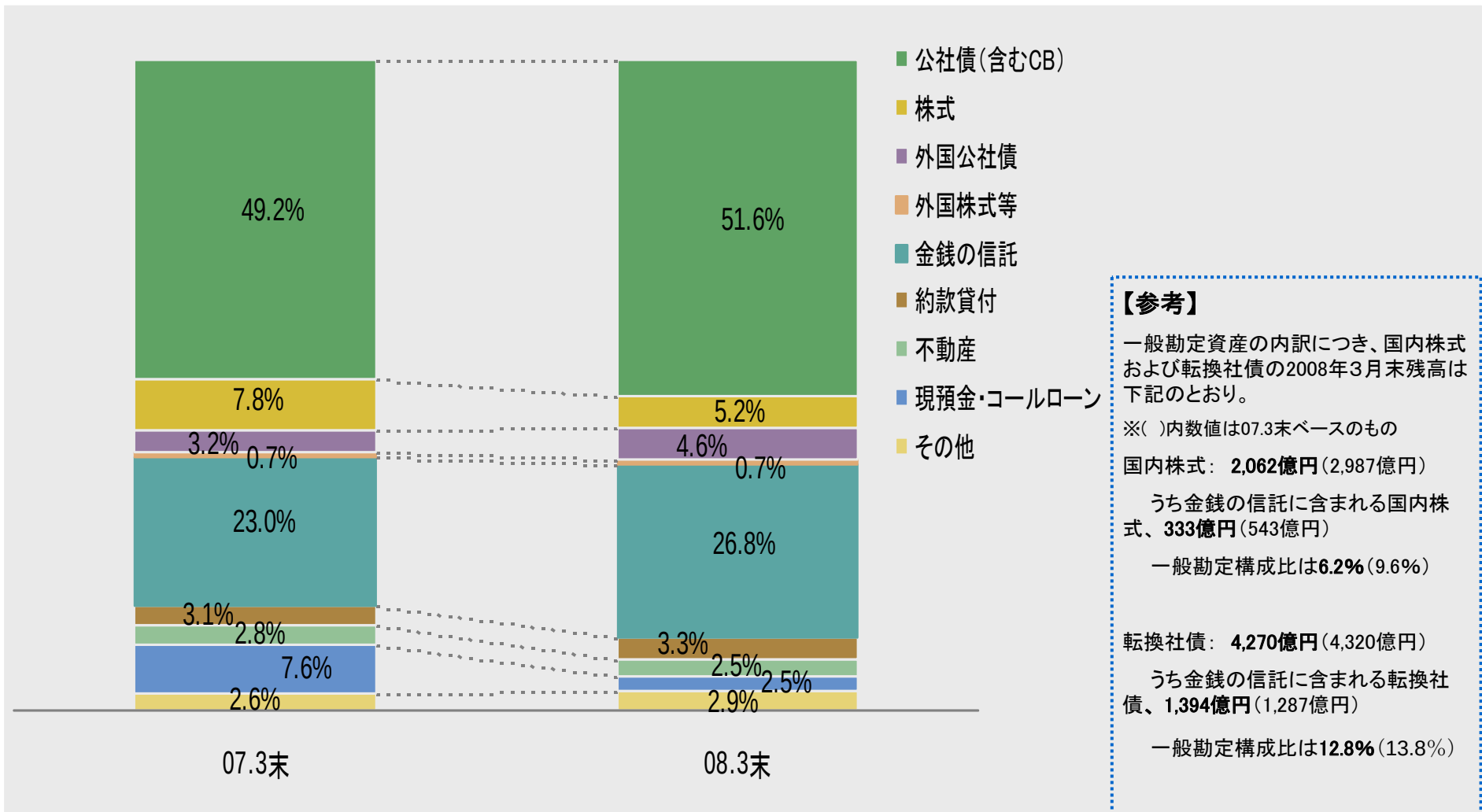
ソルベンシー・マージン比率



*解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出した数値です。

ソニー生命の業績(7)

一般勘定資産の内訳(08.3末 VS 07.3末)



ソニー生命の業績(8)

一般勘定資産の差損益(08.3末 VS 07.3末)

(単位:億円)

	07.3末	08.3末	増減額
公社債	571	834	263
株式	1,300	508	▲791
外国証券	42	▲95	▲137
その他の証券	68	30	▲38
合計	1,982	1,278	▲704

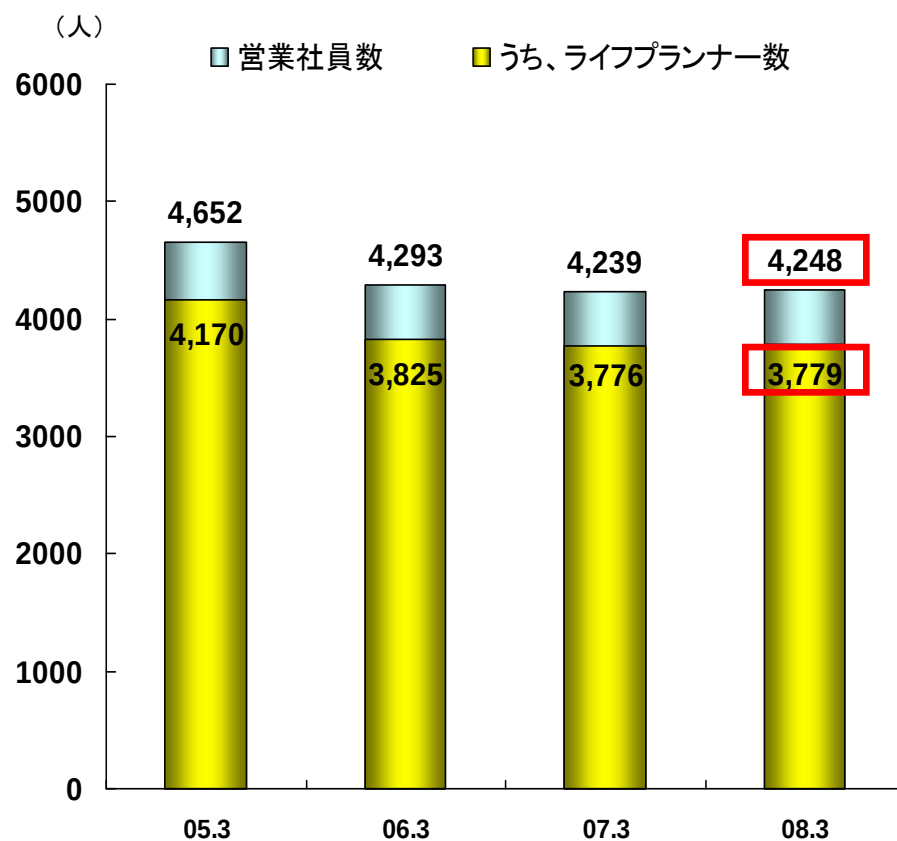
金額は億円未満切捨て

<主な変動要因>

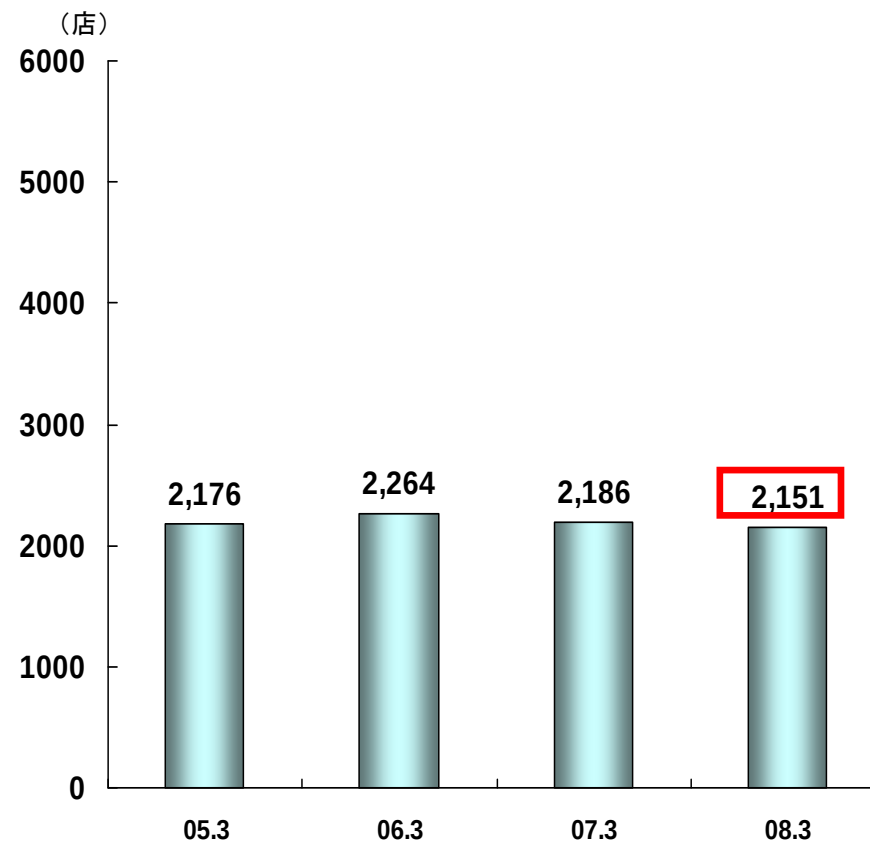
- 金利低下により公社債の差益は増加。一方、国内株式市場の下落による国内保有株式の時価下落により株式の差益は大幅に減少。
- 米国サブプライムローンを裏付けにした証券化商品は保有していない。

ソニー生命の業績(9)

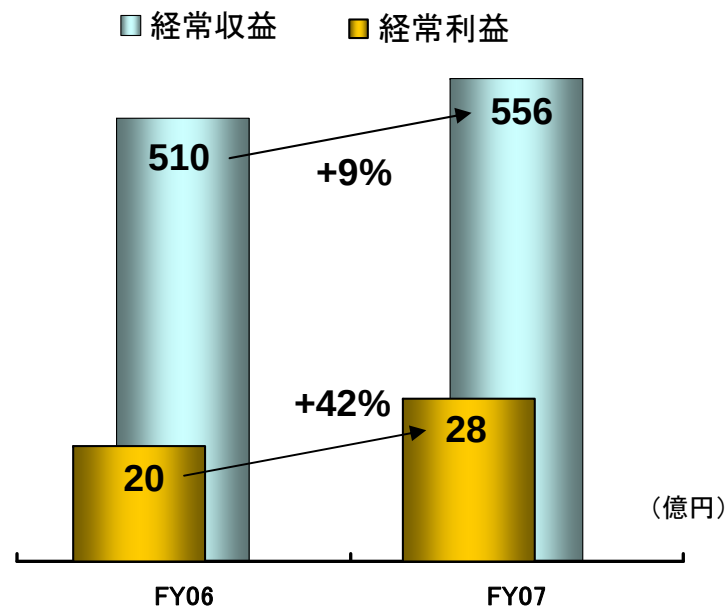
営業社員およびライフプランナー在籍数



代理店数



ソニー損保 業績ハイライト



【ソニー損保】

- ◆前年度比 増収増益
- ◆主力の自動車保険の契約件数の増加により
正味収入保険料は9%増加の550億円
- ◆正味収入保険料の増加に加え、損害率の安定的な推移により、経常利益は28億円
- ◆コンバインド・レシオは、0.4ポイント上昇の80.3%

(億円)	FY06	FY07	前年度比	
経常収益	510	556	+46	+9%
保険引受収益	504	550	+45	+9%
資産運用収益	4	5	+1	+22%
経常費用	489	528	+38	+8%
保険引受費用	364	389	+25	+7%
資産運用費用	0	0	+0	+82%
営業費及び一般管理費	124	138	+13	+11%
経常利益	20	28	+7	+38%
当期純利益	15	21	+5	+37%
有価証券残高	511	562	50	+10%
責任準備金残高	361	427	66	+18%
純資産額	133	153	+20	+15%
総資産額	674	786	+111	+17%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保 主要業績指標

(単位: 億円)

	2006年度	2007年度	増減率
元受正味保険料	501	546	+9%
正味収入保険料	504	550	+9%
正味支払保険金	241	262	+9%
保険引受利益	16	22	+41%
正味損害率	53.6%	53.5%	0.1pt改善
正味事業費率	26.3%	26.7%	0.4pt上昇
コンバインド・レシオ	79.9%	80.3%	0.4pt上昇
ソルベンシー・マージン比率	1,009.7%	1,073.9%	64.2pt上昇
保有契約件数	93万件	102万件	+ 10%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

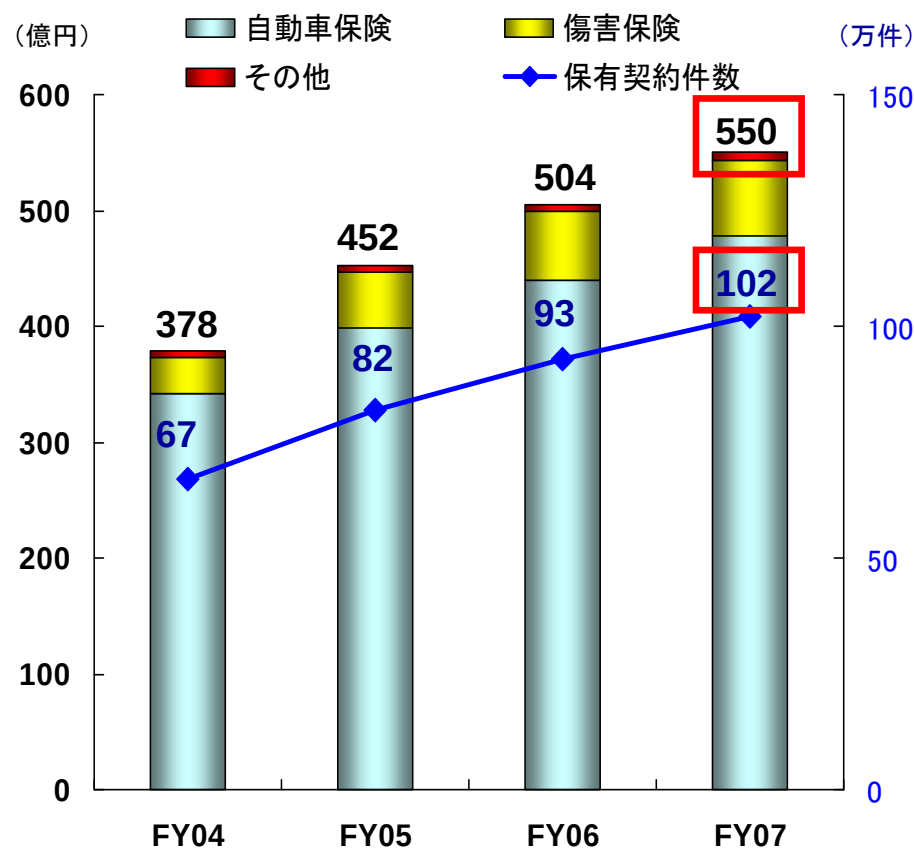
※正味事業費率＝保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

※正味損害率＝(正味支払保険金＋損害調査費)÷正味収入保険料

※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

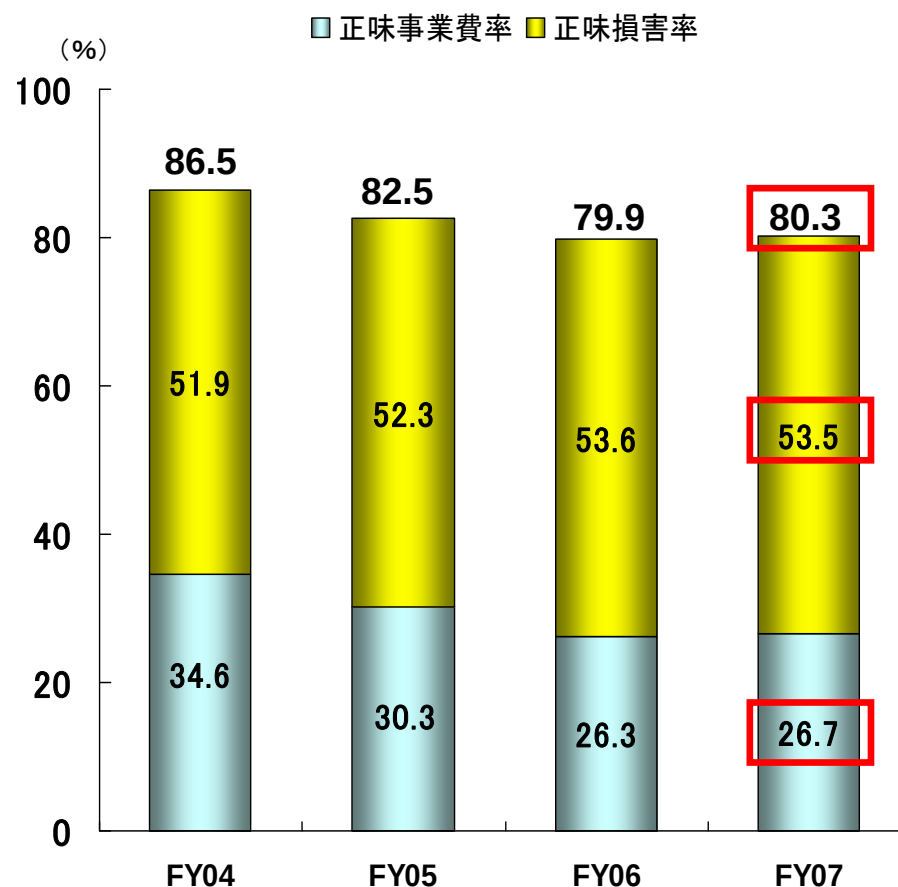
ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数



保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。傷害保険のほとんどが、ガン重点医療保険である。
金額は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て

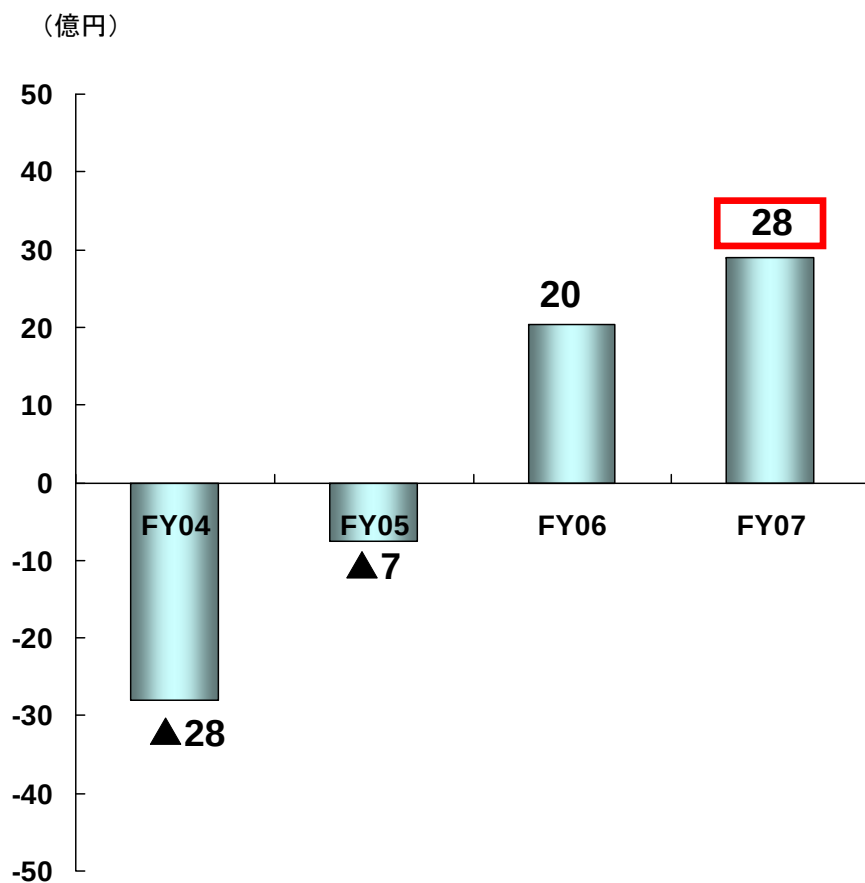
コンバインド・レシオの推移



正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料
正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料

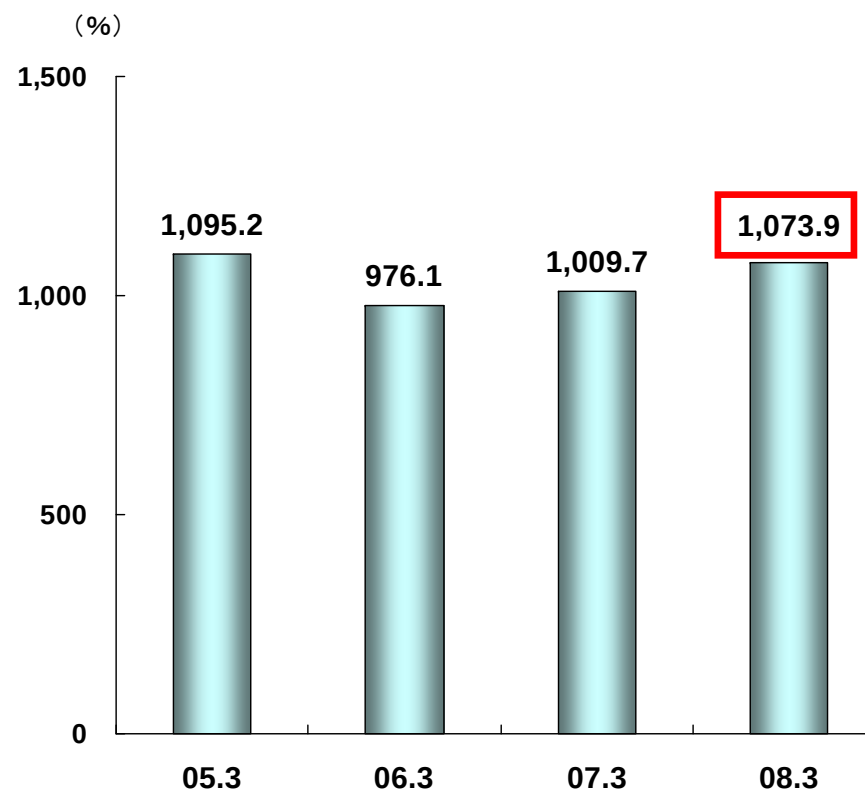
ソニー損保の業績(2)

経常利益(損失)



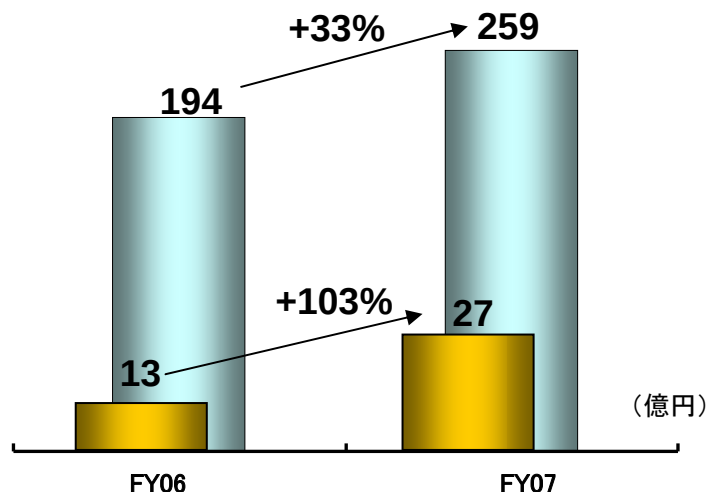
金額は億円未満切捨て

ソルベンシー・マージン比率



ソニー銀行 業績ハイライト(単体)

■ 経常収益 ■ 経常利益



【ソニー銀行】

- ◆前年度比 増収増益
- ◆主に、住宅ローン残高の伸びによる貸出金利息の増加、市場運用損益の改善などにより、資金運用収支とその他業務収支が拡大
- ◆当期純利益は、税効果会計による法人税等調整額の計上もあり44億円
- ◆業務粗利益は資金運用収支51億円、役務取引等収支3億円、その他業務収支54億円の合計109億円。営業経費は微増の81億円
- ◆預り資産残高は前年度末比3,984億円増加の1兆2,473億円

(億円)	FY06	FY07	前年度比	
経常収益	194	259	+65	+33%
業務粗利益	90	109	+19	+21%
資金運用収支	45	51	+5	+11%
役務取引等収支	5	3	▲1	▲28%
その他業務収支	39	54	+15	+40%
営業経費	76	81	+4	+6%
経常利益	13	27	+13	+103%
当期純利益	10	44	+34	+339%
有価証券残高	3,812	4,887	+1,075	+28%
貸出金残高	2,847	3,470	+623	+22%
預金残高	7,523	11,443	+3,920	+52%
預り資産残高	8,488	12,473	+3,984	+47%
純資産額	368	357	▲11	▲3%
総資産額	8,068	12,110	+4,041	+50%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行 主要業績指標(単体)

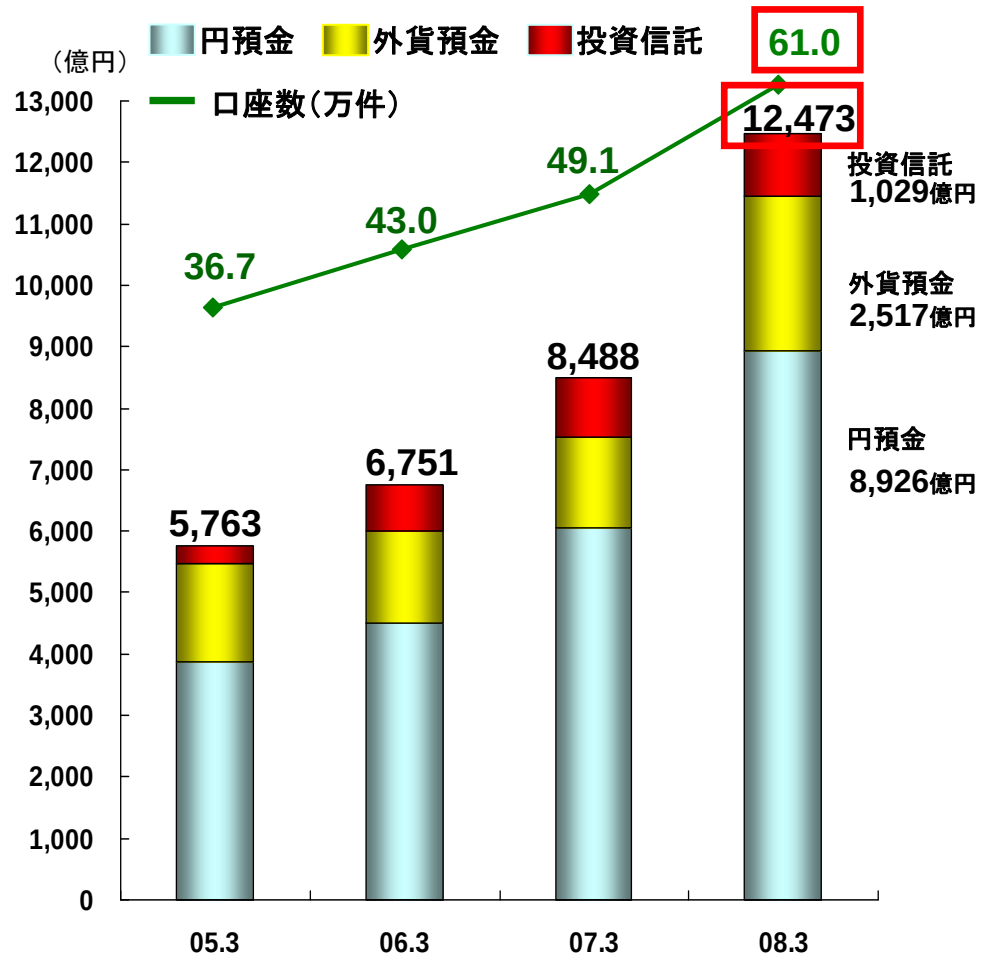
(単位: 億円)

	2006年度	2007年度	増減率
業務粗利益	90	109	+ 21%
営業経費	76	81	+ 6%
業務純益	13	28	+ 107%
経常利益	13	27	+ 103%
預り資産残高	8,488	12,473	+ 47%
うち増加額(対前年度末比)	1,737	3,984	+ 129%
貸出金残高	2,847	3,470	+ 22%
うち増加額(対前年度末比)	452	623	+ 38%
自己資本比率(国内基準)	11.49%	9.15%	▲ 2.34pt
口座数	49.1万件	61.0万件	+ 24%
うち増加数(対前年度末比)	6.1万件	11.8万件	+ 5.7万件

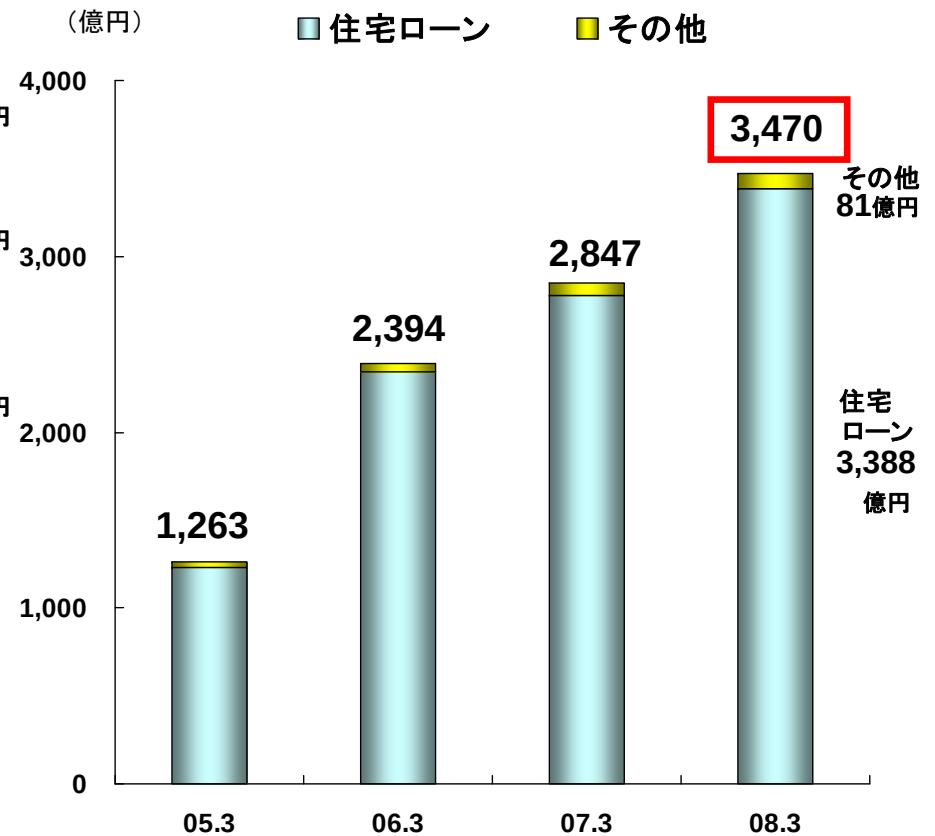
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行の業績(1)

預り資産残高(預金+投資信託)及び口座数



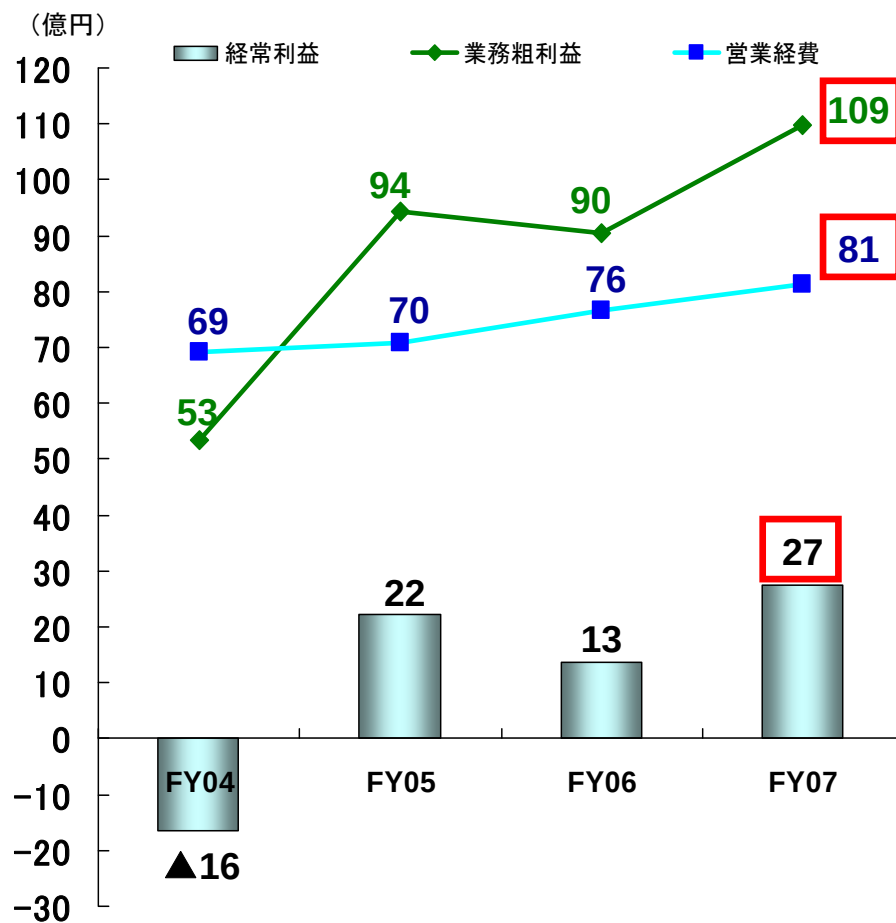
貸出金残高



金額は億円未満切捨て

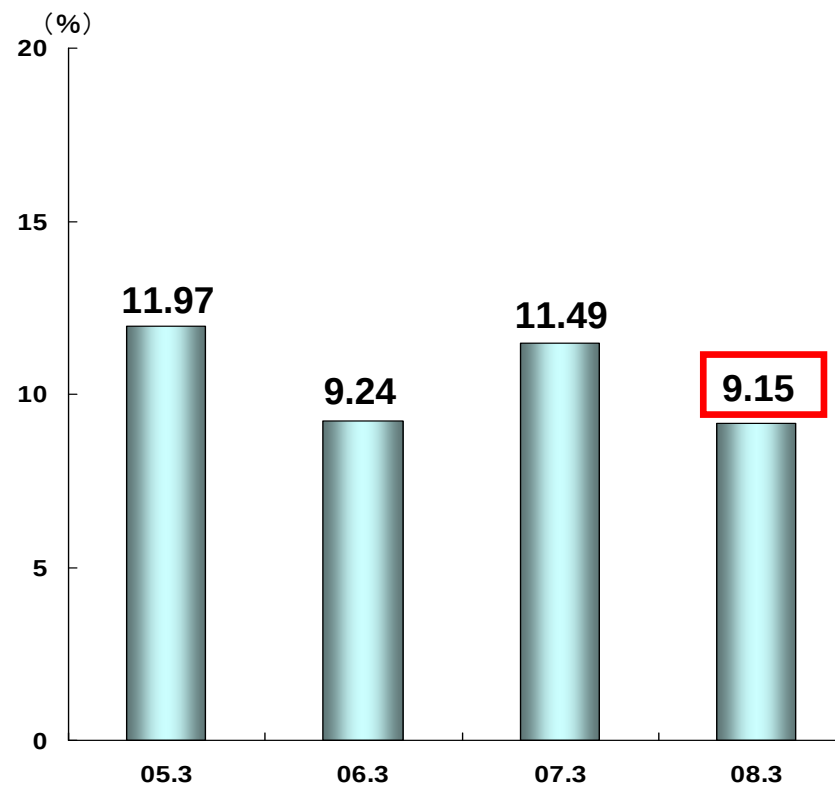
ソニー銀行の業績(2)

業務粗利益・営業経費・経常利益



金額は億円未満切捨て

自己資本比率(国内基準)



※2008年4月23日に、ソニーフィナンシャルホールディングスは、ソニー銀行に対し、増資引受け60億円を実施いたしております。

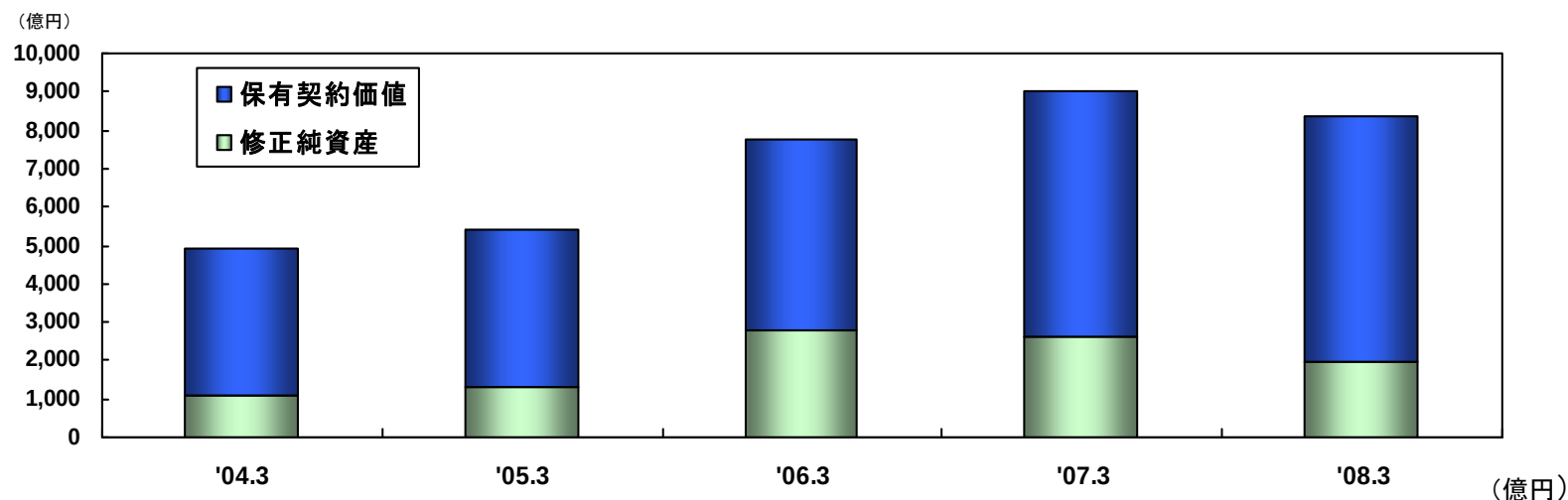
*2006年度末および当年度末は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準を定める件」(平成18年金融庁告示第19号)所定の基準に基づき、算出しています。2005年度末までは旧告示所定の基準により算出しております。

ソニー生命のエンベディッド・バリュー(EV)

FY07のEVのレビュー

- EVは8,338億円となり、前年度末比667億円減少。
- 保有契約の価値は6,389億円、修正純資産は1,948億円となり、各々前年度末比1億円増加、669億円減少。
- 新契約価値は289億円で、前年度末比78億円減少。

エンベディッドバリューの推移



	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末	2008年3月末
EV合計	4,920	5,393	7,761	9,005	8,338
保有契約の価値	3,817	4,096	4,998	6,388	6,389
修正純資産	1,102	1,297	2,763	2,617	1,948
(EVのうち新契約価値)	389	381	342	367	289

【出所】ソニー生命

注：2004年3月末、2005年3月末、2006年3月末、2007年3月末および2008年3月末のEVは、それぞれ前提条件及び計算方法が異なります

EV: 前提条件と変動要因分析

2008/3 EVの主要な前提条件

割引率	6.0%
運用利回り	新規投資は全て国債に投資するものとし、インプライドフォワードレートに基づき新規投資利回りを設定
保険事故発生率	直近3年間の実績等に基づき設定
解約・失効率	直近3年間の実績等に基づき設定
事業費 (ユニットコスト)	直近1年間の実績に基づき、契約の維持管理や保険金等の支払いに係る経費の単価(ユニットコスト)を設定
実効税率	直近の実効税率に基づき設定
ソルベンシー・マージン比率	600%を将来にわたって維持する

2007/3からのEVの変動要因分析

(億円)

2007年3月末EV	9,005
株主配当	▲65
保有契約の価値からのリリース (注)	381
2007年度の新契約価値	289
前提条件と実績の差	▲1,132
前提条件の変更	▲141
2008年3月末EV	8,338

(注) 前年度末の保有契約の価値に対する1年分の割引の戻し入れ

EV: センシティビティ

2008/3 EVのセンシティビティ

(億円)

		EV増減額	EV額
割引率	6.0%→5.0%	831	9,169
	6.0%→7.0%	▲675	7,663
ソルベンシー・マージン比率	600%→500%	77	8,415
	600%→700%	▲86	8,252
運用利回り: +0.25%	全体	591	8,928
	新規投資利回りのみ	348	8,686
運用利回り: -0.25%	全体	▲612	7,725
	新規投資利回りのみ	▲350	7,987
保険事故発生率	前提条件 x 1.1	▲653	7,685
解約・失効率	前提条件 x 1.1	▲161	8,177
事業費(契約維持に関するユニットコスト)	前提条件 x 1.1	▲65	8,272

(注)運用利回りの変更による影響は契約者配当にも反映しています。

EV: 修正純資産の内訳

修正純資産の内訳

(億円)

	2008年3月末	2007年3月末	増減
修正純資産	1,948	2,617	▲669
純資産の部計(注)	1,369	2,076	▲707
価格変動準備金	241	209	32
危険準備金	618	590	28
一般貸倒引当金	0	0	0
土地の含み損益	84	68	16
退職給付の未積立債務	▲35	▲19	▲16
前5項に係る税効果相当額	▲329	▲307	▲22

(注) 転換社債等以外の債券の評価差額金を除く

EV: 主な前提条件(運用利回り)

運用利回り(新規投資)

○使用したインプライド・フォワード・レート

年度	利回り
2008	0.57%
2009	0.61%
2010	0.81%
2011	0.98%
2012	0.98%
2017	2.78%
2022	3.18%
2027	3.50%
2032	3.40%
2037	3.51%

運用利回り(保有資産の投資)

○使用した新規投資利回りと保有資産の投資利回りを加重平均した利回り

年度	利回り
2008	1.92%
2009	1.88%
2010	1.89%
2011	1.91%
2012	1.88%
2017	2.90%
2022	3.24%
2027	3.66%
2032	3.63%
2037	3.77%

主要經營指標

主要経営指標(1)

➤ 連結経常収益 / 連結経常利益 / 連結当期純利益

➤ 連結修正ROE

＜連結修正ROEの考え方＞

ソニーフィナンシャルホールディングスグループ			
	ソニー生命	ソニー損保	ソニー銀行
分子	年間EV増加額＋配当額 （※当期純利益に、危険準備金繰入、既契約将来価値の増減等が加算されています）	当期純利益 ＋異常危険準備金繰入額(税後) ＋価格変動準備金繰入額(税後)	当期純利益
分母	EV(前年度末EV－配当額＋今年度末EV)の平均値 （※純資産の部に、危険準備金、既契約将来価値等が加算されています）	純資産の部 ＋異常危険準備金(税後) ＋価格変動準備金(税後) の期中平均値	純資産の部の期中平均値

* 傘下の子会社からの配当やその他特殊要因などを考慮する

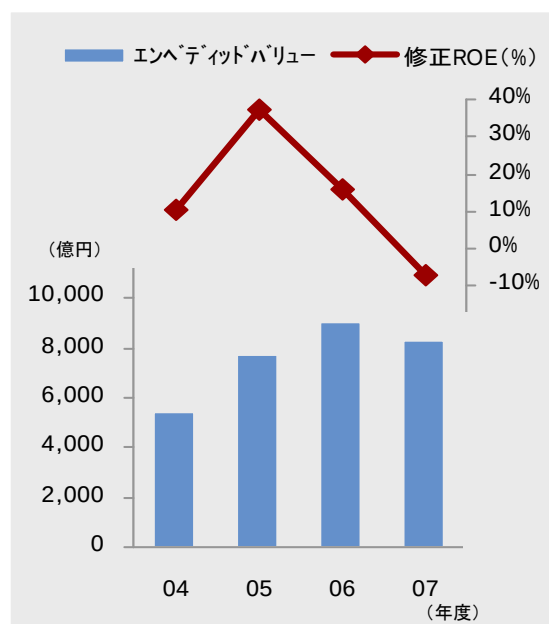
主要経営指標(2)

主要経営指標

- 連結経常収益／連結経常利益／連結当期純利益
- 連結修正ROE

(百万円／%)	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
連結経常収益	653,259	758,711	759,280	822,153
連結経常利益	12,269	25,377	18,354	44,500
連結当期純利益	6,375	11,537	10,021	24,255
連結(修正)ROE	8.0%	35.1%	15.2%	▲ 5.7%

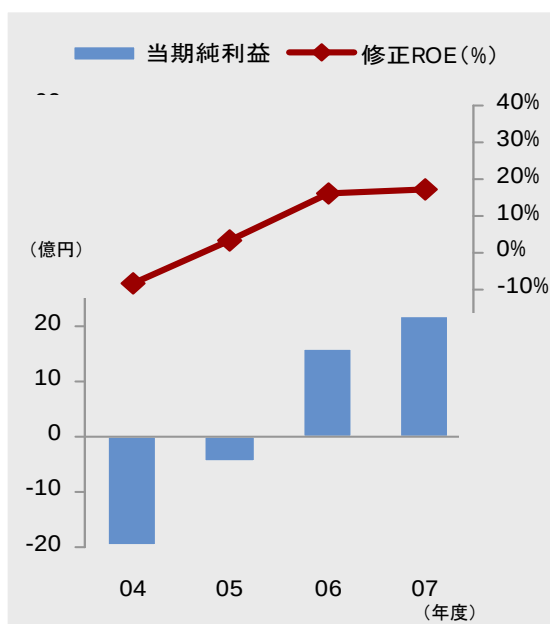
ソニー生命 エンベディッド・バリューと修正ROE



【出所】ソニー生命

注: 修正ROE: 以下の分子を分母で除した値として算出
分子: 年間EV(エンベディッド・バリュー)増加額に
配当額を加えた値
分母: (前年度EV-配当額+今年度EV)の平均値

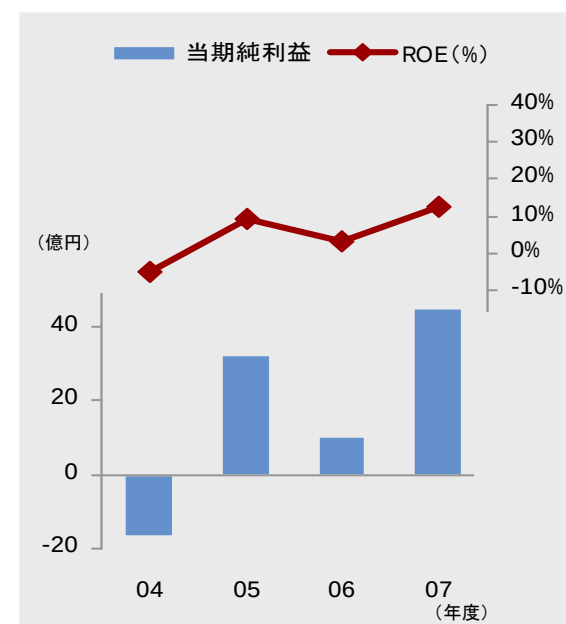
ソニー損保 当期純利益と修正ROE



【出所】ソニー損保

注: 修正ROE: 以下の分子を分母で除した値として算出
分子: 当期純利益+異常危険準備金繰入額(税後)
+価格変動準備金繰入額(税後)
分母: (純資産の部+異常危険準備金(税後)+
価格変動準備金(税後))の期中平均値

ソニー銀行 当期純利益とROE



【出所】ソニー銀行

注: ROE: 当期純利益を純資産の部の期中平均値で除した値

2008年度 経営方針説明

SFHグループ概要

ソニーフィナンシャルホールディングスグループは、金融の持つ多様な機能（貯める・増やす・借りる・守る）を融合して、お客さま一人ひとりの経済的ニーズに合わせた付加価値の高い商品と質の高いサービスを提供することにより、お客さまから最も信頼される金融サービスグループになることを目指します。

	 Sony Financial Holdings		
	100%	100%	100%
	 Sony Life	 Sony Assurance	 Sony Bank
販売チャネル	■ コンサルティング販売 ■ ライフプランナー ■ 代理店	■ ダイレクト ■ 電話 ■ インターネット	■ インターネット
主力商品	■ 死亡保障保険 ■ 医療保険 など	■ 自動車保険（リスク細分型） ■ ガン重点医療保険	■ 預金（円、外貨） ■ 住宅ローン ■ 投資信託 など
ターゲット顧客層	■ 個人・法人	■ 個人	■ 個人
外部評価	■ 安心できる生保ランキング：1位タイ（2007.6.26 週刊エコノミスト）	■ 個人事故対応満足度ランキング：2位（2007.7.31 J・D・パワー）	■ 日経金融機関ランキング顧客満足度1位（2007.12 日経新聞）
規模 ¹	■ 保有契約件数²：443万件 ■ 資本金³：658億円 ■ 総資産：3兆6,597億円 ■ 従業員⁴：5,372名⁵	■ 保有契約件数：102万件 ■ 資本金³：400億円 ■ 総資産：786億円 ■ 従業員⁴：651名	■ 口座数：61万口座 ■ 資本金³：400億円 ■ 総資産：1兆2,110億円 ■ 従業員⁴：165名（証券含む）

¹ 2008年3月末現在。各社単体。

² 生命の保有契約件数は個人保険および個人年金保険の件数

³ 資本金には、資本剰余金を含む

⁴ 従業員数につきましては当社のビジネスセグメント毎の数字となっております。

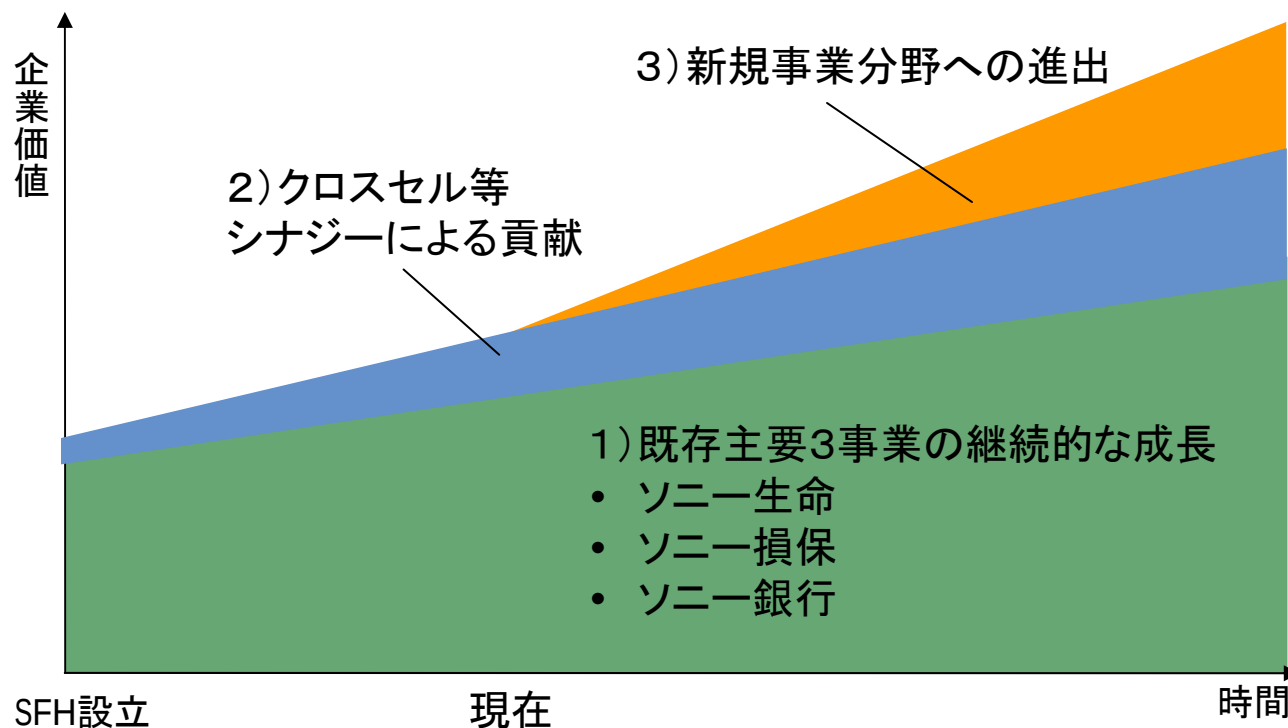
⁵ ライフプランナー：3,779人

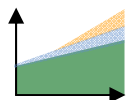
⁶ このほかに連結子会社としてはソニーライフフィリピン、ソニーバンク証券があります。

企業価値向上に関する考え方

- Value Creation = 金融3社それぞれのValue向上 + シナジー + 新規事業分野への進出
- 3社の確実な成長をベースとした企業価値向上に加え、グループクロスセル等によるシナジー創出や、新規事業分野への進出を通じたSFHグループの企業価値向上を図る

<イメージ>





既存主要3事業の継続的な成長

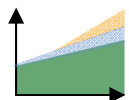


本日のご説明項目

1.ソニー生命の概要

2.ソニー生命の業績

3.ソニー生命の中期戦略



【基本使命】

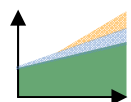
当社の使命は、合理的な生命保険と質の高いサービスを提供することによって、顧客の経済的保障と安定を図ることである。

【経営の基本理念】

顧客に満足される質の高いサービスの提供を不断に追求することにより、顧客の期待と信頼に応える。

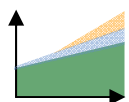
環境の変化には、常に積極的にチャレンジし、新しい時代のニーズを先取りした革新的な経営を行う。

社員の個性を尊重し、その能力と適性を十二分に発揮することにより、自由闊達な職場環境を創ると共に活力ある組織を維持する。



【企業ビジョン】





ソニー生命:ビジネスモデル／特徴



- コンサルティングに基づいたオーダーメイドの保険販売、充実したアフターフォローを提供することで、死亡保障を中心に創業以来、順調に成長

主要市場 ・顧客

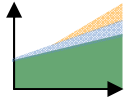
- 主要市場
 - 収益性・安定性が高く、コンサルティング・セールスが有効な死亡保障分野が中心
 - 収益性・成長性の高い第三分野にも早期に参入
- 主要顧客
 - コンサルティングとの適合性が高い30～40歳代の世帯主が相対的に多い
 - 中堅中小企業にも注力

販売チャネル

- コンサルティング能力の高い販売陣容
 - ライフプランナー・代理店
 - 専門的な知識と豊富な経験
 - 高いモラルとモチベーション
 - 高い生産性

強み

- コンサルティングに基づいたオーダーメイドの保険販売、充実したアフターフォロー
 - 安定的な新契約の獲得
 - 低い解約・失効率と保有契約の着実な増加
 - 高い顧客満足度・メディア等からの外部評価の獲得
- 良好な財務健全性

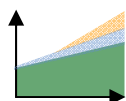


本日のご説明項目

1. ソニー生命の概要

2. ソニー生命の業績

3. ソニー生命の中期戦略

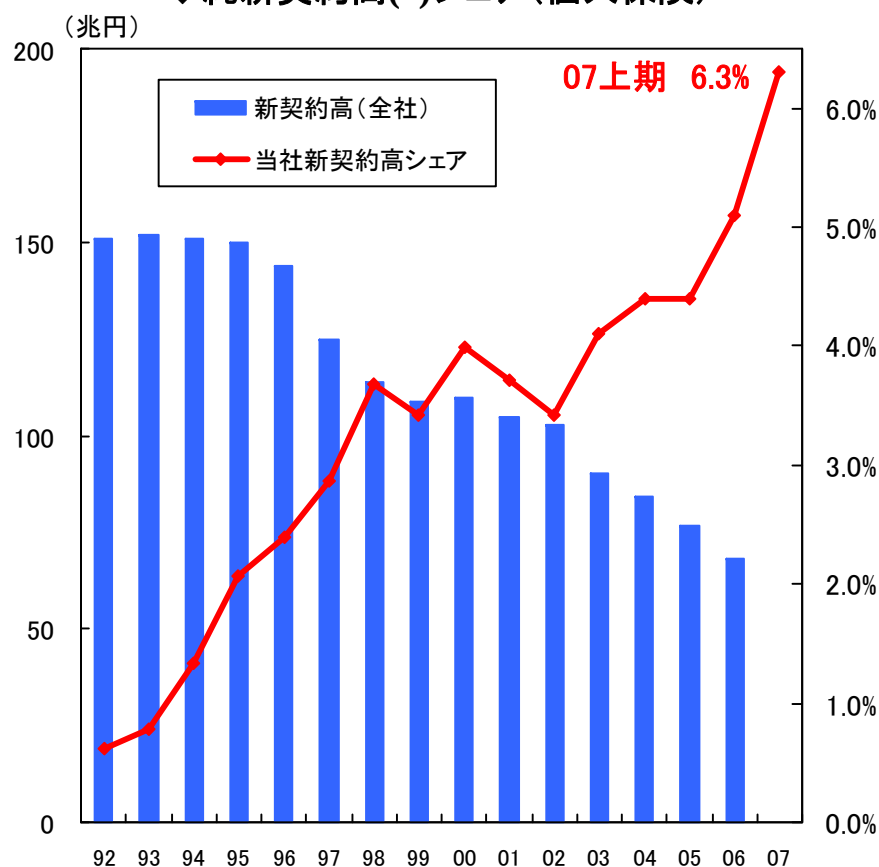


ソニー生命:マーケットポジション①シェア



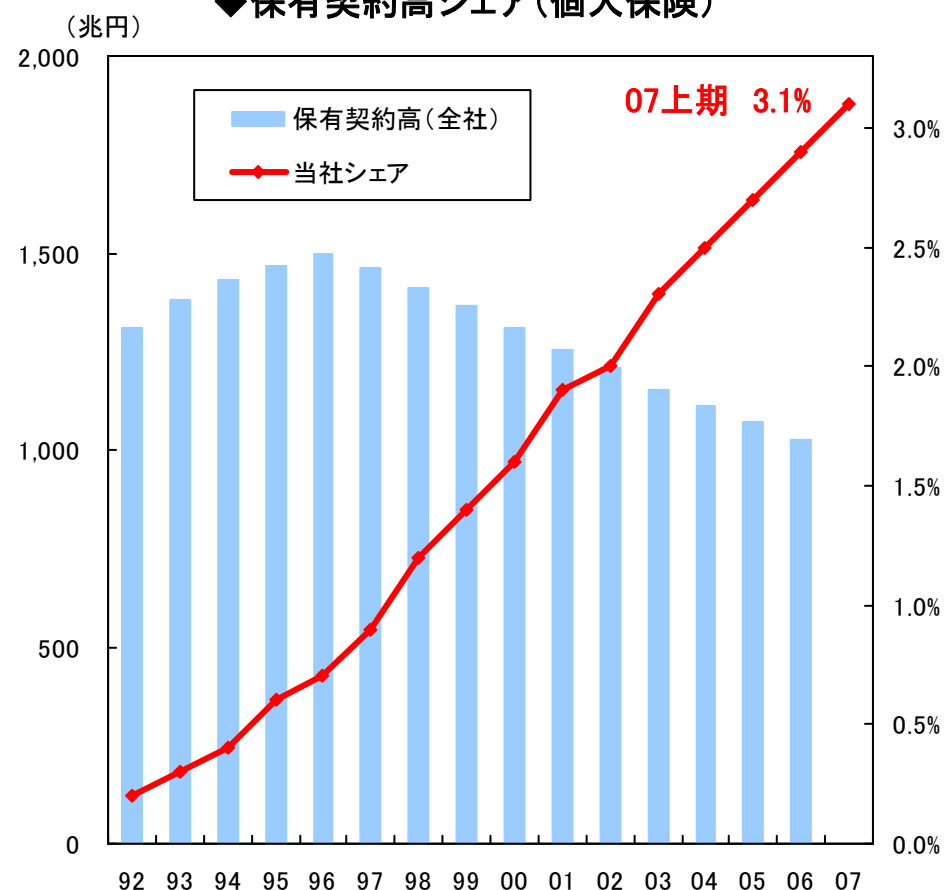
- 市場の縮小が進む中、新契約高・保有契約高ともに着実にシェアを拡大

◆純新契約高(*)シェア(個人保険)

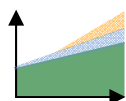


*除く転換ベース

◆保有契約高シェア(個人保険)



(出所)インシュアランス生命保険統計号平成19年版、各社公表資料



ソニー生命：マーケットポジション②順位



- 新契約高は6位と、大手5社の一角を展望できるポジション
- 純増加高では継続して上位の順位を維持

◆純新契約高(*)順位

順位	会社名	実績 (前年同期比)	シェア (前期末増減)
1(1)	A	36,555(63.6)	12.4(▲3.2)
2(2)	B	35,995(81.4)	12.2(▲1.1)
3(3)	C	30,337(71.6)	10.3(▲1.1)
4(5)	D	23,907(108.5)	8.1(+1.8)
5(4)	E	21,650(87.5)	7.4(▲0.1)
6(6)	ソニー	18,493(110.1)	6.3(+1.2)
7(8)	F	14,312(102.7)	4.9(+0.7)
8(7)	G	12,752(93.6)	4.3(▲0.2)
9(9)	H	10,251(88.1)	3.5(+0.1)
10(10)	I	9,868(109.3)	3.4(+0.4)

全社計 前年同期比85.3%

*除く転換ベース

◆保有契約高順位

順位	会社名	実績 (前年同期比)	シェア (前期末増減)
1(1)	あ	2,141,875(92.9)	21.4(▲0.3)
2(2)	い	1,711,751(95.5)	17.1(±0.0)
3(3)	う	1,364,827(93.9)	13.6(▲0.1)
4(4)	え	1,200,070(92.9)	12.0(▲0.1)
5(5)	お	420,542(91.2)	4.2(▲0.1)
6(7)	か	386,573(99.8)	3.9(+0.2)
7(6)	き	384,542(90.7)	3.8(▲0.1)
8(8)	く	323,722(97.0)	3.2(±0.0)
9(9)	ソニー	306,437(103.9)	3.1(+0.2)
10(10)	け	251,475(105.0)	2.5(+0.1)

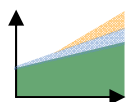
全社計前年同期比95.5%

◆純増加高

順位	会社名	実績
1(3)	ソニー	6,056
2(2)	ア	5,175
3(4)	イ	4,234
4(1)	ウ	3,699
5(10)	エ	2,786
6(6)	オ	2,693
7(5)	カ	2,643
8(28)	キ	1,769
9(7)	ク	888
10(8)	ケ	786

*いずれも07年度上期業績
*個人保険(単位:億円・%)

(出所)各社公表資料



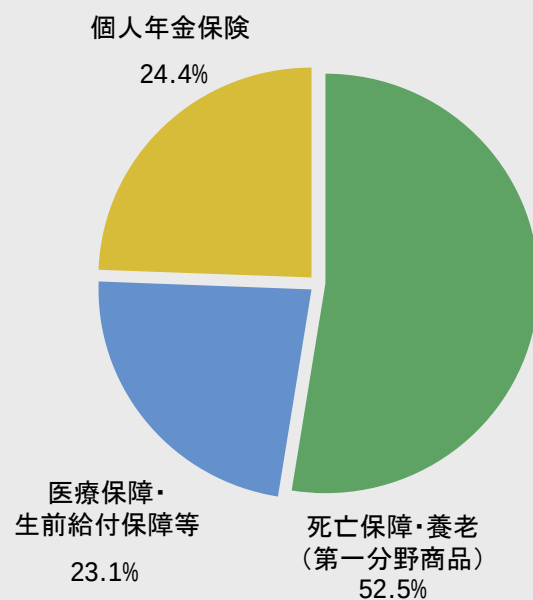
ソニー生命：収益／利益構造①商品ポートフォリオ



- 死亡保障を中心とした商品ポートフォリオ

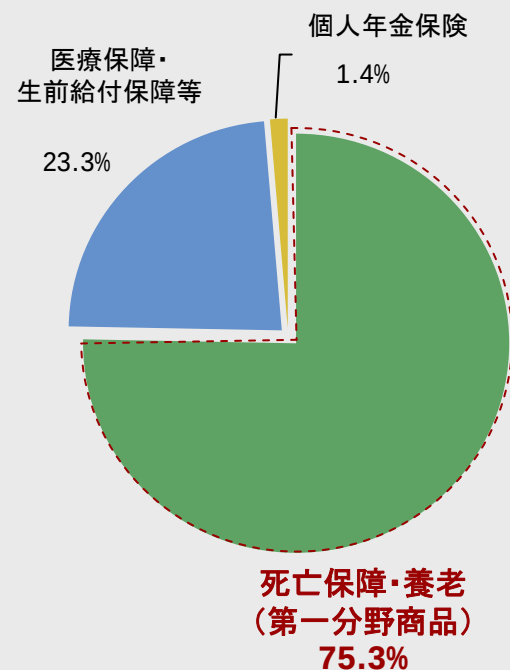
業界全体の商品ポートフォリオ(2007年3月末)

年換算保険料(保有契約)

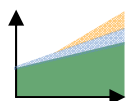


ソニー生命の商品ポートフォリオ(2007年3月末)

年換算保険料(保有契約)



(出所) インシュアランス生命保険統計号平成19年版

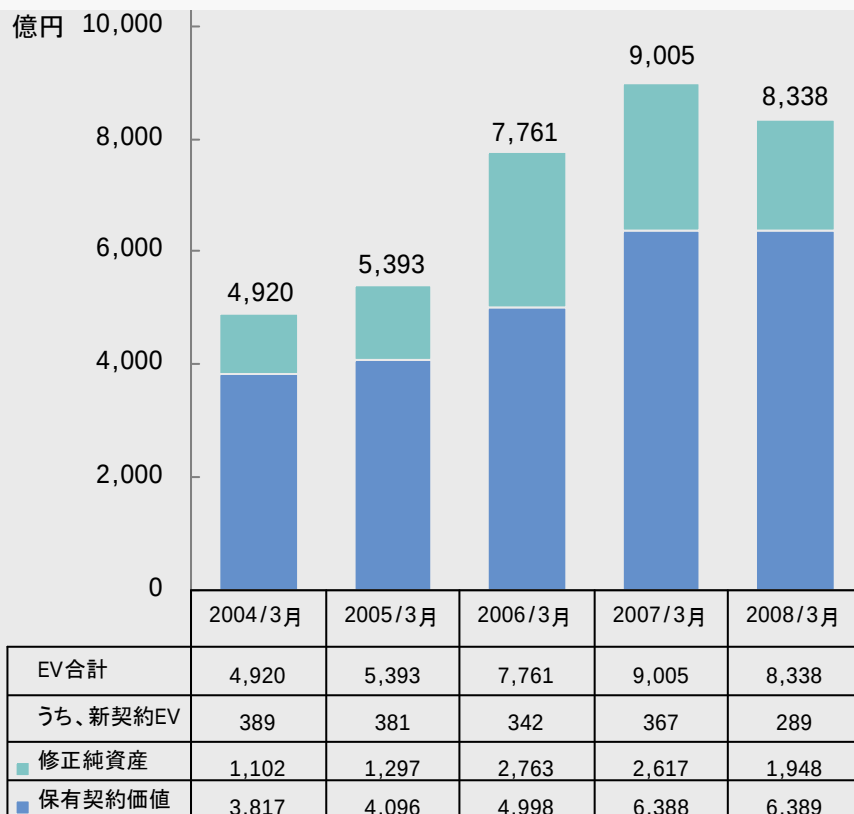


ソニー生命：収益／利益構造②EV



- 生命保険会社の企業価値を表すEVは着実に増加してきたが、2007年度は減少

エンベディッドバリューの推移

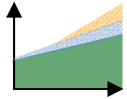


2008/3EVのセンシティビティ

(億円)

		EV増減額	EV額
割引率	6.0%→5.0%	831	9,169
	6.0%→7.0%	▲675	7,663
ソルベンシー・マージン比率	600%→500%	77	8,415
	600%→700%	▲86	8,252
運用利回り: +0.25%	全体	591	8,928
	新規投資利回りのみ	348	8,686
運用利回り: -0.25%	全体	▲612	7,725
	新規投資利回りのみ	▲350	7,987
保険事故発生率	前提条件 x 1.1	▲653	7,685
解約・失効率	前提条件 x 1.1	▲161	8,177
事業費(契約維持に関するユニットコスト)	前提条件 x 1.1	▲65	8,272

*各年度のEVは、前提条件及び計算方法がそれぞれ異なります。

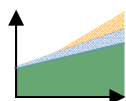


本日のご説明項目

1. ソニー生命の概要

2. ソニー生命の業績

3. ソニー生命の中期戦略

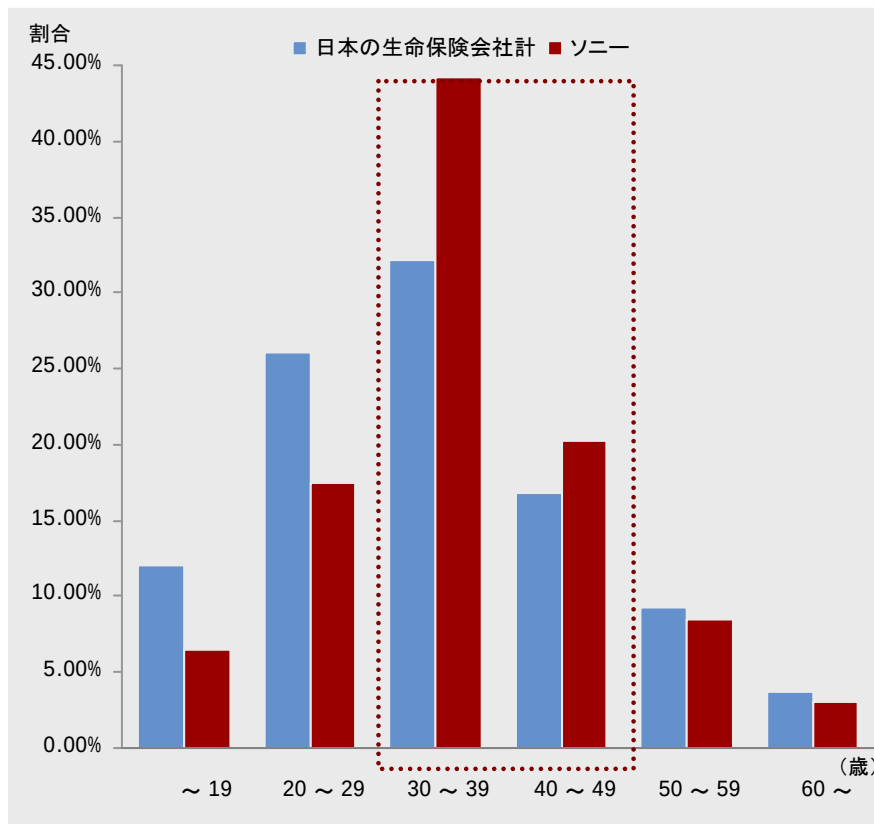


ソニー生命: 今後の経営方針①環境認識



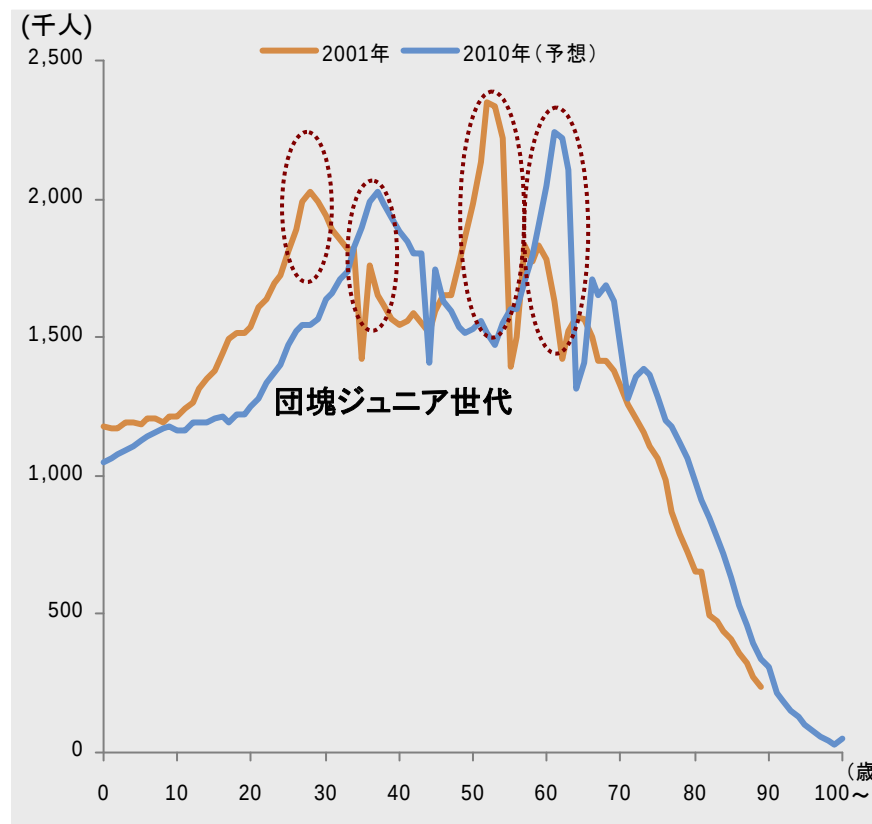
- ソニー生命の主要顧客層である30～40歳代の市場は、中期的には高いレベルで維持され、ソニー生命にとっての成長余力となる可能性は高い
- 一方、高齢化に伴う団塊世代を中心とするシニア市場の拡大、少子化による将来の主要顧客層の市場縮小といった市場構造の変化にも対応する必要がある

被保険者年齢別新契約高(個人保険)

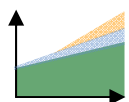


* 生命保険事業概要並びに当社資料より当社作成、2006年度。

人口構成の変化



* 総務省統計局「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」



ソニー生命：今後の経営方針②主要課題



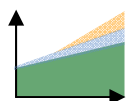
- 保険金等支払管理態勢の強化・確立
 - 保険金等支払管理態勢強化特別対策プロジェクトを通じたお客さまフォローの徹底と再発防止策の実行
- 収益性が高い死亡保障分野におけるマーケットシェアの更なる拡大と収益性の確保
 - コンサルティング・セールスが最も有効に機能する領域で、販売チャネルの優位性を更に発揮
 - アフターフォロー態勢の強化も図り、生涯に亘る顧客リレーションの構築を実現
- 医療・介護分野への注力
 - マーケットの拡大・定着が見込まれる同分野で、魅力ある商品とサービスを提供
- 個人年金保険分野での商品開発態勢の整備
 - AEGONとのJV年金保険子会社設立により、生存保障としての個人年金保険を死亡保障と並ぶコンサルティングセールスの柱に
- 事業領域の拡大
 - M&A等を含めた国内ビジネスの拡大、海外市場への展開等による成長性の確保

最近の取り組み内容

- ワタミ(株)との介護事業における業務提携基本合意(06年9月)
- お客様の人生設計を支援し、最適な保障の設計を行う独自ソフト「LiPSS: ライフプランニング・サポートサービス」の投入と活用推進(06年10月)
- 「終身介護保障保険」の発売(06年11月)
- JV年金保険子会社の設立準備会社設立(07年8月)
- 新保全事務システムの投入(07年10月・08年3月)
- 「終身がん保険」の発売(08年4月)

今後の取り組み施策

- ライフプランナー・代理店チャネルの陣容拡大と生産性向上
- 商品競争力の維持・向上と収益性の確保
- 顧客とのコミュニケーション支援システムの投入(09年度)
- JV年金保険子会社の開業(08年度)
 - ◆ 銀行窓販およびライフプランナーによる販売の開始
- 東アジア地域(大中国圏)への生保子会社設立の検討



ソニー生命：業容面でのターゲット数値



- 成長性と健全性の両面において、優位性の維持・向上を図る

成長性

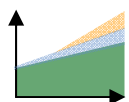
- 販売チャネルの陣容拡大
 - 2010年度までにライフプランナー在籍4,000人体制を目指す
- 企業価値の増大
 - 企業価値の継続的な増大を図り、2010年度末にEV1兆円～1.1兆円を目指す
 - 保有契約高で4%を超える水準の成長を実現し、2010年度末36兆円の規模を目指す
 - さらに、事業領域の拡大を進め、将来のより高い成長率につなげる

健全性

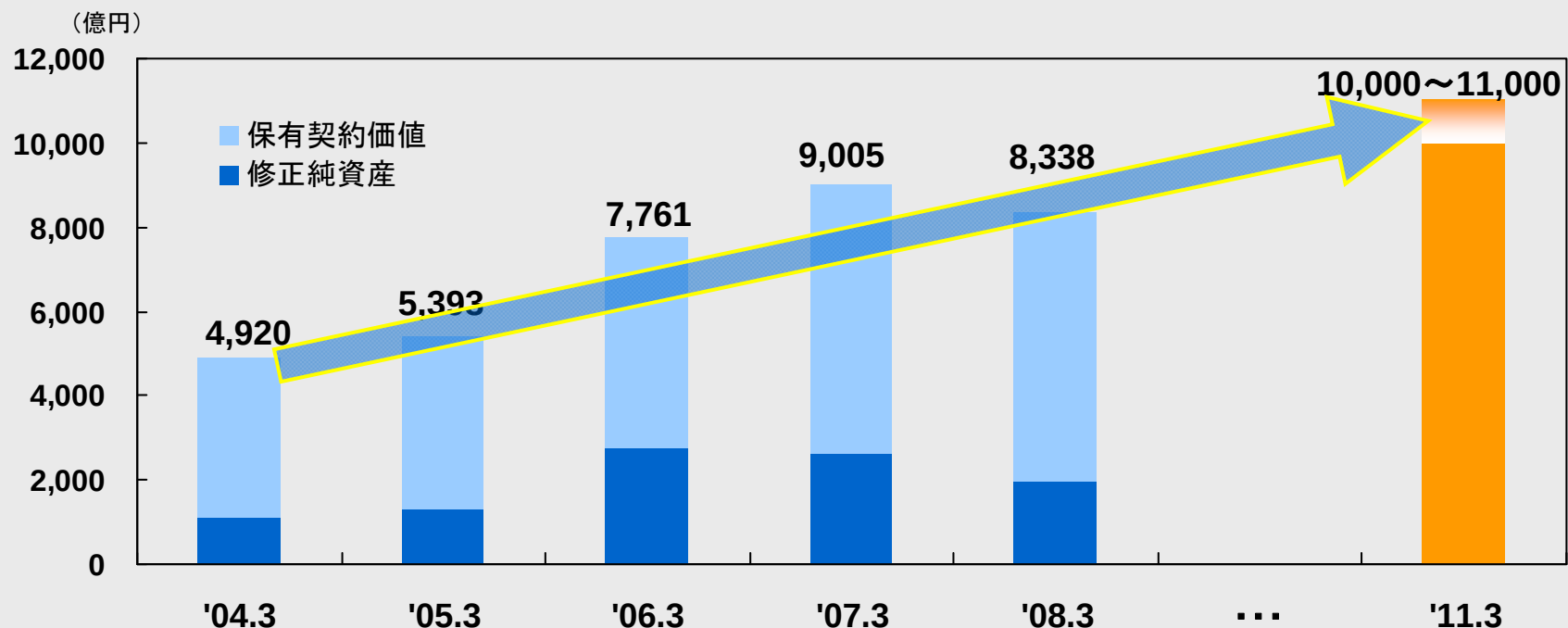
- 高水準の健全性の維持・向上
 - 格付けの維持・向上
 - 経済価値ベースの会計基準等への移行を見据えた適切な対応

(参考)格付けの状況(08年3月末時点)

A.M.ベスト	保険財務力格付け	A+(Superior)
(株)格付投資情報センター(R&I)	保険支払能力格付け	AA(保険金支払能力は極めて高く、優れた要素がある)
(株)日本格付研究所(JCR)	保険支払能力格付け	AA(債務履行の確実性は非常に高い)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス	保険財務格付け	Aa3
スタンダード&プアーズ(S&P)	保険財務力格付け	A+(Strong)



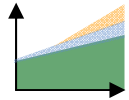
ソニー生命：2010年度までのEV成長目標



	04年3月末	05年3月末	06年3月末	07年3月末	08年3月末
EV合計	4,920	5,393	7,761	9,005	8,338
保有契約の価値	3,817	4,096	4,998	6,388	6,389
(新契約の価値)	389	381	342	367	289
修正純資産	1,102	1,297	2,763	2,617	1,948

(億円)

注)ここでの数値はTEVであり、MCEVへの移行を検討しております



既存主要3事業の継続的な成長

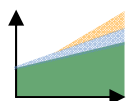


本日のご説明項目

1.ソニー損保の概要

2.ソニー損保の業績

3.ソニー損保の中長期戦略



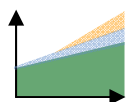
ソニー損保の現状と沿革

■ 会社の現状

社名（英文社名）	ソニー損害保険株式会社 (Sony Assurance Inc.)
代表取締役社長	山本 真一
設立年月日	1998年6月10日（ソニーインシュアランスプランニング株式会社として設立）
本社所在地	〒144-8721 東京都大田区蒲田5-37-1 アロマスクエア11F
電話番号	03-5744-0300（代表）
資本の額	400億円（資本金200億円、資本準備金200億円）
株主	ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社（持株比率100%）
事業内容	損害保険業

■ 会社の沿革

1998年	6月	ソニーインシュアランスプランニング株式会社設立
1999年	7月	本社を東京都大田区におく
1999年	8月	資本の額を100億円とする
1999年	9月	金融再生委員会より損害保険業の免許を取得 社名を「ソニー損害保険株式会社」に変更 自動車保険のインターネットでの申込受付開始
1999年	10月	自動車保険の電話での申込受付開始
2000年	7月	資本の額を200億円に増額（100億円の増資）
2001年	8月	資本の額を300億円に増額（100億円の増資）
2002年	6月	ガン重点医療保険販売開始
2003年	6月	資本の額を400億円に増額（100億円の増資）
2004年	4月	ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社設立に伴いその傘下に入る



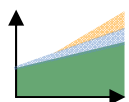
Vision & Mission

Vision

ソニーらしく、自由闊達な発想のもと
現在から未来への担い手として
新しいライフスタイルをつくるため
常に創造と革新にチャレンジします。

Mission

お客様との直接対話を通して
合理的で質の高い保険サービスを提供し
安全で安心できるパーソナルライフの
実現に貢献していきます。



FEEL THE *Difference*

この違いが、保険を変えていく。

Innovative & Professional

常に革新的であり、プロフェッショナルな品質を約束します。



Progress with Customers

たゆまず、お客様に合わせて進化し、お客様とともに歩み続けます。



Committed Service & one on one Solutions

お客様に深くコミットしたサービス。そして「個」客のためのきめ細やかなソリューションを提供します。



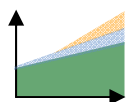
Sincere & Faithful

真摯に取り組む、誠実に対応します。



Convincing Satisfaction

お客様にとっての得心の爽快感を大切にします。



事業 (1)

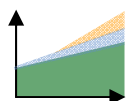
主要種目～特長のある商品～

- 自動車保険「ソニー損保の自動車保険」
充実した補償を納得感のある保険料で提供するリスク細分型自動車保険
ソニー損保オリジナルの割引:くりこし割引“保険料は走る分だけ”
継続割引、新車割引
ソニー損保オリジナルの特約:おりても特約
- ガン重点医療保険「SURE」
幅広い補償を納得感のある保険料で提供する医療保険
ソニー損保オリジナルの特約:60歳保険料半額特約



高品質なサービス

- 高いレベルの事故解決サービス
コミテッドサービス～お客さまの事故時の不安を早期に解消するために～
「事故受付後3時間以内のお客さま専任担当者からのご連絡」
「即日安心365」



事業 (2)

対象顧客

- 個人のお客さま

保有契約件数

- 1,024,448件 2008年3月末

販売チャネル

- カスタマーセンター(電話)やインターネットによるダイレクトチャネル
- 代理店を含む提携先を通じたタイアップチャネル

テレビCM



新聞広告

今、1番選ばれている通販型自動車保険に乗り換えよう!

さあ、あなたも
**ソニー損保の
自動車保険へ。**

通販型自動車保険
5年連続 売上 **No.1**

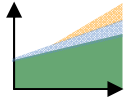
TEL 0120-919919

919919.com

ソニー損保の自動車保険

ソニー損害保険株式会社

*主に通信販売により自動車保険を販売している損害保険会社各社の2007年3月期決算より。売上とは元償正保険料のことです。●商品の詳細については、契約概要のご説明、注意事項情報のご説明、重要事項説明書でご確認ください。 0809-408

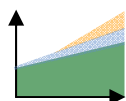


本日のご説明項目

1. ソニー損保の概要

2. ソニー損保の業績

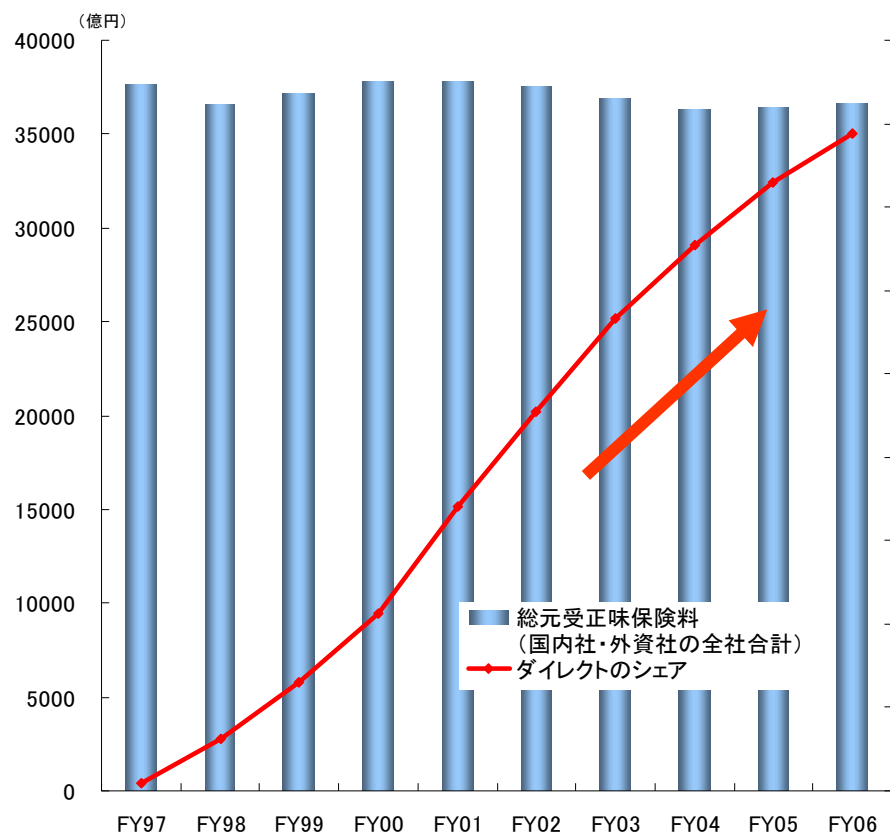
3. ソニー損保の中長期戦略



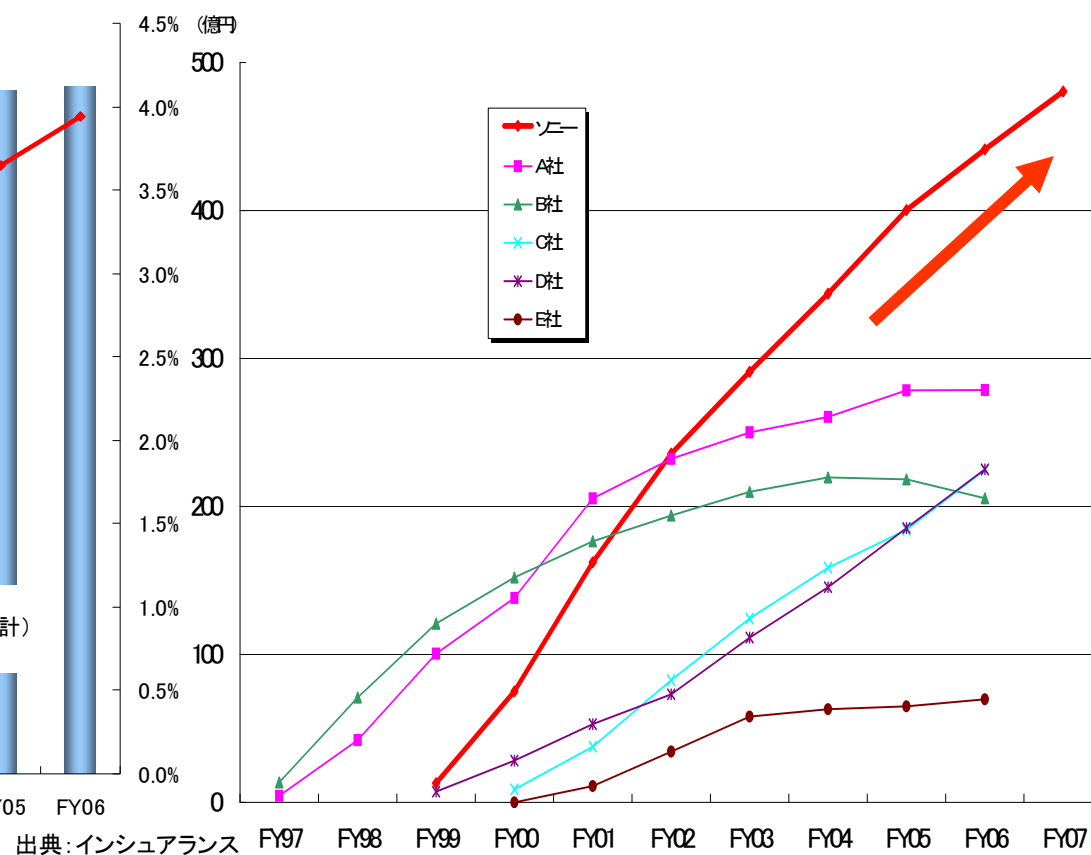
ダイレクト自動車保険マーケットの状況

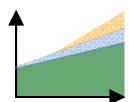
ソニー損保は2002年度から元受正味保険料でNo.1

ダイレクト社のシェアは拡大



ダイレクト6社の元受正味保険料

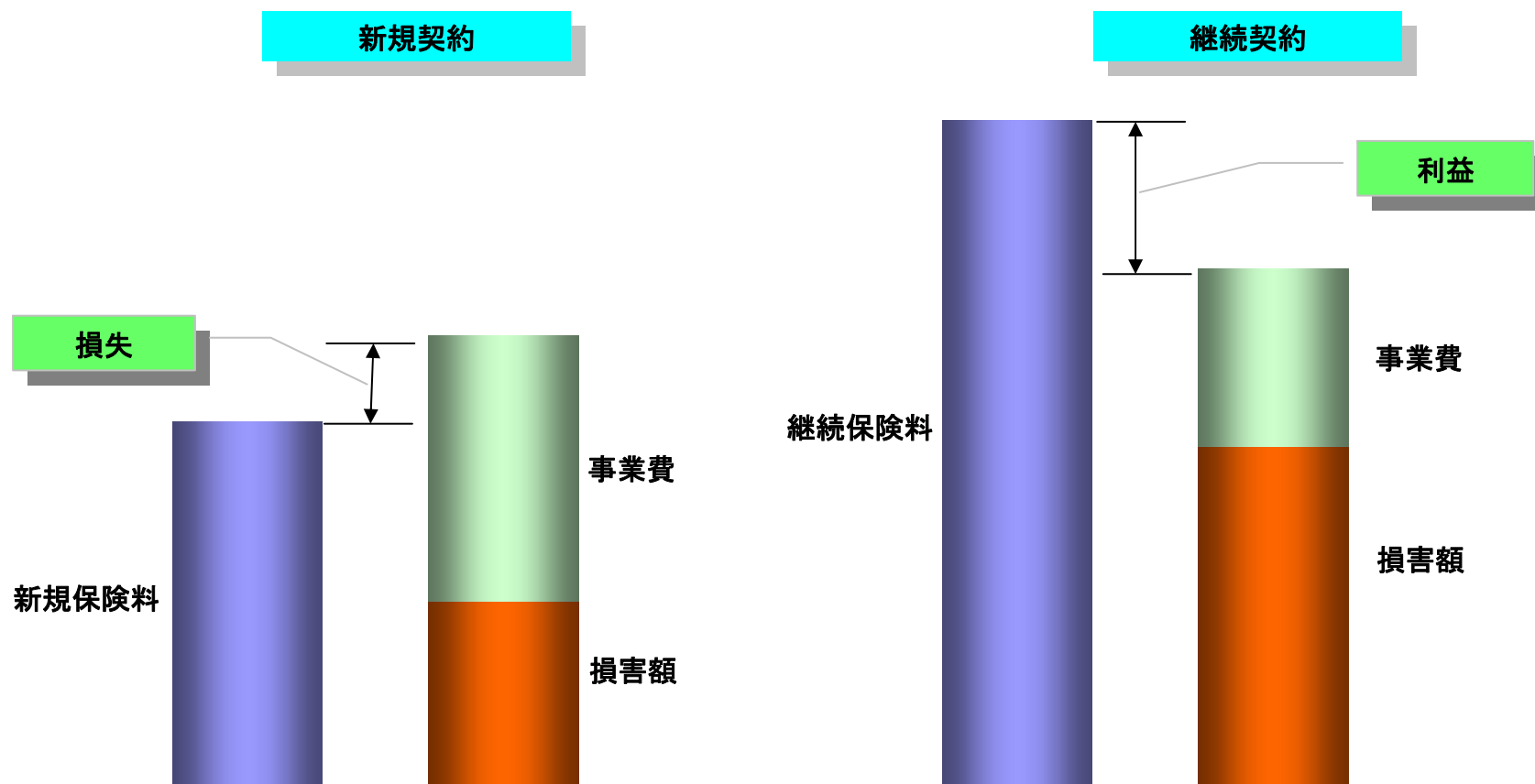


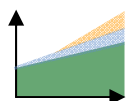


収支構造

- ・継続契約で初期費用を回収し利益を生み出す収支構造

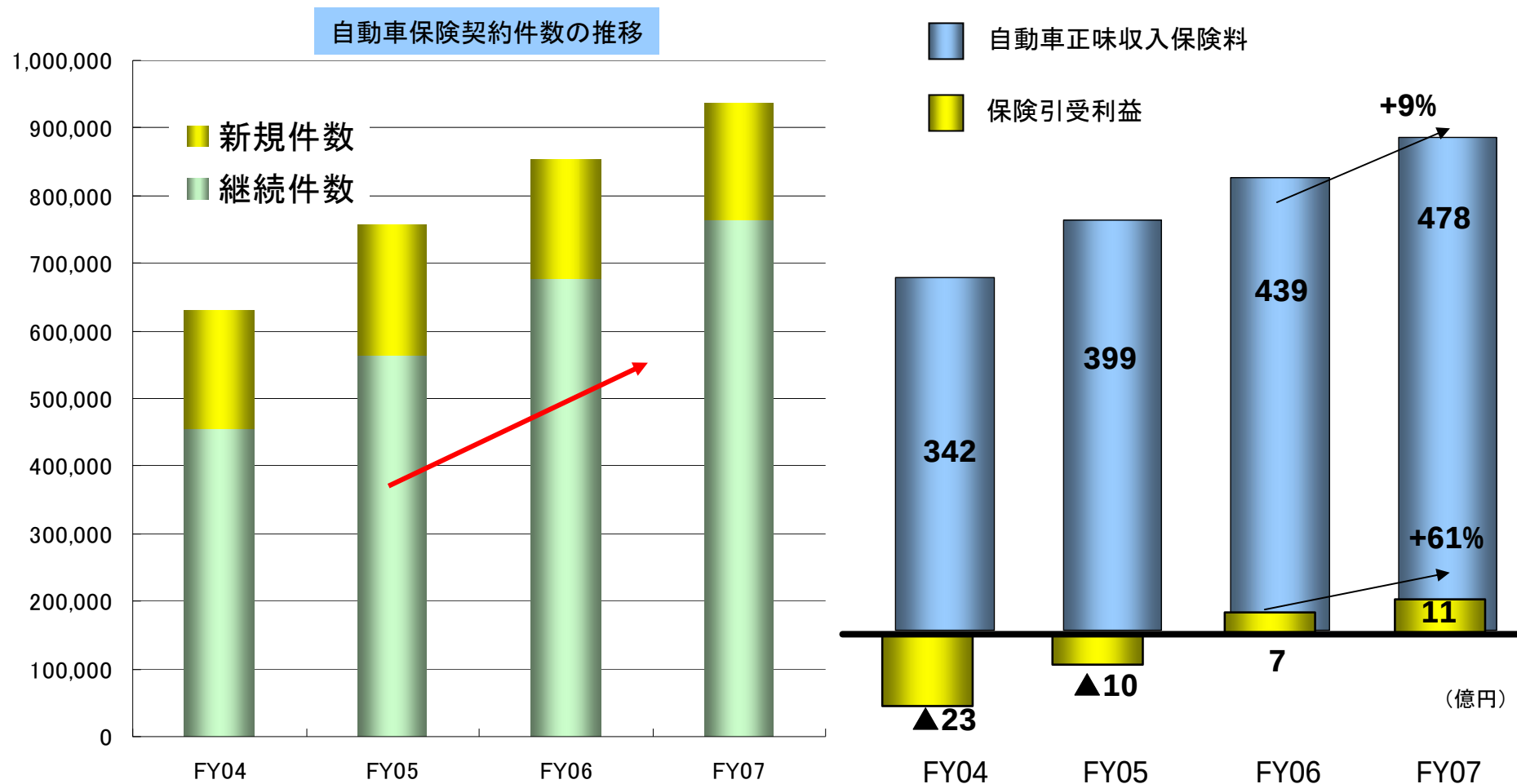
自動車保険の収支構造

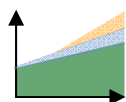




自動車保険

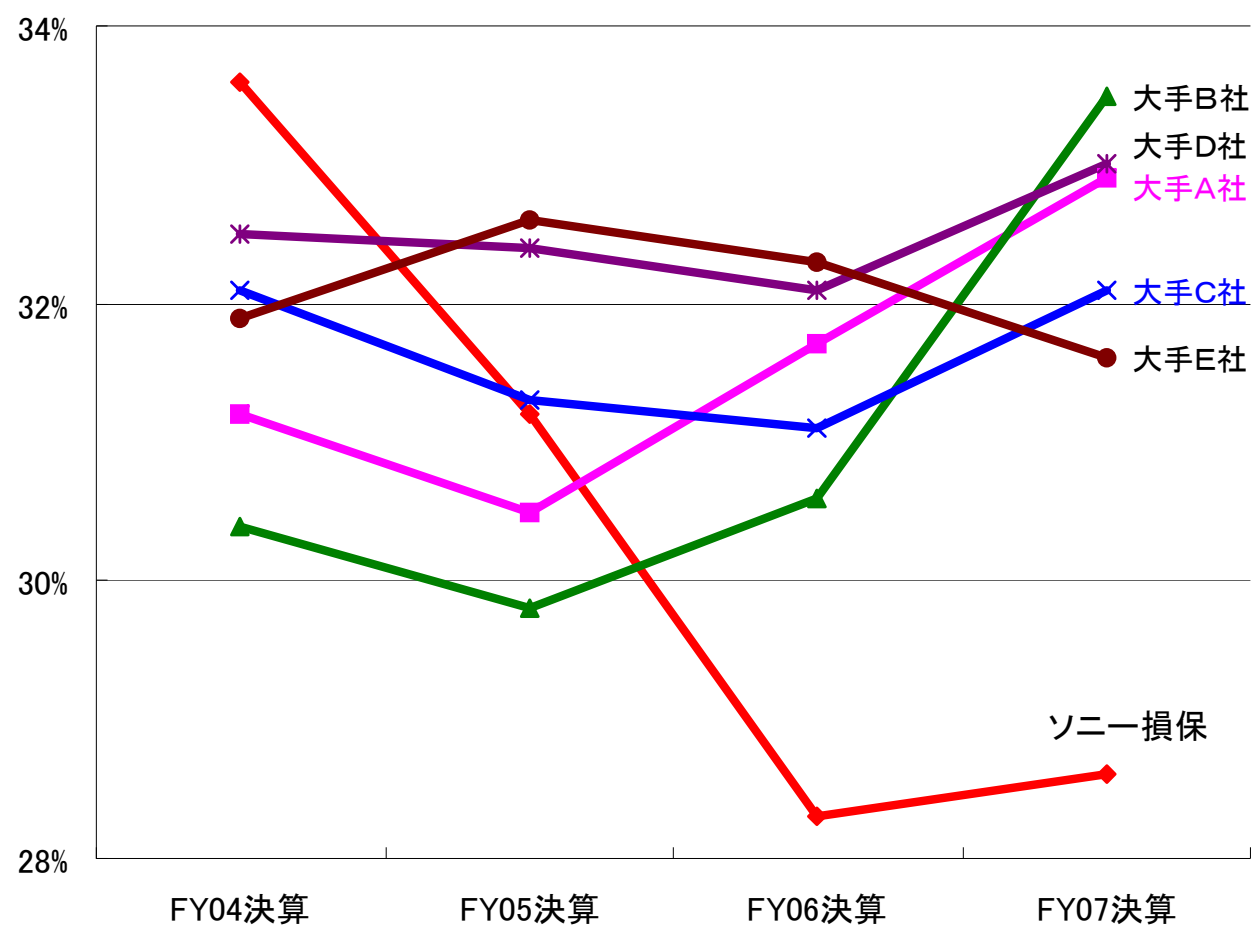
- ・継続契約の占める割合が上昇するにつれて収支は改善する
(2006年度に日本会計基準で単年度黒字化)



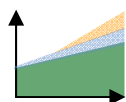


過去の事業費率の実績(自動車保険)

自動車保険正味事業費率

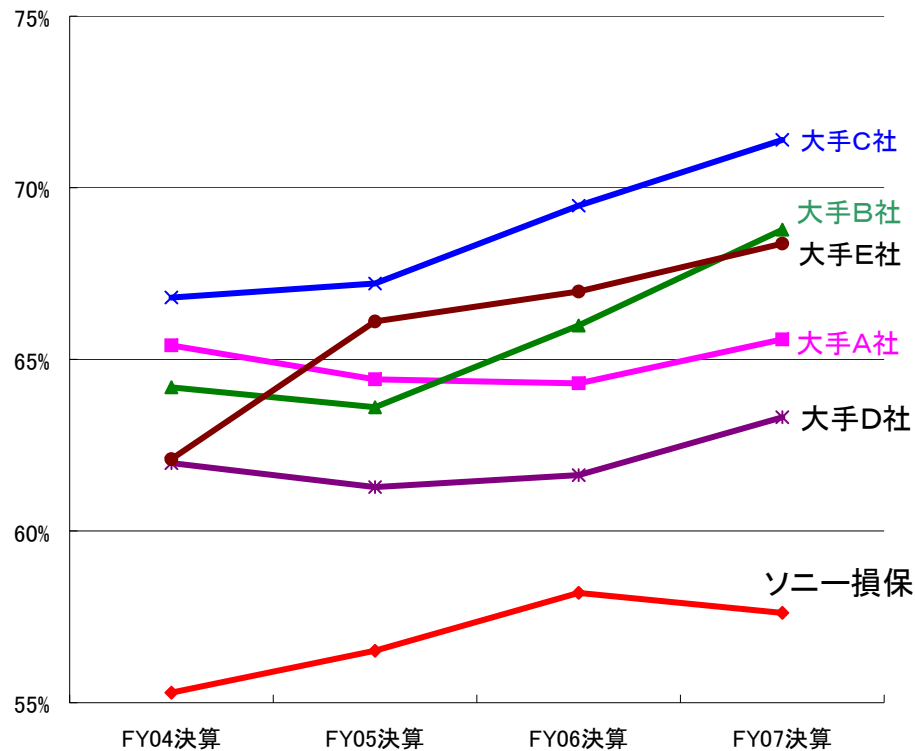


出典: 各社決算発表資料から当社作成



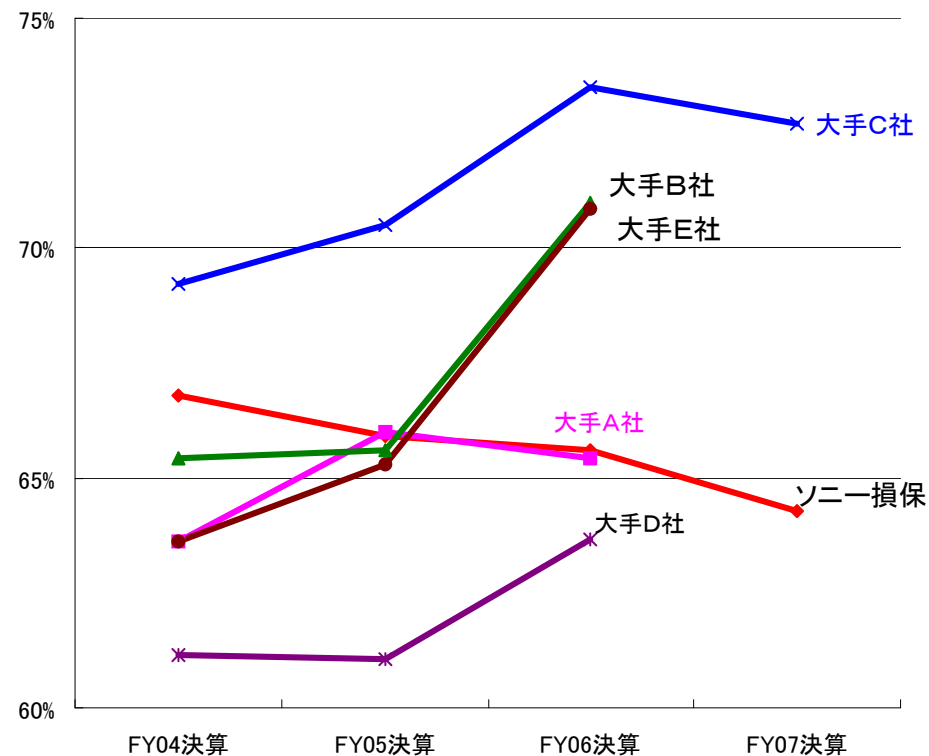
過去の損害率の実績(自動車保険)

自動車保険損害率(リトンベース)



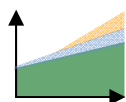
損害率 = 正味支払保険金 / 正味収入保険料
(損害調査費を含む)

自動車保険損害率(アーンドベース)



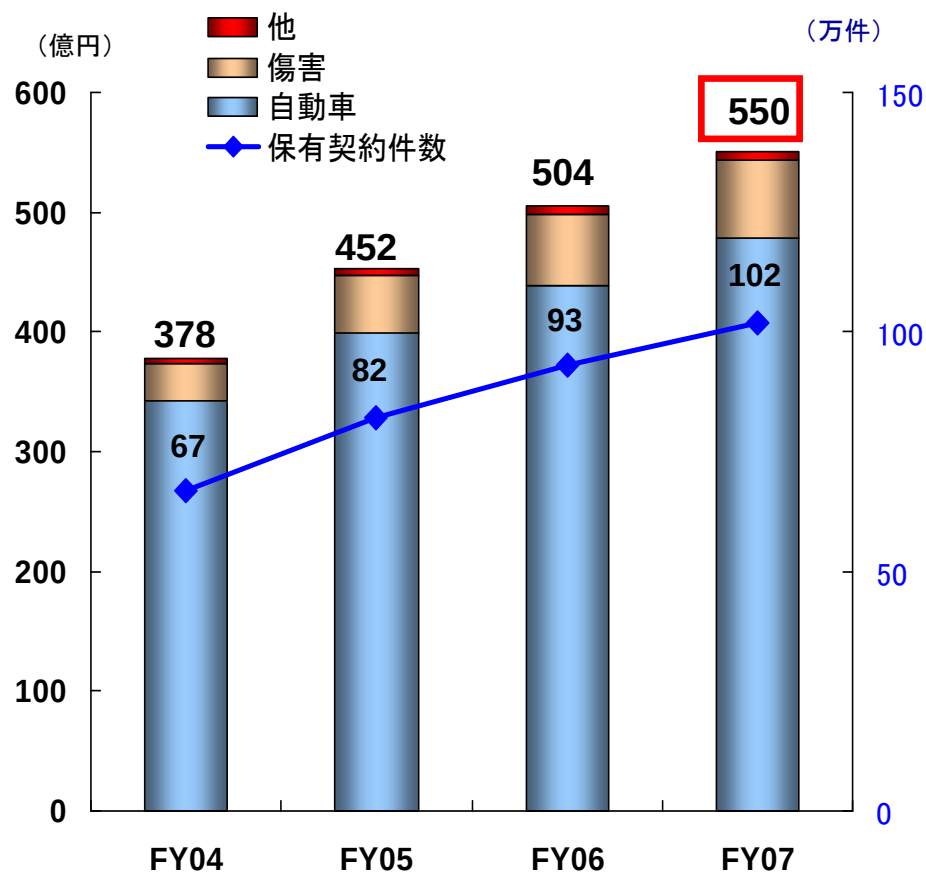
損害率 = (正味支払保険金 + 支払備金繰入額) / 既経過保険料
(損害調査費を含む)

出典: 各社決算発表資料から当社作成



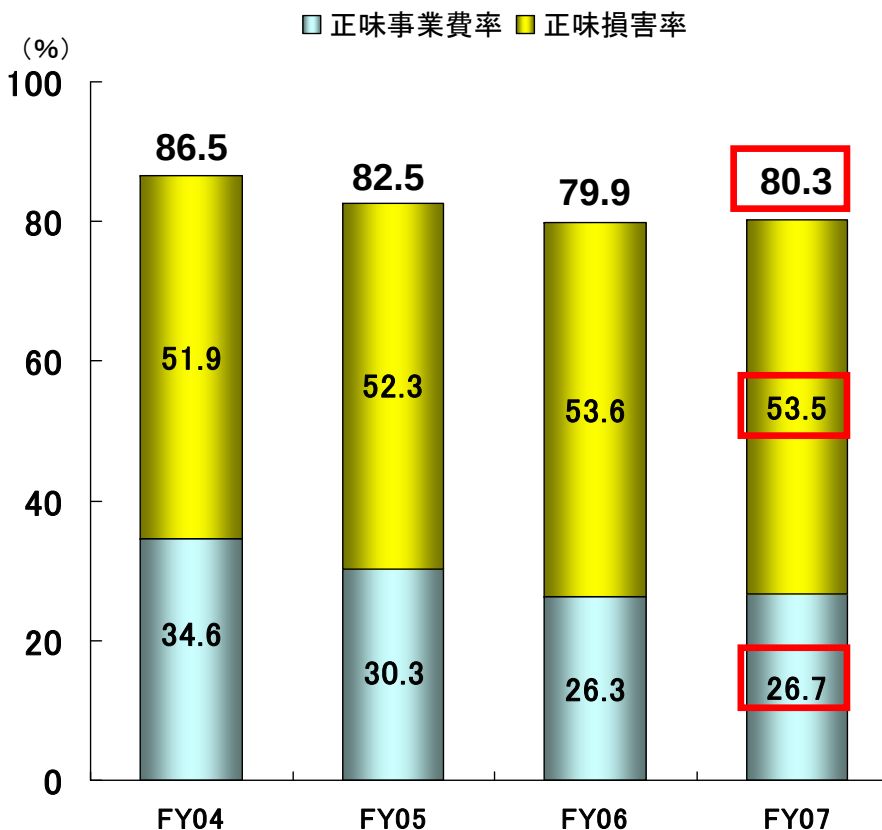
業績推移 (1)

正味収入保険料と保有契約件数

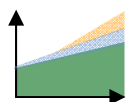


保有契約件数: 自動車保険とSUREの合計

コンバインドレシオ

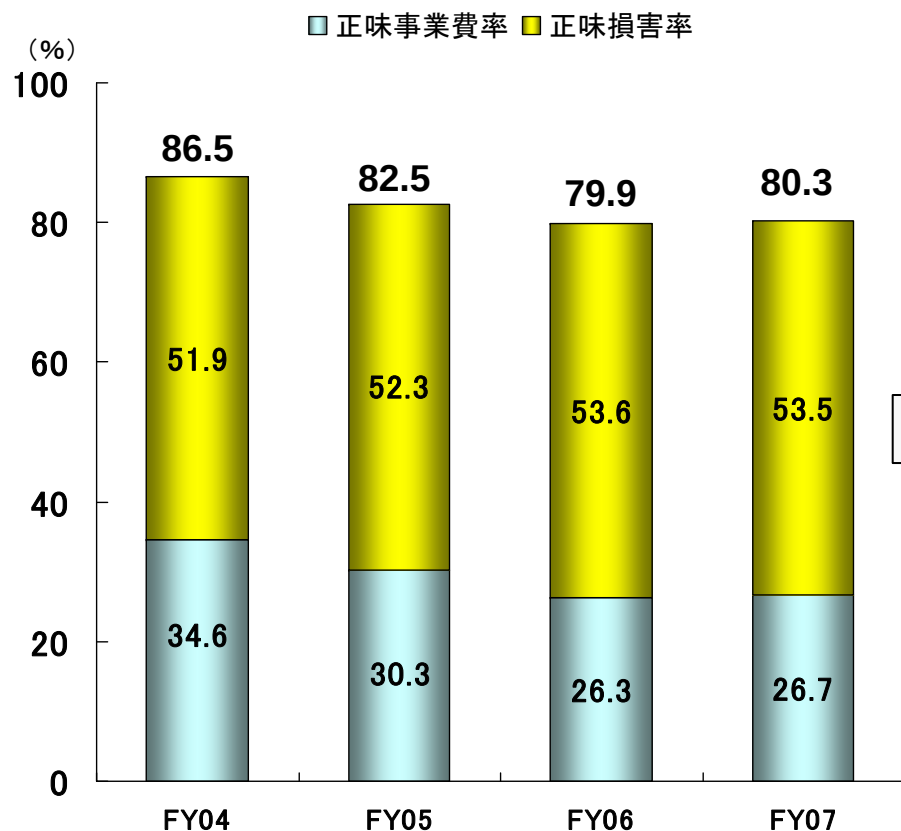


正味損害率: 損害調査費を含む



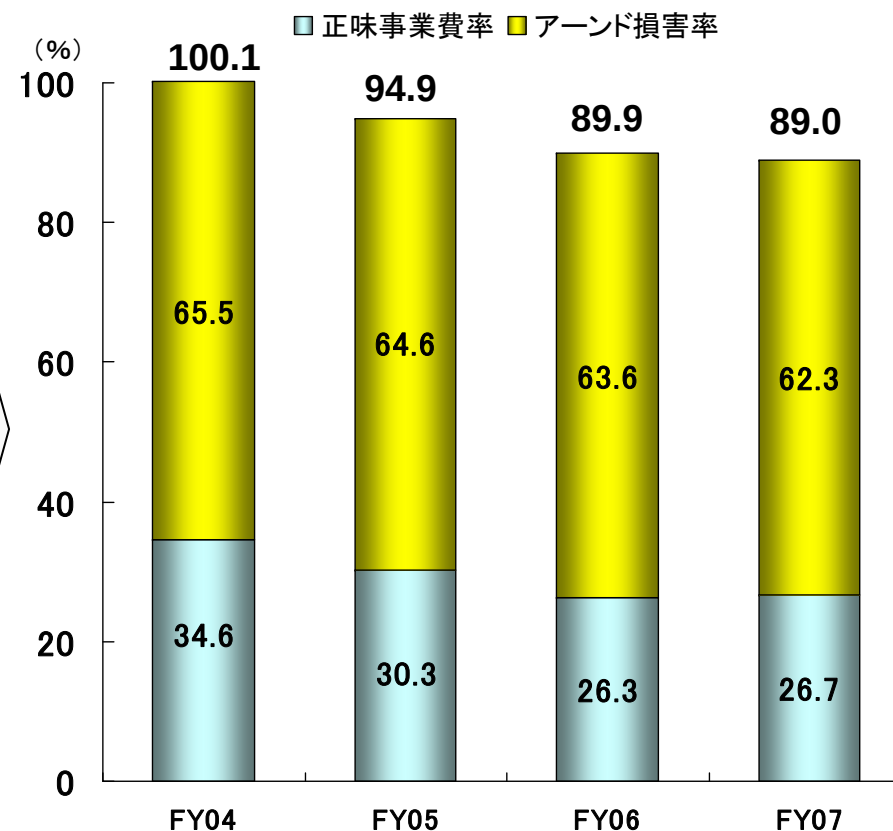
業績推移 (1) 参考

コンバインドレシオ

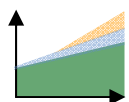


正味損害率: 損害調査費を含む

コンバインドレシオ(アード損害率使用)

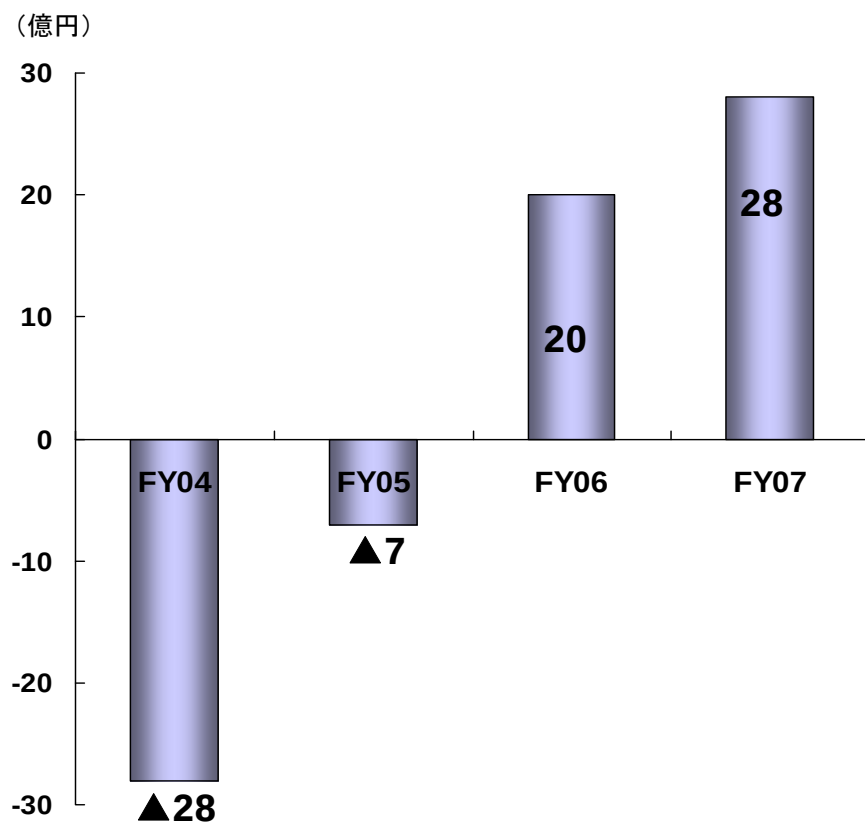


アード損害率 = $\frac{\text{正味支払保険金} + \text{損害調査費} + \text{支払備金繰入額}}{\text{既経過保険料}}$
除く地震保険、自賠責保険

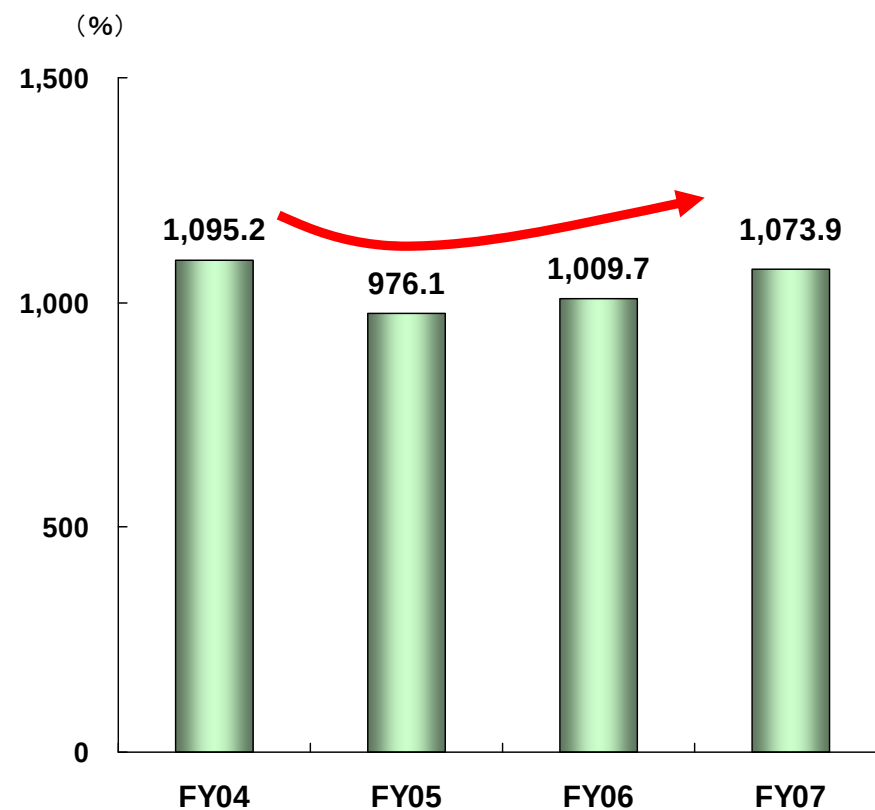


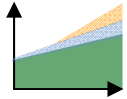
業績推移 (2)

経常利益



ソルベンシー・マージン比率



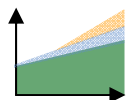


本日のご説明項目

1. ソニー損保の概要

2. ソニー損保の業績

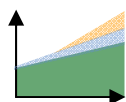
3. ソニー損保の中長期戦略



中長期目標

収益性：
修正ROE **10%** 以上を維持できる収益性を確立する

成長性：
元受正味保険料 **1000億円** をめざして成長を続ける



成長性(元受正味保険料)と健全性

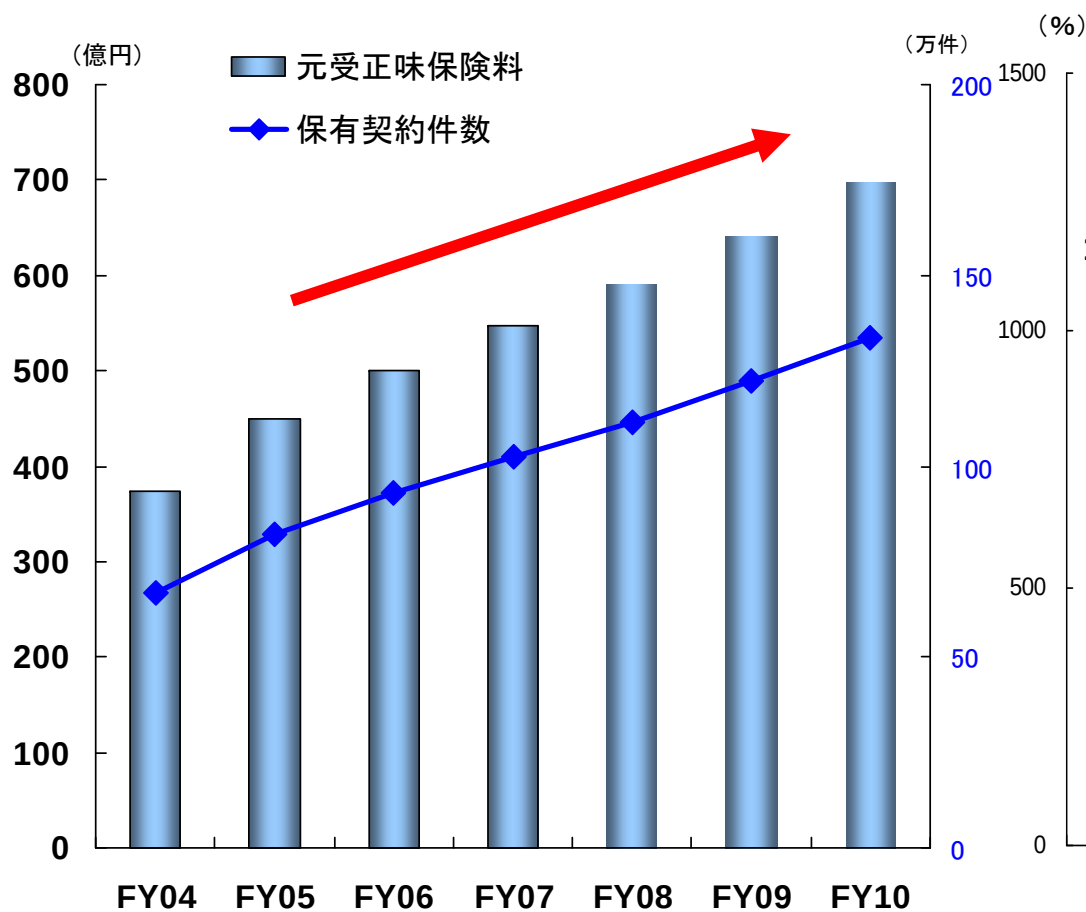
04年度 元受正味
375億円



07年度 元受正味
546億円

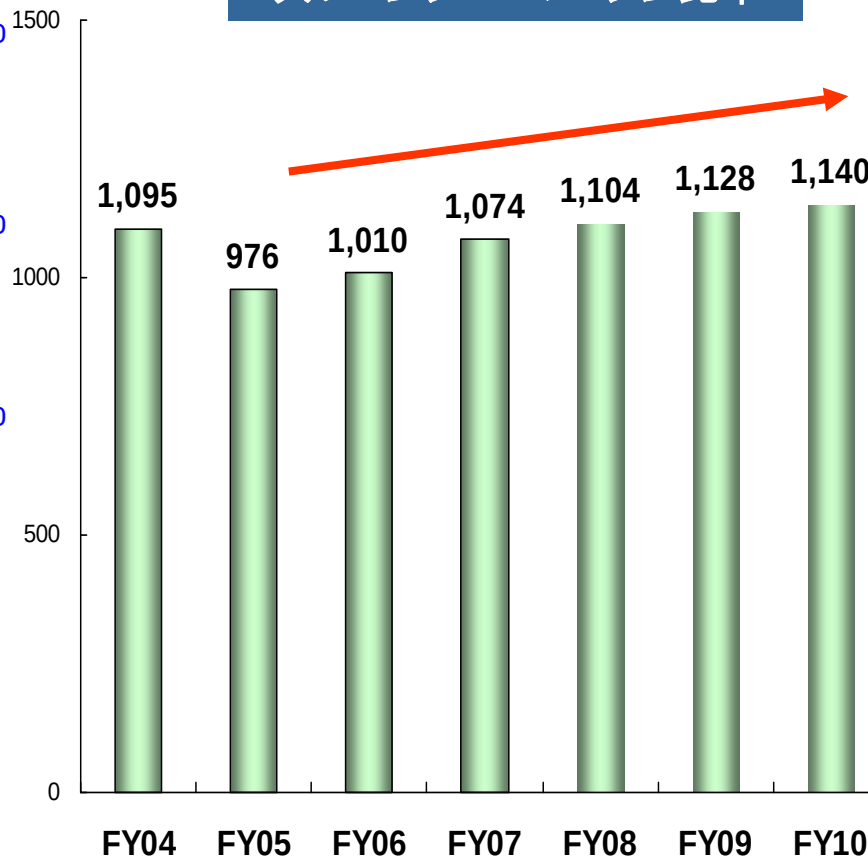


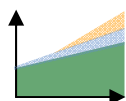
10年度 元受正味
700億円



保有契約件数 = 自動車保険+SURE

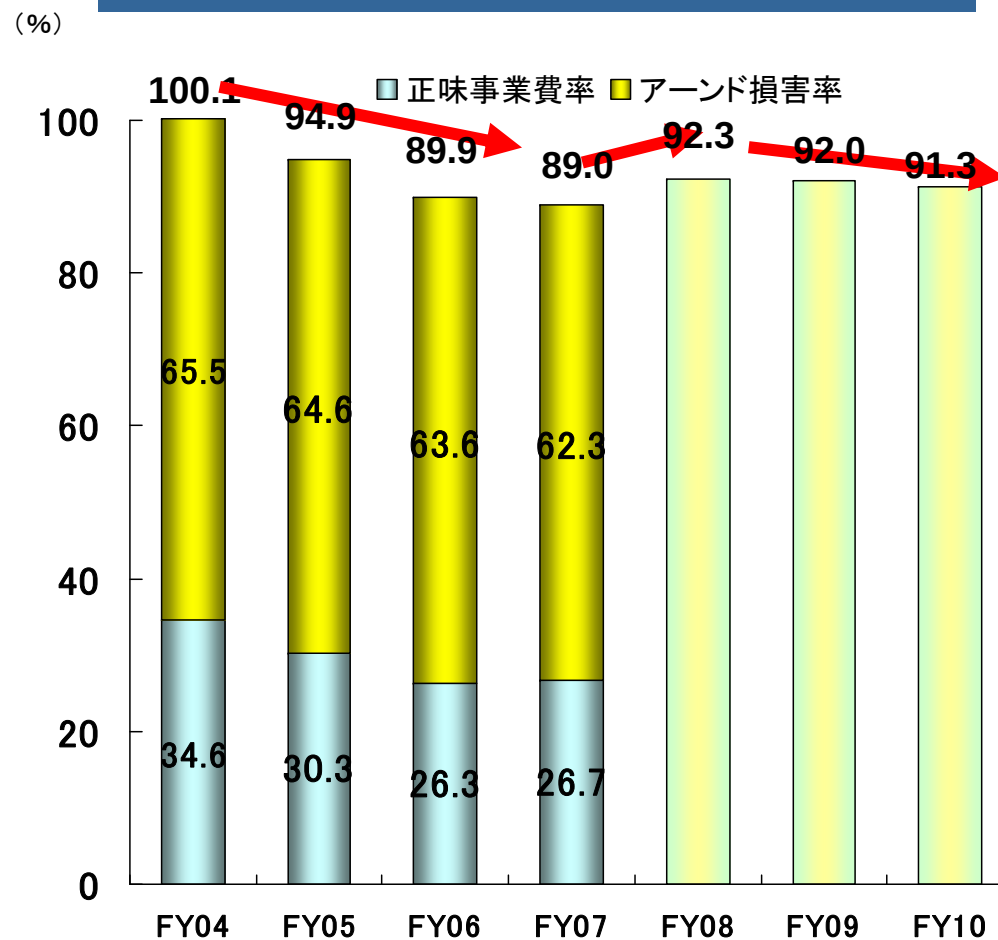
ソルベンシー・マージン比率





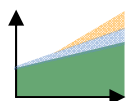
収益性:コンバイドレシオ

コンバインドレシオ(アード損害率使用)



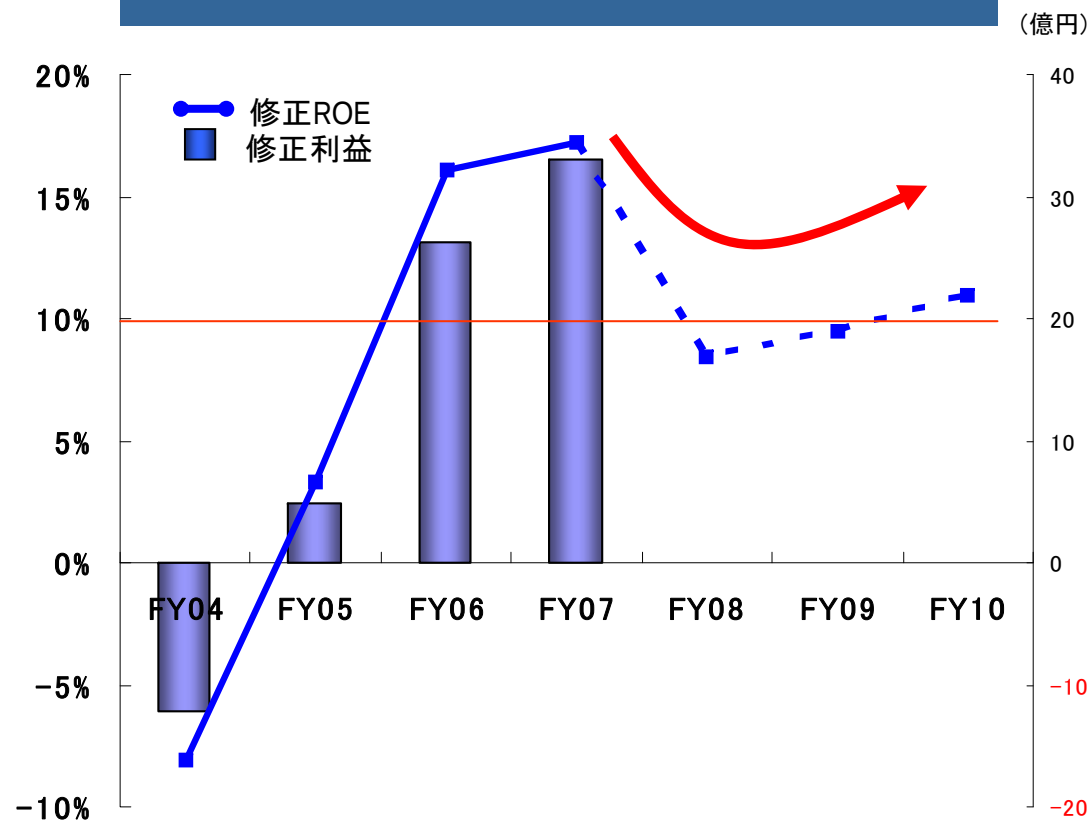
アード損害率 = $\frac{\text{正味支払保険金} + \text{損害調査費} + \text{支払備金繰入額}}{\text{既経過保険料}}$

除く地震保険、自賠責保険



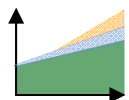
収益性:修正ROE

修正ROEと修正利益



$$\text{修正ROE} = \frac{\text{修正利益}}{\text{修正資本}}$$

修正利益 = 純利益(税後) + 異常危険準備金繰入額(税後) + 価格変動準備金繰入額(税後)
修正資本 = (純資産の部 + 異常危険準備金(税後) + 価格変動準備金(税後))の期中平均値



既存主要3事業の継続的な成長

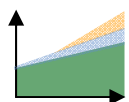


本日のご説明項目

1.ソニー銀行の概要

2.ソニー銀行の業績

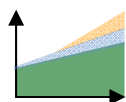
3.ソニー銀行の中期戦略



Be fair.

フェアであるということ。

- フェアである
- 日本経済の新たな成長に貢献する
- 資産運用ツールを提供する
- IT技術を最大限活用する
- 一人ひとりのお客さまのためのサービスを提供する
- より有利な商品、よりよいサービスを提供する
- インターネット・サービスのためのインフラを整備する
- 自由豁达で愉快的な業務環境を整備する



ビジネスモデル



お客さまプロフィール

性別:男性 7割
年代:30～50代 8割
地域:3大都市圏 8割



首都圏在住の
ビジネスパーソン



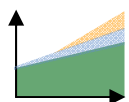
考え、調べ、行動するための
“**お金のための道具箱**”



- 円預金
- 外貨預金
- 投資信託
- 住宅ローン
- 金融商品仲介
- 人生通帳

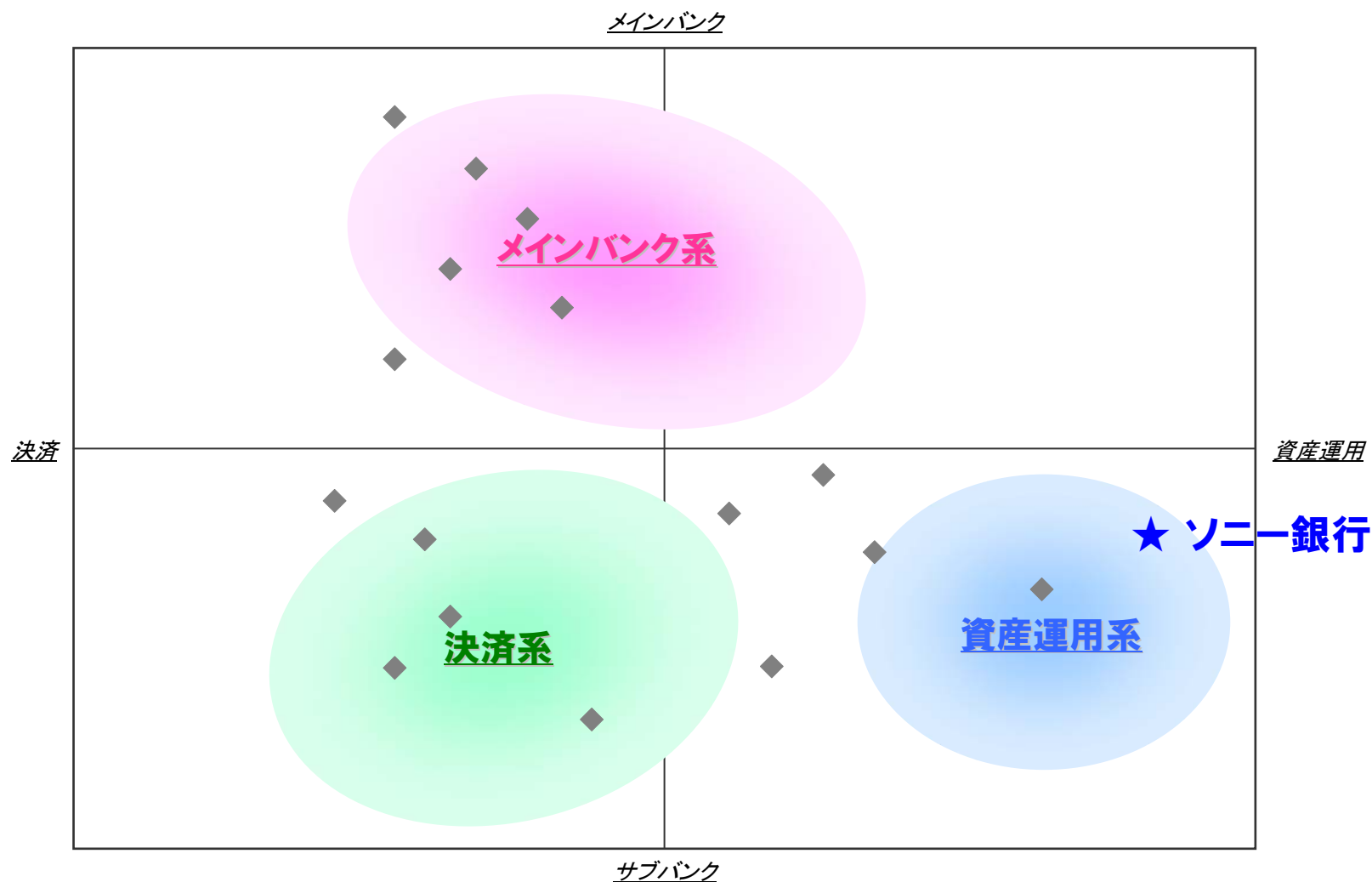


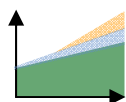
- 個人のポートフォリオのために
- イノベーティブな商品・サービスを提供し
 - ◆ 銀行と証券の連携により、半歩先ゆく新しい金融商品・サービスの提案。
- 個人の自由度を高めて
 - ◆ 時間的に、空間的に個人の自由度を高める。
24時間、自宅で銀行取引。
- 「個人と市場を近づける」
 - ◆ IT技術を活用し、よりマーケットに近い金利、価格、手数料を提示する。



マーケットポジション

「個人のための資産運用銀行」として、ユニークなポジションを保持する。

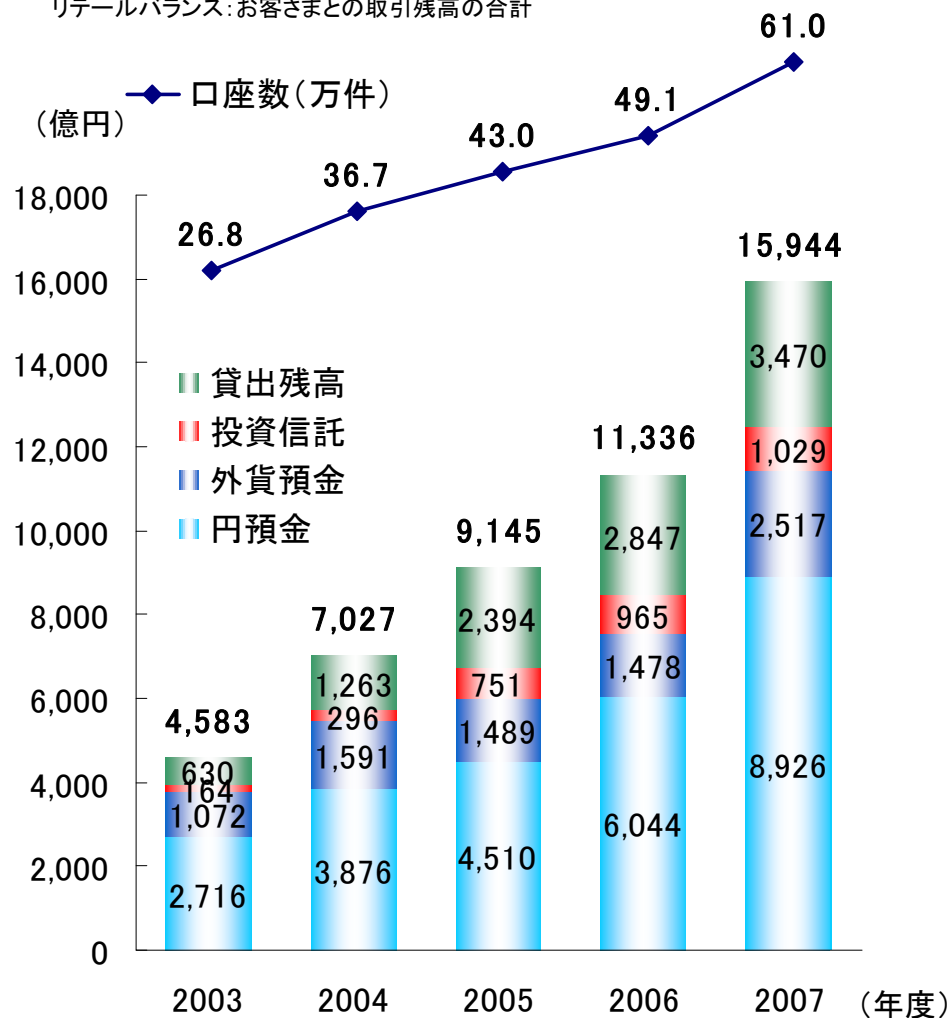




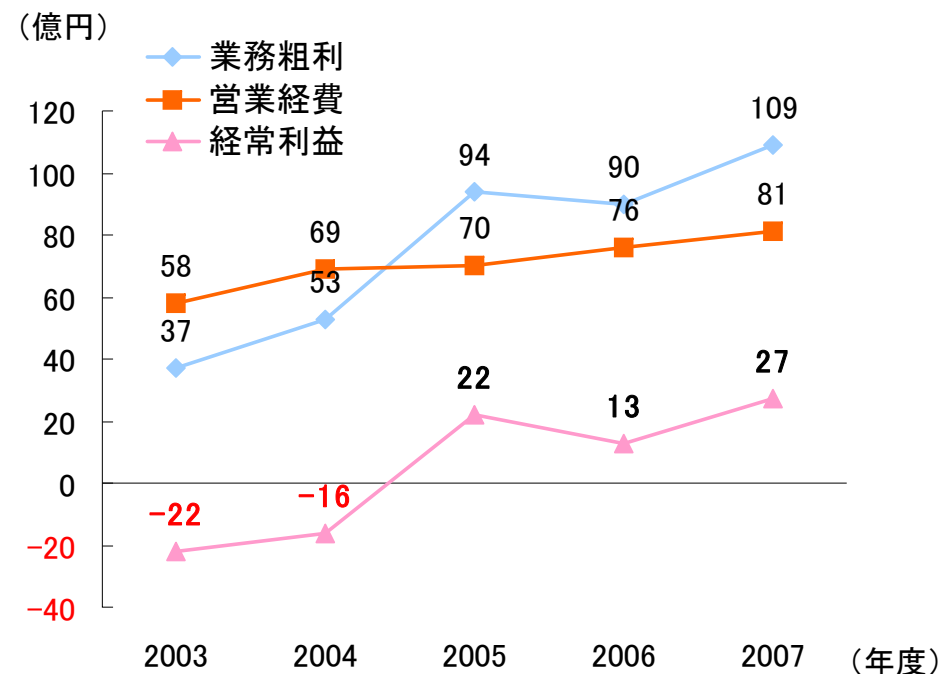
業容・利益の推移

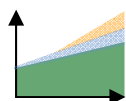
■リテールバランスの推移

リテールバランス: お客さまとの取引残高の合計



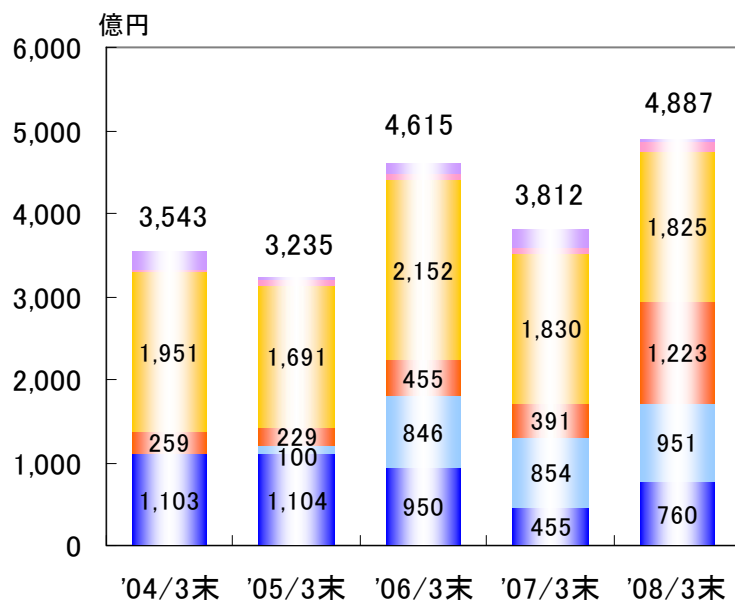
■利益の推移





有価証券残高の推移(内訳)

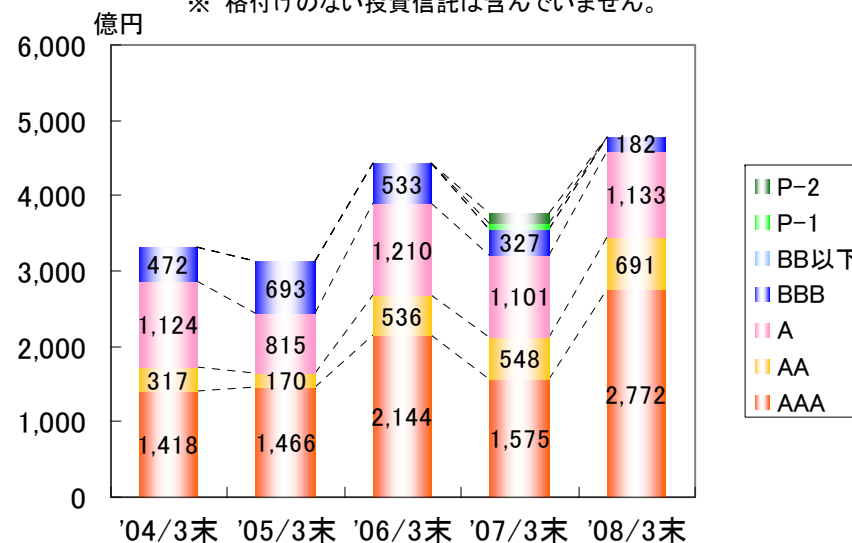
■セクター別有価証券残高



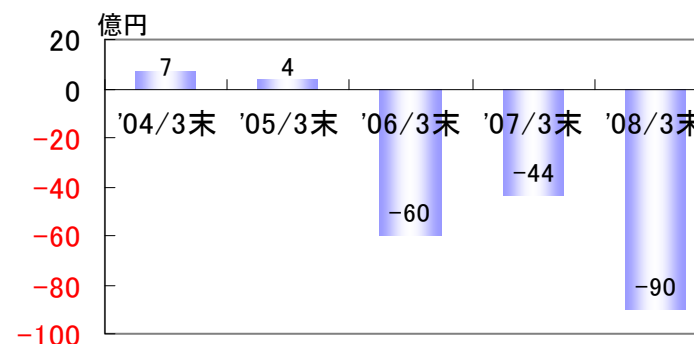
- その他
- ファンド
- 事業債・金融債
- 政府機関債・外国国債等
- 変動利付国債
- 固定利付国債

■格付別の推移

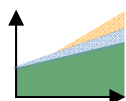
※ 格付けのない投資信託は含んでいません。



■含み損益の推移



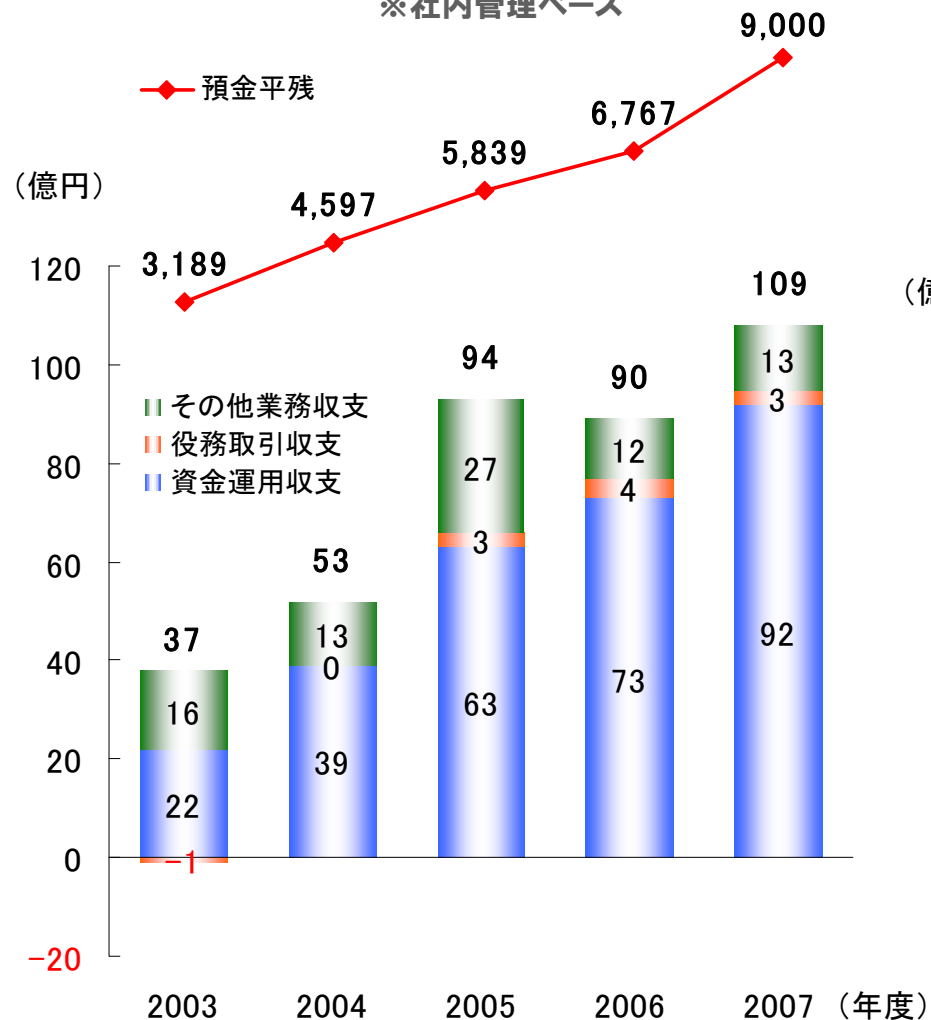
※ 有価証券残高には、「買入金銭債権」中のその他の買入金銭債権、および「預け金」中の譲渡性預け金が含まれています。



収益構造

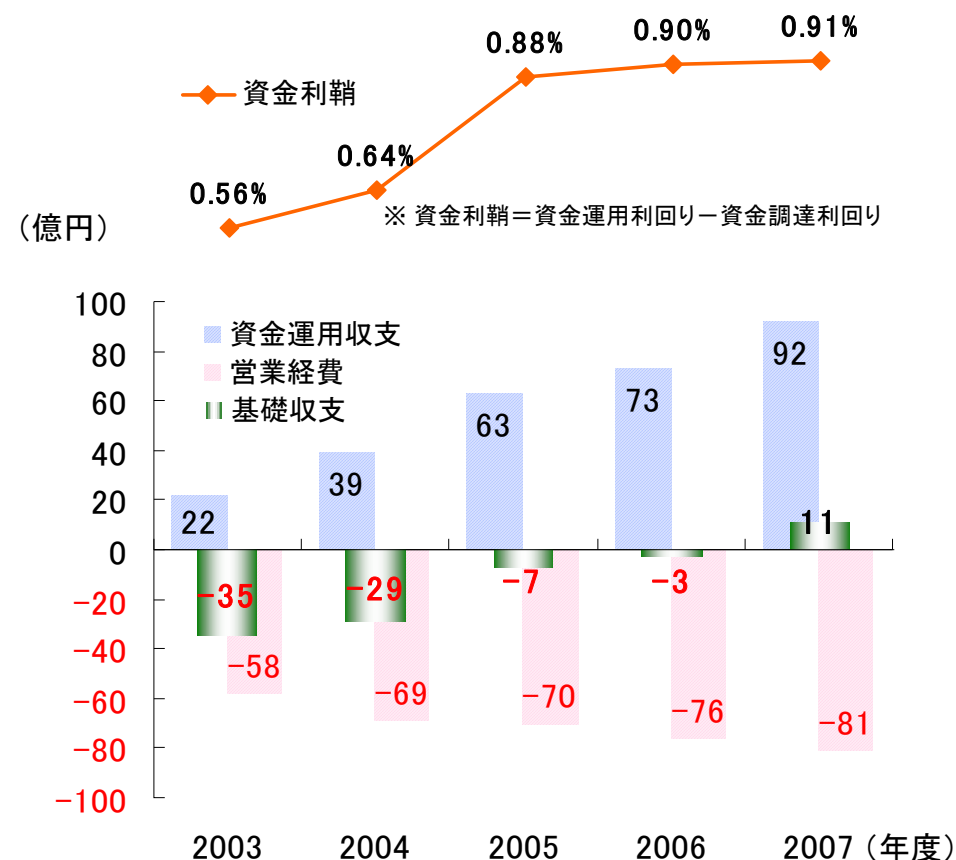
■業務粗利益の推移

※社内管理ベース

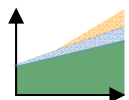


■基礎収支・資金利鞘の推移

※社内管理ベース

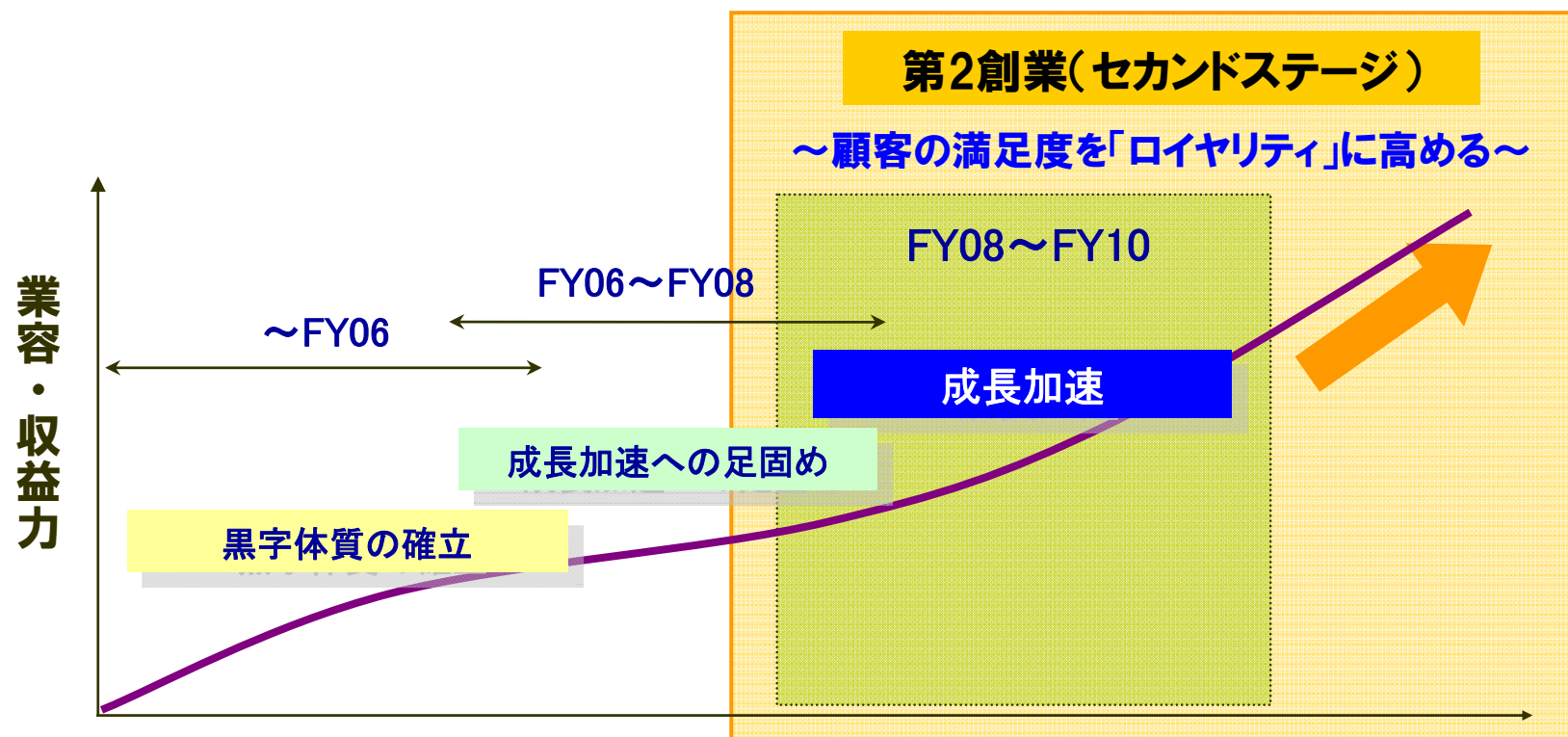


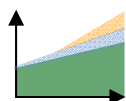
※ 社内管理ベース:財務会計上の「その他業務収支」「役務取引等収支」のうち、実質的に資金運用に関わる損益を社内の管理会計上、「資金運用収支」に振り替えたもの。



今後の経営方針：セカンドステージ ～成長の加速～

2008年度を「**第2創業**」元年と位置づけ、
企業理念の実現に向けた新たな一步を踏み出すとともに、
これまでに築き上げた経営基盤を最大限活かして、
更なる飛躍に向け**成長を加速**する。





中期 経営目標・経営方針・重点施策

■中期経営目標

“顧客満足度
ダントツ No.1 銀行”
としての地位の確立

■中期経営方針

- 成長の加速
- 資産運用銀行として確固たるプレゼンスの確立
- 一層の効率化
- お客さまとの間に一段と高いwin-winの関係を構築

■中期重点施策

商品サービスの強化

- ① ユニークポジションの保持
- ② 顧客からの圧倒的な支持の獲得
- ③ 既存顧客を基盤にした新規顧客開拓

ALMの向上

- ① BS全体の観点で「全体最適」のALMへと進化する。
- ② 資本配賦の最適化により、ROEの向上を図る。
- ③ 成長の加速を踏まえ運用力を強化する。

信頼性の向上

各ステークホルダーからの信頼を高め、一段と高いレベルでのwin-winの関係を構築する。

- ① オペレーショナルエクセレンスの実現
- ② 環境活動への取組
- ③ 収益性と健全性の両立
- ④ 経営管理態勢の強化

■計数目標(連結ベース)

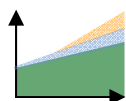
◆2007年度

ROE※	4.0%
自己資本比率	9.11%
リテールバランス	15,944億円

※ 税効果補正(実効税率40%として計算)後の実質的なROE。財務会計上のROEは11.5%。

◆2010年度

ROE	8%超
自己資本比率	10%程度
リテールバランス	26,000億円



お客さまの資産運用ニーズに応える

■ソニー銀行の仮説(開業時)

個人はリスクを嫌うと言われるが、もっと自由に、もっと市場に近い水準での取引を実現すれば、ある程度のリスクをとってでも、外貨預金の高い金利を享受したいというニーズがあるはずだ

- インターネットで24時間365日取引可能
- 市場レート連動する取引レートを常時提示
- 為替手数料1米ドルあたり片道25銭

■運用スタイルの変化

外貨定期預金の高金利による中長期の運用スタイルに加え、為替変動にあわせた売買で為替差益を得る短期の運用スタイルが出現

■ニーズの進化

- 為替のヘッジ手段がほしい
- 円高でも収益をあげたい
- より低い為替手数料

～ FX業者の台頭 ～

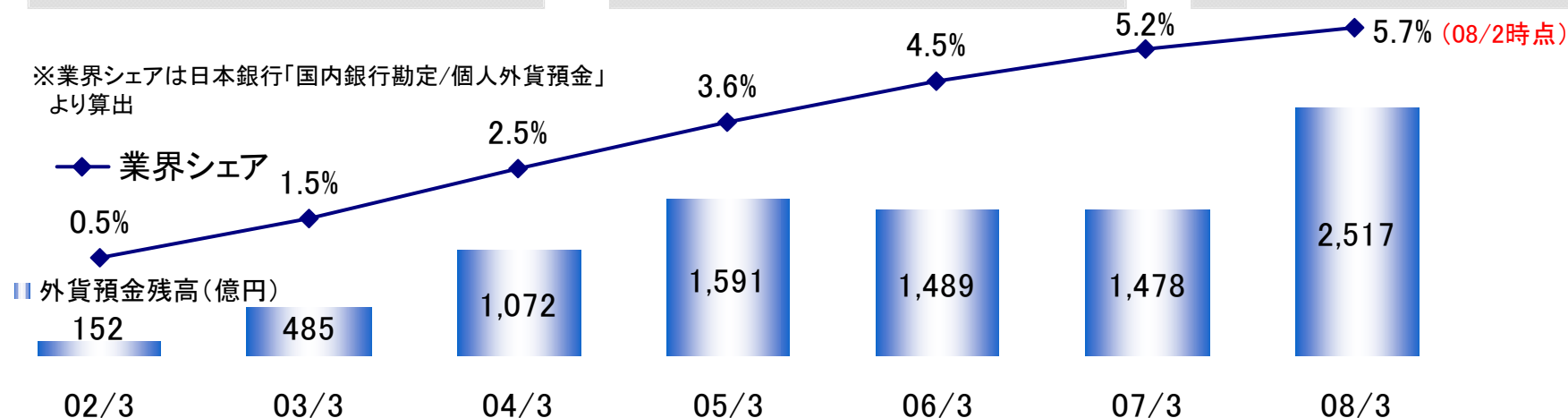
■ソニー銀行の対応

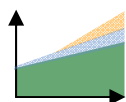
残高に応じて為替手数料を優遇する「外貨預金優遇制度」を2007年8月より開始

2008年5月

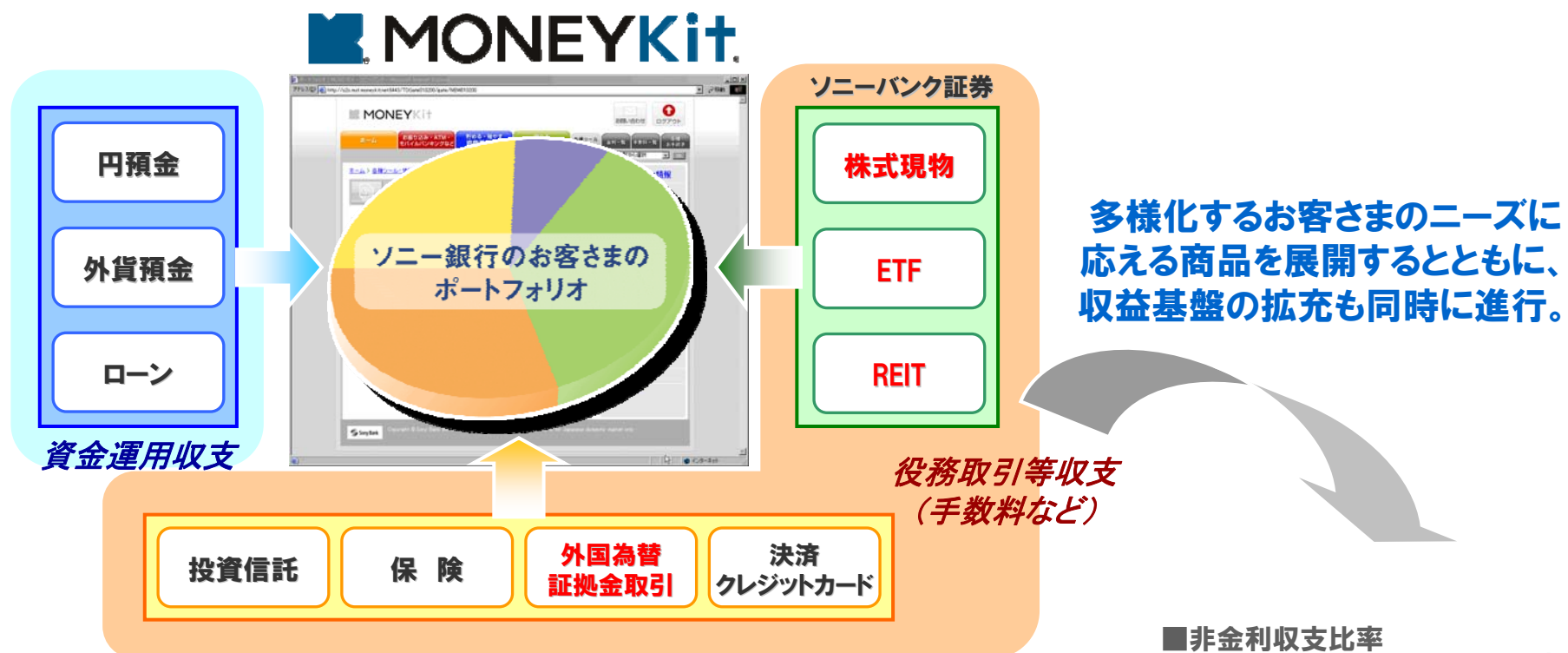
「外国為替証拠金取引」を開始

- 1銭ごとのレート設定
- 外貨普通預金からリアルタイムでの資金移動
- 豊富な情報コンテンツ





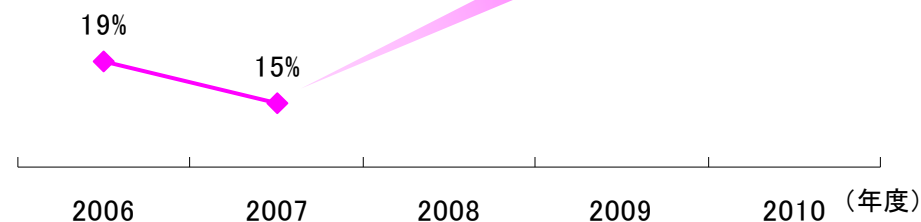
商品・サービスの拡張とともに収益基盤を拡充

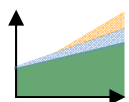


役務取引等収支
(手数料など)

■非金利収支比率

30%超

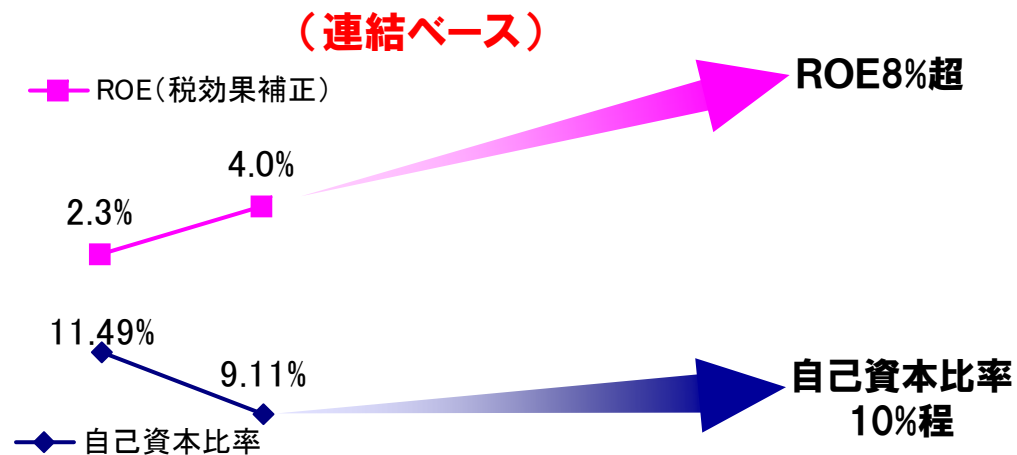




収益性と健全性の両立

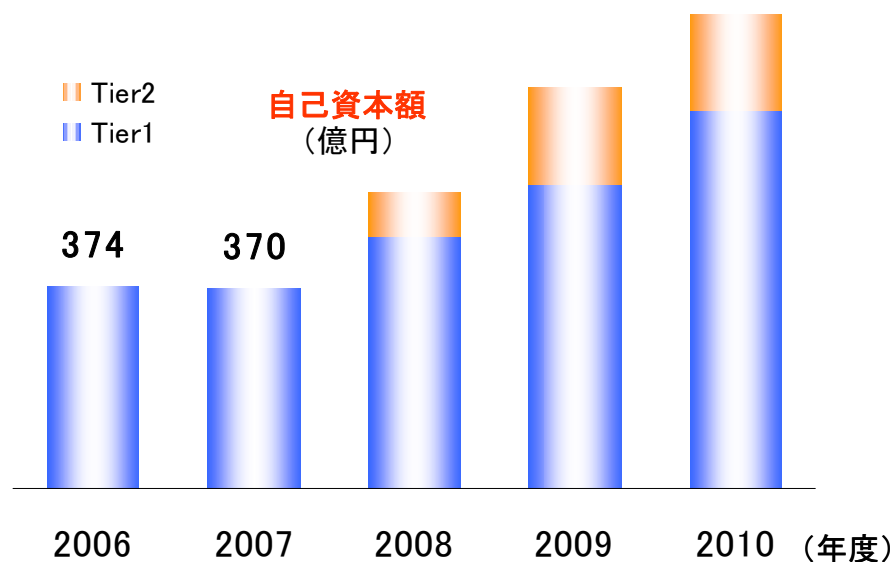
○ROEの改善

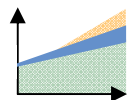
- 業容拡大による効率化
- 資金利鞘の改善
- 非金利収支比率の改善



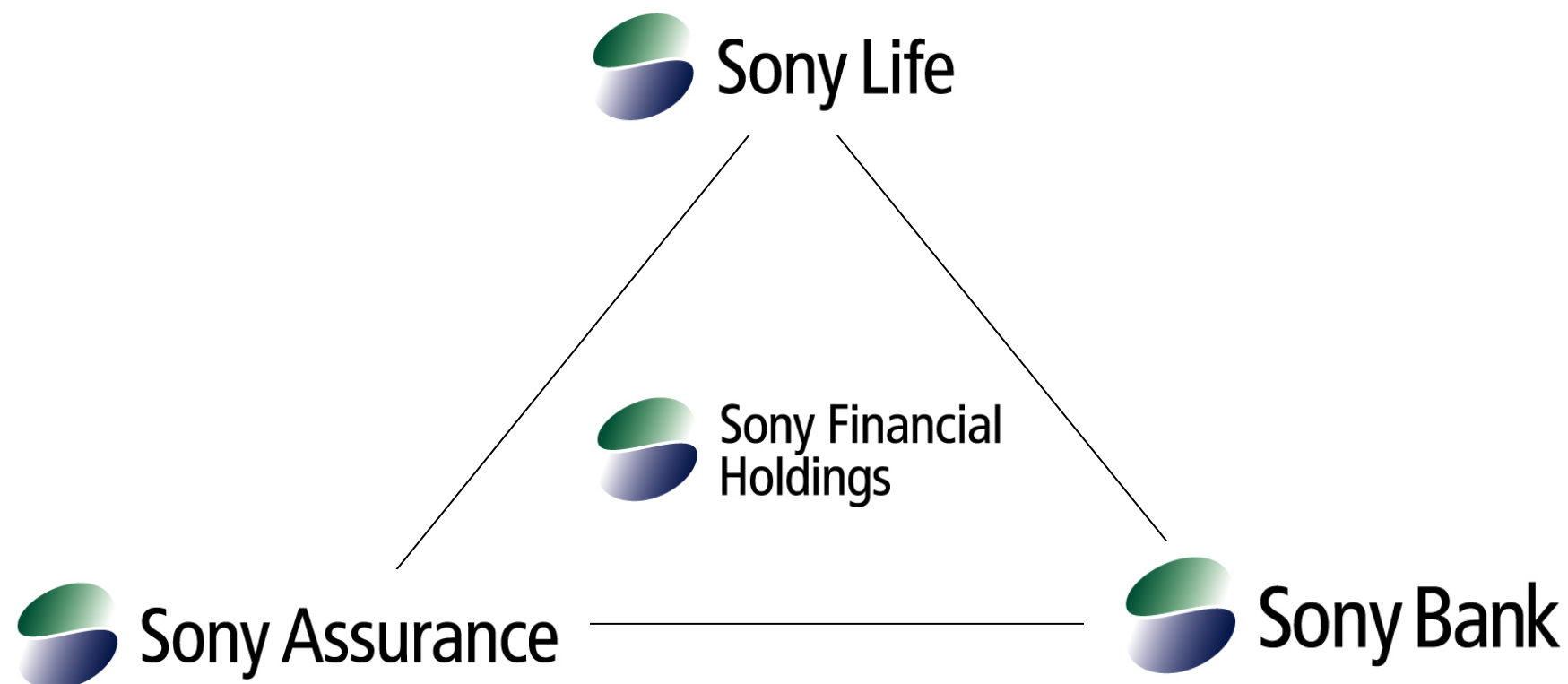
○自己資本比率の維持

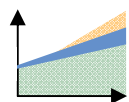
- 成長の加速を踏まえた、適時適切な資本増強
- 劣後資本(Tier2)の活用





グループシナジー

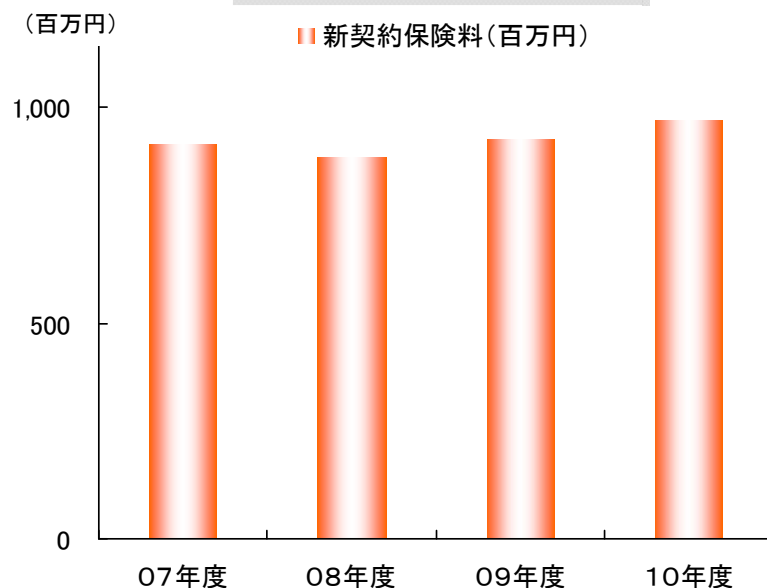




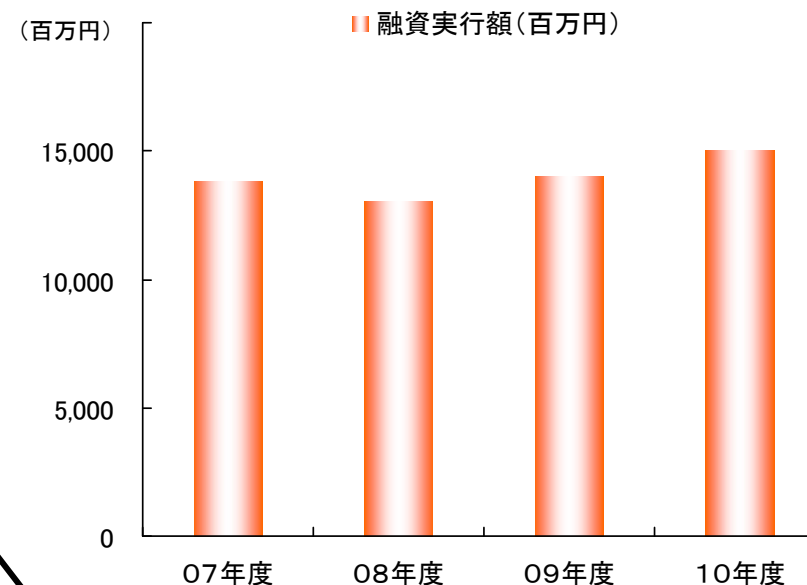
グループシナジー

- 自動車保険・住宅ローンについては、ライフプランナーチャネル(LP)を活用したクロスセルが収益貢献定着化
- 火災保険、団体信用保険、年金保険の相互供給も継続実施中
- 07年12月の銀行窓販全面解禁を受けて、更にグループ内での対象商品を拡大
- クロスセル以外のグループシナジーも継続検討する

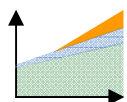
自動車保険（LP経由）



住宅ローン（LP経由）



* いずれも08年度以降は目標



新規事業分野への進出

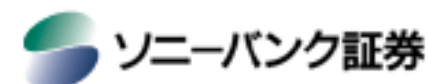
■ 【ソニー生命】AEGONとのJV年金保険子会社設立へ

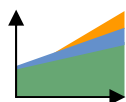
- ◆ 昨年準備会社としてのソニーライフエイゴンプランニングを設立
- ◆ 5月にSFHからソニー生命に対して100億円を増資する方針を決議
- ◆ 当初資本金200億円(50:50) *資本準備金を含む



■ 【ソニー銀行】証券子会社を07年10月開業

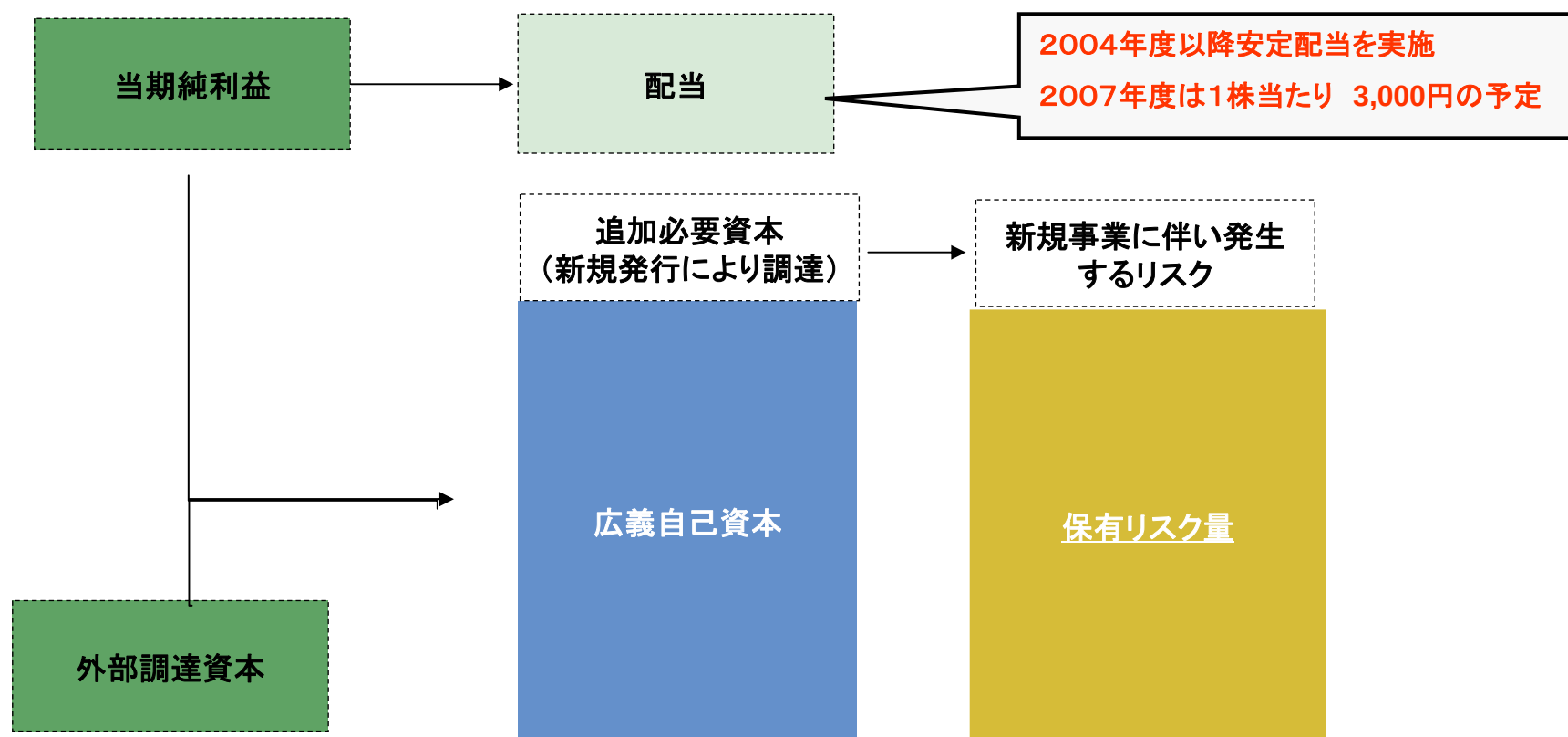
- ◆ 口座開設申し込み受付開始日 : 2007年10月1日
- ◆ 国内現物株式取引開始日 : 2007年10月15日
- ◆ 2008年3月末証券口座数 : 11,883件
- ◆ 2008年3月末預り資産残高 : 3,899百万円
- ◆ 銀証連携による新たな証券会社ビジネスの確立を目指して設立
- ◆ 銀行には取り扱いえない資産運用商品を用意して多様なラインアップを構築

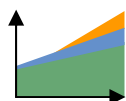




資本政策／配当政策の件

- ◆ グループとして保有しているリスク量を的確に把握し、これに対応する自己資本を確保する
- ◆ 金融機関としての健全性を確保した上で、業界動向と当社の実績トレンドを勘案し、株主への配当を安定的に実施することを基本方針とする





FY08連結業績予想

(単位: 億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

	FY04	FY05	FY06	FY07	FY08 (中間期予想)	FY08 (通期予想)	増減率 FY07 vs FY08(通期)
連結経常収益	6,532	7,587	7,592	8,221	4,300	8,840	+ 7.5%
うち生命保険事業	6,040	6,964	6,895	7,413	3,860	7,930	+ 7.0%
うち損害保険事業	381	457	510	556	300	598	+ 7.5%
うち銀行事業	113	172	194	259	144	307	+ 18.5%
連結経常利益	122	253	183	445	180	370	▲16.9%
うち生命保険事業	170	243	148	390	170	340	▲ 13.0%
うち損害保険事業	▲28	▲7	20	28	6	13	▲53.9%
うち銀行事業	▲16	22	13	24	5	13	▲ 45.9%
連結当期純利益	63	115	100	242	100	210	▲13.4%

<補足>

各事業ともに、業容が順調に拡大し、経常収益は増収を見込む。ただし、経常利益については、主に下記の要因により減益を見込む。

■生命保険事業

一般勘定運用利回りは、前年度を下回る見込み

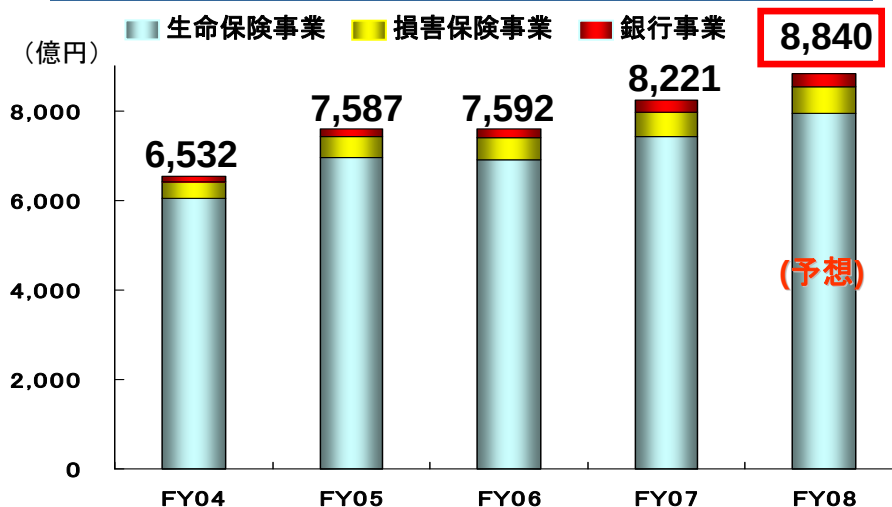
■損害保険事業

システム関連費用の増加などにより事業費率がやや上昇

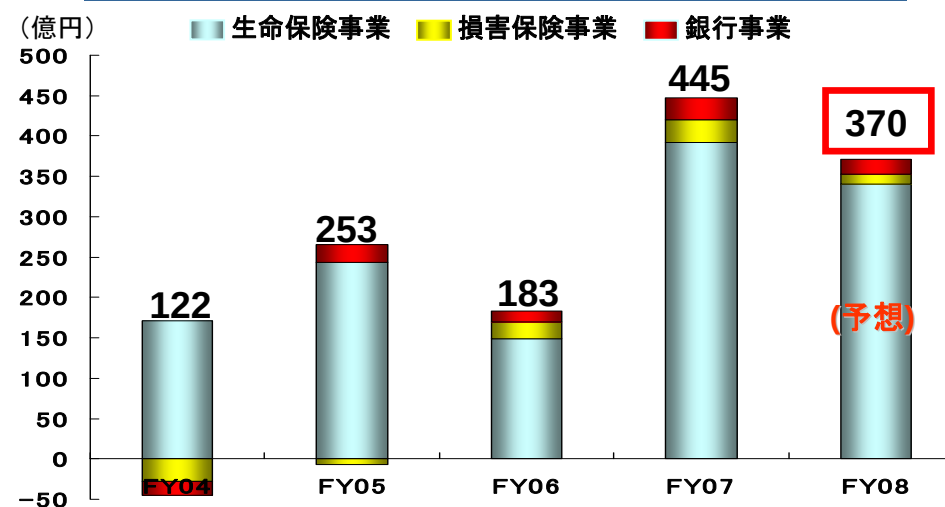
■銀行事業

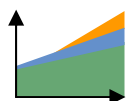
システム関連費用などの増加やソニーバンク証券の創業赤字、のれん償却等

連結経常収益



連結経常利益





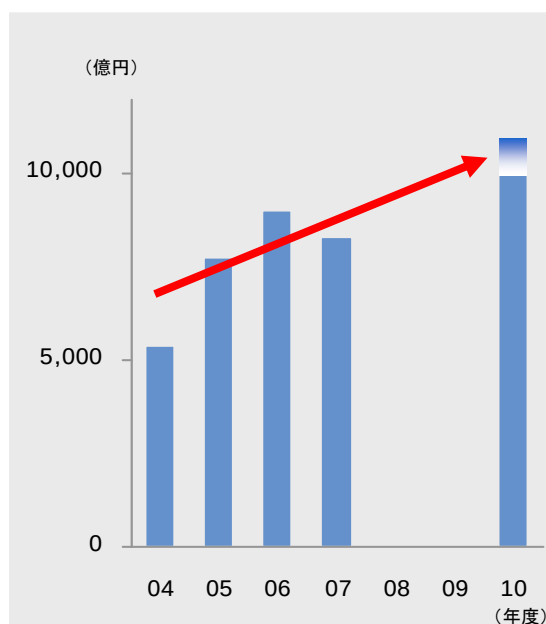
中期経営目標(2010年度)

主要経営指標

- 連結経常収益／連結経常利益／連結当期純利益
- 連結修正ROE

ソニー生命 エンベディッド・バリュー

2010年度で EV 1～1.1兆円を目指す

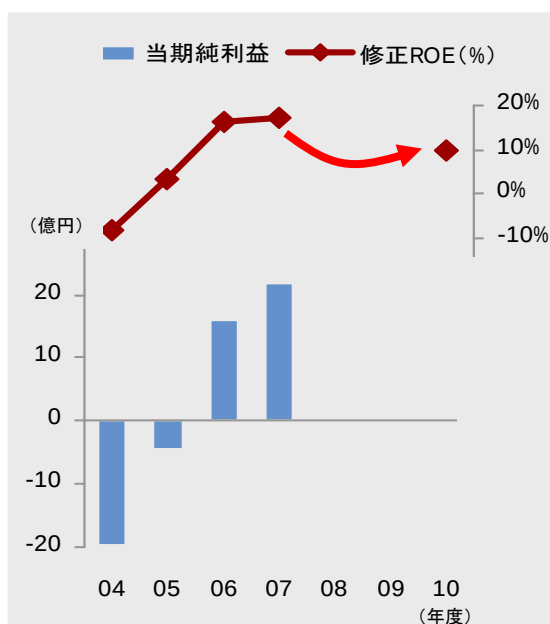


【出所】ソニー生命

注: 修正ROE: 以下の分子を分母で除した値として算出
分子: 年間EV(エンベディッドバリュー)増加額に
配当額を加えた値
分母: (前年度EV-配当額+今年度EV)の平均値

ソニー損保 当期純利益と修正ROE

修正ROE 10% 以上維持を目指す

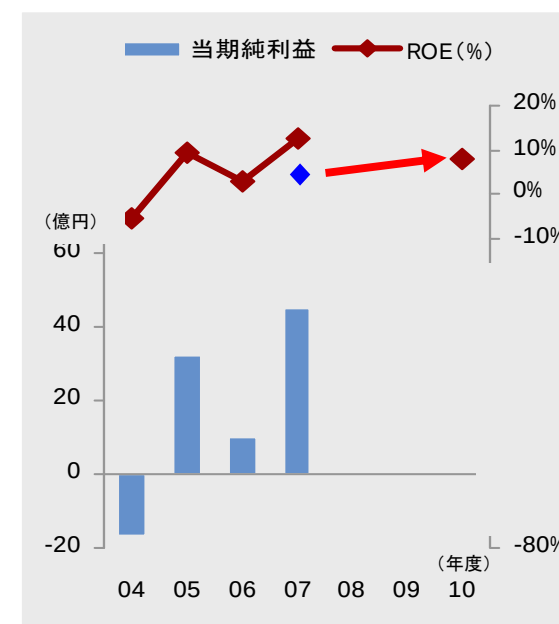


【出所】ソニー損保

注: 修正ROE: 以下の分子を分母で除した値として算出
分子: 当期純利益+異常危険準備金繰入額(税後)
+ 価格変動準備金繰入額(税後)
分母: (純資産の部+異常危険準備金(税後)+
価格変動準備金(税後))の期中平均値

ソニー銀行 当期純利益とROE

ROE 8% 以上を目指す

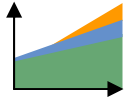


【出所】ソニー銀行

注: ROE: 当期純利益を純資産の部の期中平均値で除した値

◆ 税効果補正後のROE (FY07=4.0%)

以上



補足資料

ソニー(株)連結の金融分野との会計処理の比較 (日米会計基準における損益面の主な差異について)

*SFH=ソニーフィナンシャルホールディングス(株)

	ソニー(株)連結の金融分野 (米国会計基準準拠)	SFH* 連結 (日本の会計基準準拠)
新契約獲得費用の取扱い (主に生命保険事業)	新規保険契約の獲得に関連し、かつそれに 応じて変動する費用のうち、保険契約期間 中に回収できると認められるものについて は繰り延べ。	発生年度の期間費用として処理。
責任準備金(保険契約債務)の算定 方法 (主に生命保険事業)	米国会計基準に準拠した保険数理上の諸 数値に基づく平準純保険料式により計算。	金融庁の認める方式により算定。 契約者保護の観点を重視し、早期に責任 準備金の積立を充実させる考え方にに基づき 算定。
保有する転換社債の時価評価の 取扱い (主に生命保険事業)	デリバティブを組込んだ「複合金融商品」と して、公正価額変動(時価の変動額)を P/L(損益計算書)において損益計上。	公正価額変動をB/S(貸借対照表)の純 資産の増減として計上。

(注1) 日米会計基準の差異に係る上記の項目は、2007年度のSFHの連結経常利益において、大きな差異が生じると考えられる
ものです。

(注2) ソニー(株)連結の金融分野とSFH連結とでは、連結業績の対象範囲が以下の通り異なります。

・ソニー(株)連結の金融分野(参考): ソニー生命保険(株)、ソニー損害保険(株)、ソニー銀行(株)、
(株)ソニーファイナンスインターナショナル等

・SFH連結: ソニー生命保険(株)、ソニー損害保険(株)、ソニー銀行(株)、ソニーバンク証券(株)、
Sony Life Insurance (Philippines) Corporation

(注3) 保有する転換社債(CB)が株式に転換された場合、米国の会計処理では転換日の株式の市場価格で簿価を認識するの
に対して、日本の会計処理ではCBの取得価額を転換後も簿価として引継ぎます。そのため、CBを転換して取得した株式に
ついて認識される、売却損益額(売却価額と簿価の差額) および減損額(時価と簿価の差額)が、結果的に異なります。



お問い合わせ先:

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部

TEL: 03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部

TEL: 03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部

TEL: 03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当

TEL: 03-6230-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、一般および報道関係からの方からの
お問合せで、個別各社の事業に関することは各社広報窓口までお願いいたします